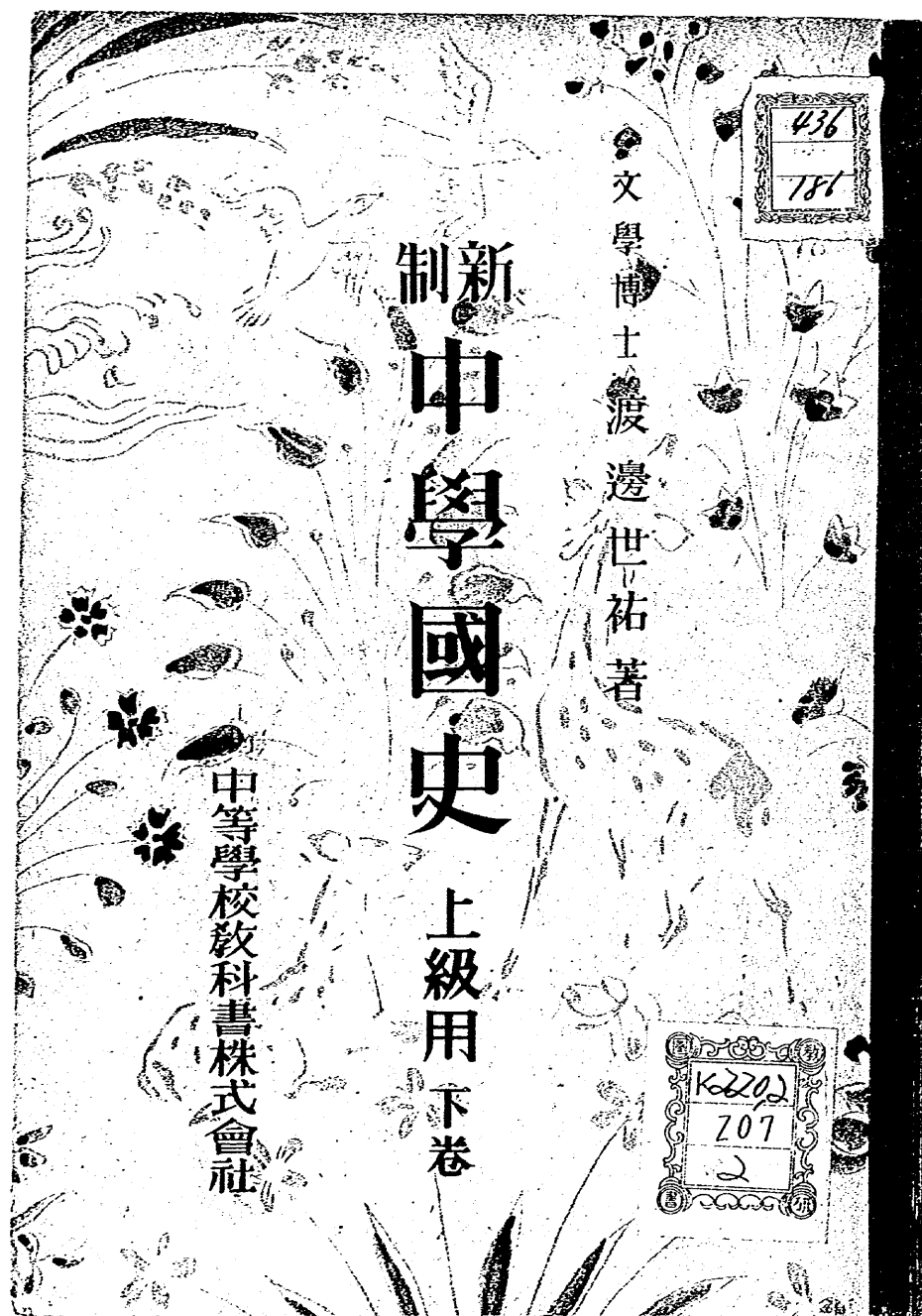


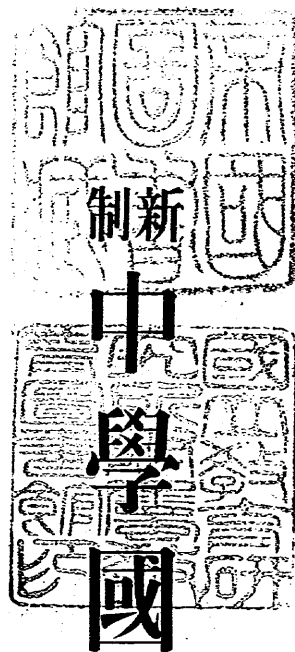


K220.2

207

2

文學博士 渡邊世祐著



新制
中學
國史

上級用
下卷



中等學校教科書株式會社

緒言

本書は昭和十二年三月改正の文部省新教授要目に準據し、中學校國史教科書上級用として、編纂せるものである。編纂に當り左の諸點に特に留意した。

一、學生をして特に國體觀念を理解し、尊王精神を基調とする舉國一致の國民的自覺を一層鞏固にし、新時代に即する公民的見識の涵養をなさしめることに最も注意を拂つた。

二、初級用と關聯し、更に東洋史・西洋史の既得の知識を綜合して、國史の觀點を明瞭にし、政治社會文化の全般に亘り最も重大な問題につき、歴史的意義を十分徹底せしむるに努めた。これにより我が國體の精華、國民性並びに國民文化の特色等を明確にし、全體としての國民生活の理解によつて、國家的自覺を得せしめんことを心がけた。

昭和十二年九月

渡邊世祐

新制中學國史上級用下卷

目次

第一章 封建制度	一
第一節 封建制度の由來	一
第二節 江戸幕府の體制と政策	六
第三節 時代の推移と幕府の政策維持	六
第四節 江戸時代の藩治	一六
第二章 邦人の海外發展と西洋文化の傳來	二五
第三章 經濟の進展	三三
第四章 文教の發達	六七
第五章 勤王思想の勃興と明治維新	六七
第一節 尊王思想の發達	六七
第二節 王政復古の思想と江戸幕府滅亡	一〇一

第三節 明治維新	一三〇
第六章 立憲政治の確立と自治制度の發達	一四〇
第七章 現代に於ける經濟文化の進展	一五三
第二節 明治初年に於ける國民生活の變動	一五四
第二節 國民的自覺と國運の發達	一五九
第三節 國威の發展と文化興隆	一六五
第四節 大正時代	一七〇
第八章 世界史上我が國の地位と國民の覺悟	二〇〇

目次終

新中學國史 上級用 下巻

文學博士 渡邊世祐 著

第一章 封建制度

第一節 封建制度の由來

源賴朝は武家政治を形成し、家人を諸國の守護、莊園の地頭として、その土地人民を治めしめた。そして守護は國內の軍事警察を掌り、地頭は莊園の行政に當り、年貢を徵收して、本家領家寺院等に納めたから、執務の分界が明らかにされてゐた。この分界は屢犯されたが、幕府の盛な間は守られた。されど室町時代となり、幕府の威令行はれざるに至り、分界は全く崩れ、勢力ある武家が莊園を横領するに至つて、莊園制度は崩解して領地となり、大名を形成した。大名は自己

知行制度の
由來
鎌倉時代の
守護・地頭室町時代に
於ける莊園
の横領

戦國時代の不安の形勢と封建制度

封建制度が武家の發達と關係し、その由來する所を遠く注意し、從つてこれが我が國民生活、政治上、或は經濟上、極めて廣く且、深く影響を與へた點を、ついでに解説せよ。

織田信長・豊臣秀吉の統一と封建制度の形成

朱印地知行地

知行制度

徳川家康と封建制度の完成



印朱康家川徳・印朱吉秀臣豊・印朱長信田織

の領地内の、土地人民を、私有して自立したが、同時に自衛のために、常に武装し、多くの部下を扶持して、主従關係を結んで戦功を勵ました。かくて大名の土地人民を私有し、支配することが、封建制度發達の基をなした。

織田信長豊臣秀吉の天下統一によつて、封建制度は、著しくその體制が整つた。信長は部下に對して朱印狀を與へて、その領地内に於ける權利を認めた。これを朱印地とも呼び知行地とも稱し、その組織を朱印制度、または知行制度といふ。ここに於て、莊園制度は全く崩壊せられた。そして秀吉もまた信長の制を完成するに努めたから、知行制度は發達した。

秀吉の薨去後、徳川家康は江戸に幕府を開き、信長・秀吉を通じて發達して來た知行制度を、そのまま踏

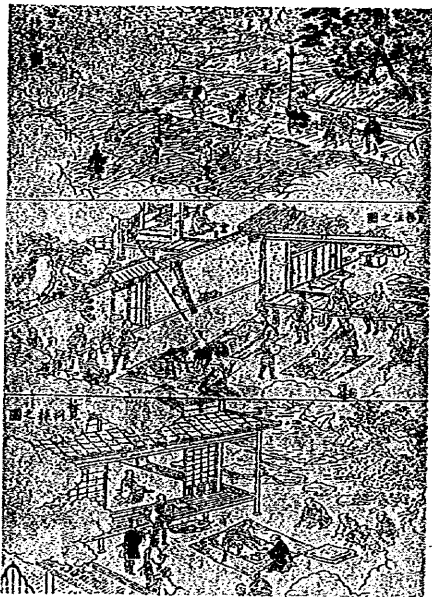
家康と封建制度

田制税制の整理統一

中世以後の田制紊亂と檢地の要

襲し、大名をそれぞれの地に封じ、領内の土地人民を私有して、政治を行はしめた。されば江戸時代に入つて、封建制度は、完全に形成せられることとなつた。

大名の所領は、石高をもつて定められた。我が國では、大化改新後



つて、正確な土地臺帳を作らうとし、檢地をしたが、未だ廣く行はれな

田籍田圖があつて、土地の狀況を記載したが、早く無くなり、中世以後は、中央集權の政治が衰へたため、田制の統一を失ひ、税制も紊れた。されば信長は勢力を擴めるに従

江戸時代の大名といふものの由來へについて考へよ。

五

兵農併行

不安の世相
と武力の重
郷士

兵農分離と
武士庶民の
分限

江戸幕府の
基礎成る
江戸幕府

る。もと武士は田舎に起り、初は農作に従ひ、自衛のために傍ら武藝を練つたが、地方の混亂相づくに及んで、武藝を専らにするに至つた。そして鎌倉時代となつてから後多數の農民は農業の暇に武器を手にして、自から守る風を有した。されば戦國時代に、一向宗や法華宗の僧侶と共に、農民は郷士として、一揆や徒黨を結んで戦闘に従つたのであつた。秀吉は天下を統一するや、太平を致さんとして、刀狩を行ひ、寺院や農民の武器を徴收して、それ等のものの武力の行使を禁じ、社會上政治上の治安の維持をはかつた。ここに至つて、兵農は全く分離し、社會上、武士と庶民との分限が明らかになつた。

第二節 江戸幕府の體制と政策

徳川家康は慶長八年には征夷大將軍に任ぜられ、幕府を江戸に開き、新に武家政治を興した。そして家康は、將軍職をその子秀忠に譲り、駿府に居り、大御所と稱された。されど大事は、悉く家康により、畫

徳川秀忠
家光

江戸幕府の
職制

大老
老中
若年寄

大目付・目
付

三奉行

策された。秀忠は謹厚にして、よく守成の功を收めた。その子家光は、豪邁にして、名臣の輔佐と相俟つて、よく諸大名を統制し、家康以來の制度を整へ、幕府の政治の基礎を固くした。幕府の職制は、將軍の下に大老、老中、若年寄の三役があつた。大老と老中とは將軍を輔け、幕政を統べ、特に朝廷並びに大名に關することを掌つた。大老は一人にして、常置の制でなく、老中は數人あり、月番制によつて政務を專行せしめた。これ等を、初は年寄と呼び、後には關老といつた。若年寄は數人あつて、老中の政務を輔け、また専ら旗本諸士に關する事務をとり、これも月番の制によつて政務を專任した。そしてこれ等三役の合同會議する所を、御用部屋といつた。また大目付は老中に屬して、大名や諸役人の監察に當り、目付は若年寄に屬して、旗本を監察した。老中の下に、寺社勘定、町奉行の三があつた。寺社奉行は、寺社及び

政權を獲得する國家に比し、國家政治の體制を定める守成の業のまゝに因襲なる所以を考へ、政治上、幕府と大名との關係にあつたか。江戸幕府の政治機構について、便宜を便して見よ。

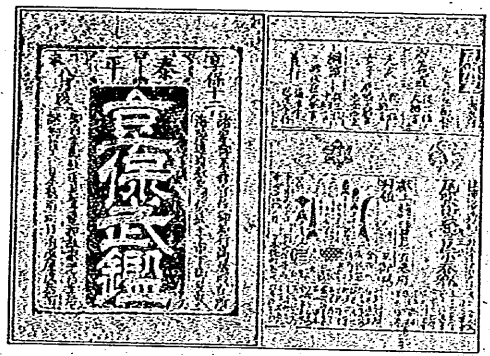
寺社奉行
勘定奉行
町奉行

地方職制

郡代
代官

所司代
城代
奉行

幕府政治
制の特色



享保武鑑及び表紙

僧侶・神官、並びに寺社の領地を管し、その訴訟を裁いた。勘定奉行は幕府の直轄地たる天領を治める代官を統べ、それを支配し、幕府の金穀を出納した。また町奉行は、江戸の南北にあつて、江戸の市政、並びに訴訟や警察の事に當つた。

また地方については、大名をして領内の政治をとらしめ、天領には、郡代代官を置き、更に重要な地は、多く幕府の直轄とした。それで京都には所司代、大坂・駿府には城代があり、奈良・伏見・山田・長崎・浦賀・堺・新潟・佐渡・日光等の要地には、奉行を置いて、庶政を見せしめた。

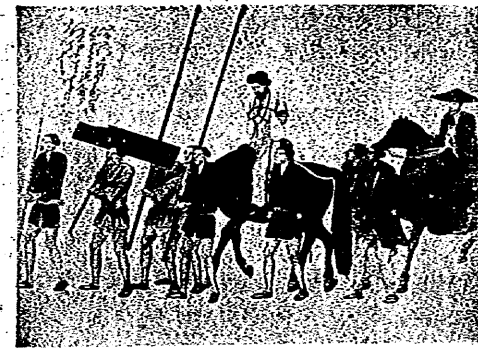
されば幕府は、中央政府であると共に、將軍一家の經營の府であつ

今日の三權分立の思想から幕府の政治機構を批判せよ。政治機構上によつて、権を分つた。幕府の存続維持に對して武力に基づく獨裁制が、唯一の必要であつたことに注意せよ。

幕府
行政と司法の別

司法制度

評定所



器引人のしるし

た。そして行政官・司法官の區別はなく、役人は何れも武士であつて、事ある時は軍隊を構成する制であつた。職制上、最も複雑であつたのは、司法制度であつた。訴訟は、その所管を異にしてゐたから、二つ以上の所管に跨ることや、大名・旗本に關する重要なものは、特に評定所に於て、老中自からこれが裁斷に當り、或は三奉行の合議によつて、これを決した。そしてこれ等、體制上の不合理や不便は、幕府の權威をもつて、專制的に行つたから、政治全體の統制は實によくとれた。

大名に對する統制は、幕府の最も苦心したところであるが、豊臣氏の滅亡以前は、懷柔親和を旨とした。その後は漸く制御の策をとる

大名に對する政策

懷柔親和の策

諸大名の配
置

親藩・天領
の布置

権力の平衡

武家諸法度

に至つた。常に變時を假定して大名の配置に心を用ひ、江戸を中心とする關東八州、京都を中心とする上方八箇國、並びに江戸と京都との間には、譜代大名を配置した。外様大名は、多く奥羽・中國・四國・九州などの、遠隔の地に封じた。

またその間、樞要の地點には、御三家並びに親藩・天領を交へた。かくて大小親疎の諸大名をして、互に相牽制せしめ、中央の檢察監視の便を得せしめることとした。

また大名の權力の平衡に意を用ひ、譜代大名は概ね、知行地は少くとも、幕府の政權に與らしめ、外様大名は、これに關與せしめなかつた。そして知行地の大小と、政權の多少との權衡をよく保たしめた。

家康は更に元和元年に、武家諸法度を發布したが、その主とするところは、大名の武力に對する制限と、その徒黨結托叛逆に對する防遏であつた。これによつて大名が、幕府の治安を害するが、

抑へ、且、その

政治上の心得、並びに秩序維持に努



武家諸法度
一 又武家之通事可相續事
九 又武家之法也不可久無備矣馬是武
家之要輕也馬與爲凶器不得已而用之然不
忘亂何不願飲練牛
一 可制群飲候遊幸

今但可耕藥為殊重時好色業情矣是亡國之基也

訂法度の改

法度の励行

参勤交代の制度

かくて幕府は武家諸法度を勵行して、大名の犯すものあれば、親藩譜代・外様の別なく、領地を沒收し、大名を威服せしめた。これによつて幕府の直轄地を増加するにも効果があつた。

また幕府は大名に、妻子を江戸に置かしめると共に、参勤交代の制を守らしめた。この制度は、大名の領國の位置によつて、交代の時期や、在國・在府の期間は一定しなかつたが、家光の時にその制度を確立

参勤交代
の結果

経済上の課
役

公家に対す
る政策

禁中並びに
公家諸法度



大名道中 (年重慶)

した。これより幕府は、全國に散在する大名を江戸に引付け、形式は封建制をとりつつ、實際に於て中央集權を確立した。また在府及び道中往來のため、大名の蒙つた經濟上の打撃は、實に甚だしかつた。尙幕府は、大名に臨時に經濟上の賦役を課し、土木工事や、臨時のことに當らしめたので、大名の財政は相當に苦しく、常に幕府に抑へられてゐた。

家康は幕府を江戸に開いたから朝廷に對して特に考慮を要した。幕府は朝廷の御料を増し、公家の領地は漸次増加し、また臨時の奉仕につとめ、表面尊崇の態度を持した。されど禁中並びに公家諸法度

江戸幕府の
朝廷に對す
る政策が、つ
て極めて重
大性を有し
た點を理
解せよ。

表面に尊崇
して政權を
掌握

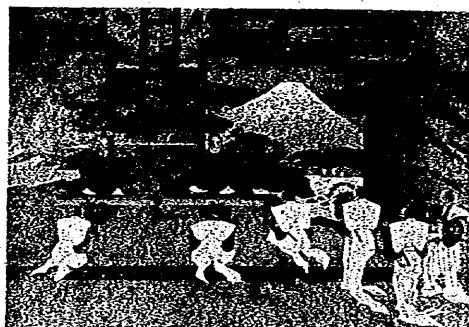
對朝政策と
王政復古の
運動

寺院に對す
る政策

寺院諸法度

社會階級制
度

武士



幕府中奉行事務使安

僧侶の俗權に關係することなどを禁じ、德行を勵まして、社會の教化に當らしめんとした。

幕府は武家政治の體制に基づき、社會上武士に特權を與へ、庶民を抑へしめんとした。廣義には、將軍以下諸士に至るまで、皆武士であ

將軍の地位

級制度

指導階級



江戸時代武家服装

用齋下上長子男

装盛の子女

び諸藩の武士は、何れも世祿を給せられ、文武の兩道を兼修し、國民全體の指導階級としての地位を占めた。

かくて幕府は、農工商の庶民に對しては、總べて服従を要求し、よくその分に安んじ、實業に従ひ、社會の秩序を維持せしめるに意を用ひ

一四

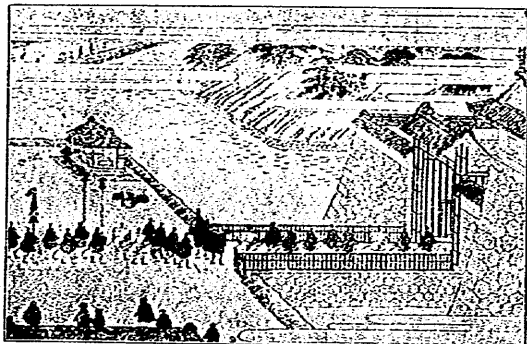
農民の自治制

五人組制度

組
頭

莊屋

大莊屋



武 家 ○ 登 城

奉行の管理をうけた。

町人は、農民より卑しめられ、直接生産に従はない商人は、更に職人よりも下位に立たしめられた。併し境遇は、多く農民と異なる所な

江戸時代に於ける農民町人の自治弱發達の状況を理解し、また自治制機關と幕府の政治機關との關係を表明して理解の要とせよ。

家主地主

名主
町年寄

く、五人組制度が行はれ、家主地主がこれを取締り、その上に名主があつて、一町または数町に、關して法令を傳達し、訴訟や仲裁のことに關係した。名主の上には町年寄があつて、町奉行の命を奉じ、種々の政務を處理した。江戸に於ける町内自治制は最も整ひ、市政の圓滿な運用をなさしめた。後に明治時代、地方自治の制をとるや、この制による所が多かつた。

幕府政策の
効果

中央集權的
の効果

されば幕府はただ政治の大綱を握つて、諸藩の政治は全くその大名に任せた。そのために封建制度が地方分權に傾かんとするの弊を避けんがために種々の對策を講じた。かくて幕府は、封建制度をとりながら中央集權政治の効果を收めて、よく治安を維持し、永く太平を持続した。

第三節 時代の推移と幕府の政策維持

幕府政策の
根本

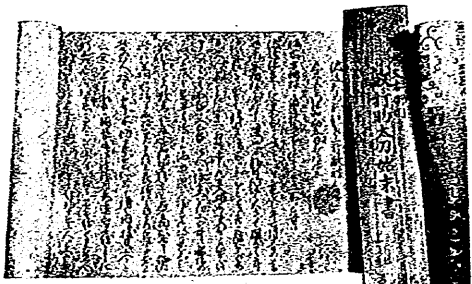
幕府政治の基礎は、概ね家康から家光の頃までに整うた。その後

封建制による中央集權組織の固定形式化

政策維持
戰國殺伐の
風人

慶安の變

封建時代に於ける政治的對立の社會的立場から見た政治的立場からいかに考へられてゐたか。
江戸幕府が浪人を恐れた理由について考へよ。



寛永末始刀太助門衛右又本荒

歴代の將軍は、創立當初の政策と精神とを維持して、幕政の紀綱を張ることに努めた。
江戸時代の初期は、尙戰國殺伐の餘風が漲り、辻斬仇討果し合ひなどのことが行はれた。武士にして、知行所職を有しない浪人の數も極めて多く、大坂の役も島原の亂も浪人の働が多く、常に政治上現状打破をこひねがひ、治安を紊すことが多かつた。偶、慶安四年に、由井正雪や丸橋忠彌の事件が起るに及んで、幕府の浪人に對する取締は、愈々厳しくなつた。その方法として、幕府は諸大名の改易廢絶等を、成るべく少くし、五人組制度の利用を勵行した。

また戰國時代の名残として、旗本から出た

旗本 町奴
男伊達



伊達達素

旗本奴町人から出た町奴などがあつて男伊達と稱し、強きを挫き弱きを助くるを念とした。これがために却つて社會の秩序を紊したから、幕府は取締を嚴にし、將軍綱吉の頃には尠くなつた。

奉上思想の精神を幕府が教育上の根本とした理由を考へよう。
奉上思想が我が國民道徳の根柢であること、並びに西洋の平等思想の精神と比較して、一は上下に對する道徳、一は左右に對する道徳としての特異な特色を、社會的、公共的教養の上に於ては後に學ぶべき點あるべき點あるを、思想上の考察へも考へよう。

幕府の社會秩序の維持
民心の教化
學問の奨励

朱子學派による忠孝

かくて幕府は、常に政治上社會上の秩序を定め、これを保つことを念とし、一方不安の原因を除くと共に他方民心の教化につとめた。そこで文武兩道の修業を、武士の理想として、學問の修養を必須のものたらしめ、武士の氣風を鋭練した。特に學問については、最も穩健な朱子學を支持し、その思想によつて忠孝の徳を養ひ、主従の義を明らかにして、封建制度の根本を鞏固にすることに努めた。そして上下を通じ、教育の普及するに努め、君臣主従父子兄弟夫婦朋友の間の

奉上精神の教育

御定書百箇條

幕府の司法政策の精神

時代推移に對する幕府の政策維持

時代の推移と幕府の紀綱の弛廢

元祿時代

道德を守り、下のものが上に奉ずるの精神を本とした。幕府はこの精神をもつて上下を一貫し、封建制度の組織を安定せしめんとした。また幕府は、刑律の上にこの精神を加味し、將軍吉宗は、從來の慣例と治安の實際を綜合し、御定書百箇條を制定せしめた。そして刑の量定について、倫常に戻るもの、治安を害するものを最重罪に擬し、幕府に對する謀計、主殺親殺關所破等は、最も嚴刑に處した。

江戸時代初期は、尙武にして質實剛健な、武士的精神が旺であつたが、太平打續くに從ひ、漸く弛廢して來た。特に大坂を中心とする、上方の經濟的發達が江戸に進展するにつれて、柔弱な文化の影響を受け、元祿時代より以後、一般に生活は著しく向上した。そして奢侈文弱の風に染み、幕府の政治紀綱は漸く弛むに至つた。

元祿時代に於ける、紀綱頹廢の後を受けて、將軍家宣の時に、政治の局に當つた新井白石は、學者にして政治上の見識に富み、家宣の信任

新井白石の
政治改革

徳川吉宗の
改革

緊縮政策

武道奨励と
士風鼓舞

國民精神の
向上

人材登用

徳川吉宗の
改革につき
全般的に観
察し、且、
その改革中
に幾多の現
代的意義を
多き點に注
意せよ。



を得て、改革する所が多かつた。併し
その改革は、概ね儒學の精神に出て、禮
義を尊び、儀式を重んずるの餘り、武家
政治の根本に觸れなかつた。

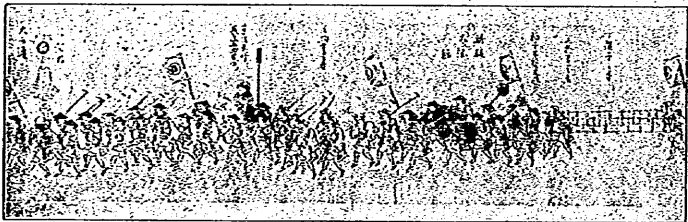
將軍吉宗は賢明にして、學問を好み、
業を勵み、また人と爲り規律を重んじ、
質素儉約の風を尊んだ。そして元祿
以來の弊風を矯めると共に、範を家康
の政治にとり、武道を盛に奨励して、質
實剛健な士風を起すに努めた。そし

元祿時代の風俗

て儒者の室鳩巢を登用して、六諭衍義大意を著はさしめ、國民に人倫
道德の正しきを示し、精神の向上を圖つた。且、足高の制によつて人
材登用の途を立て、目安箱を設けて、役人の政治に對する民情を察し、

政治の一新を期した。

民政の刷新
慈善事業
社會事業
産業政策と
實學奨励



江戸消防組

かくて幕府の法律制度も整ひ、大岡忠相の如
きは登用せられて江戸町奉行となり、民政を整
へ、裁判を公平にした。また吉宗は、慈善公共の
事業に心を用ひ、牢獄の改良、囚人の衛生に意を
用ひた。更に醫藥の法を講じ、小石川の藥園に
養生所を開き、貧民に施藥し、社會事業を行つた。
吉宗は荒地を開墾し、産業を發展せしめ、よく
實學を奨励して、時代の要求に合はせしめんと
した。そして各地に甘藷の栽培をなし、砂糖製
造を研究せしめ、或は馬種の改良、染色法の研究
をなさしめた。また學術進歩のため、洋書輸入
の禁を解いて、天文醫學等の研究に便を與へた。

享保の治
幕府の中興

吉宗薨後の
幕政頹廢
田沼意次

改革の必要

松平定信の
政治改革

協力一致

身を思ふいとまたい
る身なりせば思ふこと
なき身とやいはまし
身をすしる心とへは君
の爲國の守りそ
(松平定信)

これ等は何れも、政策維持の上に適切なることであつた。
かくて吉宗の改革は、よくその實を挙げ、幕府の紀綱は再び張り、且
よく天下の人心を歸服せしめた。世にこれを享保の治と稱し、吉宗
を幕府中興の英主と仰いだ。

吉宗の薨去後、將軍家重家治の二代の間、田沼意次の執政によつて、
政治は紊れ幕政は再び頹廢した。次の將軍家齊の頃には時勢の力
は如何ともなし難く、士風も頹廢し、幕府より諸藩武士に至るまで、財
政の窮乏は實に甚だしかつた。また社會には、奢侈淫逸の風が滔々
として漲り、中央、地方上下をあげて、大改革を要する時世であつた。
されば家齊は、一族の松平定信をあげて、幕政の改革を委ねた。

定信は吉宗の孫で、至誠にして果斷、身命を堵して改革の事に當り、
萬事享保の治に倣はんとした。そこで、人材を登用して幕府の要路
に立たしめ、協力一致して政治の改革に當つた。

緊縮政策

節儉令の勅
行

備荒貯蓄

士風の鼓舞

寛政異學の
禁

松平定信の
政策につき
「世の中に
蚊ほどうる
さきものは
なしぶんぶ
(文武)と言
つて衣も穿
られず」と
の狂歌に對
し、當時の
輿論につい
ていかに想
像できるこ
とが、

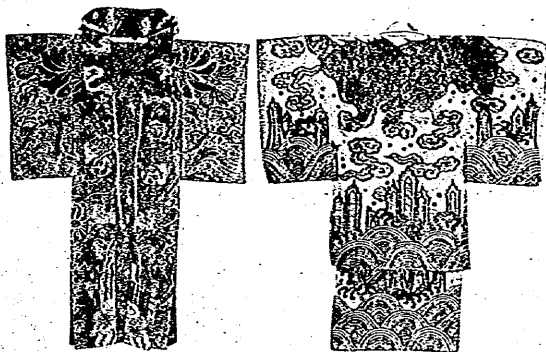


松平定信の肖像

その改革は、幕府以下大名の政費を
節約し、上下一般の生活費を縮めて、非
常な緊縮政策をとらしめ、收支の均衡
を得せしめんとした。そして普く質
素勤儉の令を下し、自から率先して節
儉の範を垂れ、諸司に命じて節儉のこ
とを勵行せしめた。それから饑饉に
備へて、米穀の貯藏を獎勵し、旗本家人
の負債を廢棄せしめた。また一般に、文武の道を獎勵して士風を鼓
舞し、頹廢した世風の矯正をはかつた。また教育の普及を圖り、江戸
湯島の聖堂を擴張して、教化の効果を高めた。當時儒學各派の間に、
論争が激しかつたので、定信は國民の思想統一、治安維持のため、穩健
な朱子學を支持し、他派は異學として排した。これを寛政異學の禁

寛政の治と
時代の潮流

幕府の衰運
文化文政の
紀綱の弛廢



(示を影面の熟爛の化文江戸大の代時政文・化文) 袋衣の伎舞歌

と稱し、學問の進歩には、妨げがあつたとの非難はあるが、幕府の政策維持のためには、必要のことであつた。

かくて定信の改革によつて、幕府の紀綱は再び張り、これを寛政の治と稱へられる。併しその政治は、餘り厳しい消極政策であつたために、世は不景氣となり、家齊を始め不平の聲が漸く高くなり、定信は職を辭した。

定信の退いた後は、政治は俄に弛み、所謂文化文政の時代となつた。先きの緊縮政策の反動で、世をあげて奢侈淫逸の風旺となり、幕府紀綱の弛廢は、如何ともなし難かつた。かくて幕政の頹廢と、屢起つた經濟界の變動と、各地に起る饑饉の

江戸時代に於ける幕府の紀綱の弛廢の概観を、この時代について表示して見よ。

各地方の不
安
大鹽の亂

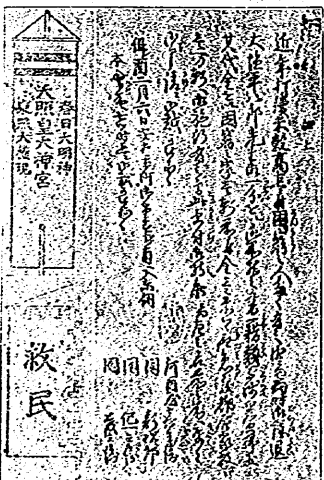
水野忠邦の
天保の改革

幕府政策の
維持困難の
事情

ため、地方の疲弊甚だしく、不平の聲は上下に滿ち、百姓一揆の暴動もあつた。この頃に起つた大鹽平八郎の亂こそ、眞に幕府衰亡の警鐘に當るものであつた。

將軍家慶の時、水野忠邦が老中となつて、幕政の改革に當つたが、その政策は餘りに過激に失し、却つて一般の反感を招き、効果を收められなかつた。かくて幕府は、時代の推移に對して、その政策維持の實力を失ふに至り、その基礎が漸く危くなるに及んだ。この頃既に尊王論は漸く旺になり、また開國の意見を主張するものも出て、更に町人の擡頭によつて、社會組織變動の機運を生じた。

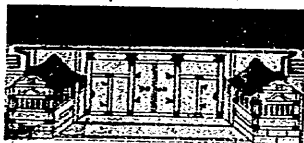
第四節 江戸時代の藩治



旗たし用使のそと文徴の采施郎八平鹽大

諸大名の社会的地位

諸大名を中心とする武士の結合



上國 門表上以石萬十
中國 門表上以石萬五
下國 門表分上以石萬五

江戸時代の武士は、將軍に直屬した旗本・家人の外は、何れも大名を中心に、一つの集團を作つて、各地方に分散してゐた。

従つて大名は、何れも將軍から知行地を預けられ、更にこれを

分割して、部下の武士を扶持し、知行地の農民・町人を治めて、一つの社会的結合をつくつた。この結合を藩といひ、これが封建政治の基礎をなした。

藩治の基礎

大名の専制
幕府の強壓
と中央集權
政治

大名の藩内に於ける政治は、專制的に行はれ、幕府も干渉せぬのが原則であつた。されど幕府が、武家諸法度によつて嚴壓を加へ、參勤交代の強制・轉封並びに臨時に經濟上の賦役及び諸役を課したため、常に幕府のために抑へられた。されば、大名は僅かに一箇の地方官

藩の相互關係

自主獨立と
自給自足の
主義

諸大名の賢
愚と藩政と
の關係

藩政に對する
藩民の救済
手段

藩治政策の概観

經濟政策

重農政策

封建政治に於ける大名と郡縣政治に於ける地方官との相違を明らかにせよ。且、江戸幕府の諸大名に對してとれる政策はローマがイタリア半島を征服した點と類似せる點を比較して見よ。

藩とは何か、その政治的・社会的意義を考へよ。同時に、版籍奉還・廢藩置縣の政治的意義を切なる見地から考へよ。

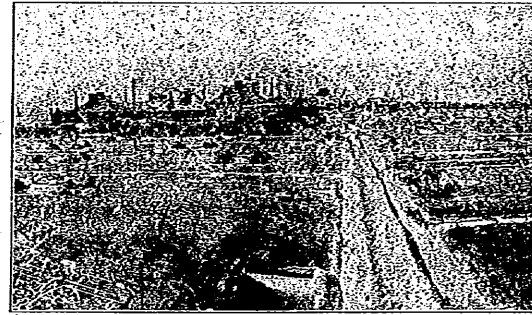
の如き觀を呈した。

初め幕府は、諸大名との關係を密にし、大名相互の交通連絡の緊密なるを抑へた。ここに於てか、親藩・譜代並びに外様の區別なく、諸大名は何れも有事の際、自力をもつて自家を衛り、また經濟的にもそれぞれの地理的境遇に基づいて、自給自足の道を立てねばならなかつた。そしてすべて藩士の良否並びに藩民の幸不幸は主として藩主にかかつてゐた。偶、藩政が紊亂して、農民が暴動・一揆の如き直接行動をとり、または幕府に直訴して、その干渉の發動を訴願するが如き場合には、幕府は治安を案ずるものとして嚴罰するの制をとつた。

かくて、藩政上最も留意せられたのは、その經濟と教化とであつた。何れの藩にあつても、それぞれの事情に應じて殖産興業に力を用ひた。そして各藩は共に土地經濟に立つてゐたから、重農政策をとつて新田を開墾し、灌漑を便にし、農民の保護と、農業方法の改善とに、意

下總佐倉の
本内宗五郎
の語などは
江戸時代の
政治的現
象として考
察せよ。

工業殖産
の奨励



浅野家開作赤穂鹽田

を用ひるは當然であつた。またその土地に
に適した工業を興し、林業の奨励、鑛山の開
發、鹽田の開作、漁業の發達など天然資
源の開發に留意し、各種の産業を盛



農田收穫後の秋田縣一郡(春)

ならしめようとした。
武士は、經濟を輕視する風があつたが、太平が続いて人口は増殖し、生

藩政上重商
政策を執る
に至れる事
情を考へ

重商政策

教化政策

藩校

私塾と寺
子屋保護

幕政の改革
と藩政の振
興

幕政と藩政
との關係

活が向上して來たので經濟的必要に迫られた。そこで諸藩は、商業
の保護奨励をなして、藩内産出の物資を賣出し、ひたすら利益を収め
ることを念とした。

また藩政として、教化は最も重んぜられ、江戸時代の中頃から、各藩
競うて藩校を起した。その學制は概ね昌平黉に倣ひ、朱子學をもつ
て藩士子弟の教育をなし、また領内の私塾や、寺子屋などを保護して、
農民、町人の教化にも意を用ひた。されば諸大名の力により、經濟上
並びに精神上から、我が國民文化は、それぞれ地方的に著しく進歩し
た。

諸藩は獨立した地位を有したが、幕府統制の下にあつたから、その
紀綱の弛張、政治方針などは、直ちに藩政に影響を與へた。江戸時代
の初期には、幕府の威令がよく行はれ、非凡な藩主が多かつた。中に
も會津の保科正之、土佐の山内忠豐、備前の池田光政、加賀の前田綱紀

A black and white portrait of a man, likely a historical figure, enclosed in a circular frame. The man has a high forehead with receding hair, a prominent nose, and a slight smile. He is wearing a traditional Japanese garment, possibly a kimono or haori, with a dark sash (obi) tied around his waist. The portrait is rendered in a woodblock print style with fine lines and cross-hatching for shading.

ついで將軍吉宗
や、松平定信の政治

一國家
先祀孔子孫(傳國)
各有一教私物也。
無之。

一人氏。國家者屬一人。
人氏之一。我私之物。
不有之。

一國家人五人爲一丘序。
五人之丘序爲一丘序。
國家人氏亦無之人。

不二難進退會同歡
章

人君之言
二月六日
必去矣
必去矣

(藏家歸竹杉上) 國 國 擬 憲 治 杉 上

封建社會上に於ける異同

我が國の封建制度は江戸幕府によつて完成したが、これを西洋中の世の封建制度と比較すると自から異同がある。封建制度が武士の興起と關係し、その發達の社會的政治的原因については同一である。されど彼我國情を異にするがために、次の諸點に著しい相違がある。政治上、知行制度の形式は稍同じで、地方分權の政治の形體がとられてゐるが、西洋では諸侯の勢力が強大であつて、國王の政治上の統制力がなかつたのに反し、幕府は能く諸大名を控制統御して中央集權の政治を行つた。且、西洋の諸侯が動もすれば自家經營のみに力を用ひて人民の境遇を省みなかつたのに比し、我が國に於ける諸大名の藩治、民政上の功績は著大なものがある。また社會上、階級制度、主

從關係並びに世襲制度が行はれて、社會生活が固定し、形式化される所に共通點がある。併し我が國では、西洋と異なり父系が重んぜられるため、階級制度も著しく彼より緩和されて居り、且主從關係にしても、西洋に於ては個人主義に基づいて權利義務の觀念が強く現れ、我が國に於て主從關係に見る如き、没我奉仕の精神的特質は見られない。また藩に於ける藩主を中心とする藩士藩民の一體となれる社會的結合に於て、地方文化の開發、國民思想の涵養されたが如きは西洋には見られない。特に幕府の權力に統制されてゐながらも、尙精神的に皇室尊崇の精神が、全武士階級を支配してゐた事實に至つては、全く國體に基づく我が封建制度の特殊な點である。

第二章 邦人の海外發展と西洋文化の傳來

我が國民の
海外發展の
思想の由來

元寇の後我が國民の海外發展の氣運は次第に高まり、鎌倉時代末

歐人の來航
と海外發展
の思想

歐人の來航

ポルトガ
ル・イスパ
ニヤ人の航
海

地理上發見
の動機並び
に當時の形
勢について
想ひ起せ。

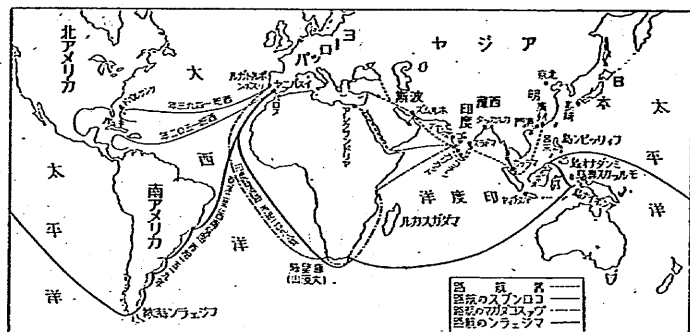
朝より吉野時代にかけて、大陸沿岸に進出し盛に通商貿易に従ふものが増した。これ等の中には、先方て正當な通商が拒まれ、その矜が傷つけられるや、武力に訴へるが如きものも出た。然るに偶當時支那は元末明初の頃で、沿岸各地に海賊が蜂起し、到る所侵掠を逞くしたが、それ等の暴行は悉く我が國人の所爲なるが如く誤り傳へられた。高麗はこれがために滅亡し、新に起つた朝鮮も、明と共にこれが鎮壓の對策に悩み、終に我が室町幕府に請ひ、勘合貿易の制により海賊の取締に力めた。ついて戰國時代となり、歐人の來航するに至るや、その刺戟を受け、海外發展の氣運は一層促進された。

我が鎌倉時代に、イタリヤ人マルコポーロ著の『東方見聞錄』が出版せられるや、西洋人に愛讀されてその好奇心を刺戟し、東洋遠征の念をそそられた。そしてポルトガル・イスパニヤの二國は、最も熱心に航海を奨励した。そこで我が戰國時代のはじめに、イタリヤ、ジェノ

アメリカ大陸發見

ポルトガル人の東洋貿易

ポルトガル人の種子島漂着



アの人コロンブスは、イスパニヤ政府の保護をうけて、アメリカ大陸を發見し、ついでポルトガル人ヴァスコダガマは、アフリカの南端を回航して、インドに達する新航路を發見した。かくてポルトガル人は、ゴアを根據地として東洋貿易に従つたが、さらに進んで、支那のマカオをとり、ここに根據地を置いて、東洋貿易に従事した。その商船が、後奈良天皇の天文十二年に、たま／＼大隅種子島に漂着し、島主種子島時堯に、小銃と火薬の製法とを傳へた。それからポルトガル船は、しばしば我が國に來航し、薩摩の鹿兒島や、豊後

イスパニヤ人

南蠻人

キリスト教の傳來

ヨーロッパの宗教改革とその反動の對抗、並に新教の運動、フランシスザヴィエル

キリスト教の弘通

の府内等にて貿易をした。またイスパニヤ人も、早くメキシコを根據地として、太平洋に發展し、マニラに根據地を置き、天正十二年我が平戸に來て、貿易を營み、ポルトガル人と共に、平戸堺などで貿易を營んだ。我が國人は、これ等を總べて南蠻人といひ、その船を南蠻船といつた。

これより先、ヨーロッパでは、宗教改革が行はれて、ローマ法王の勢力は衰へたが、新教に對する反動として、多くの教團が起り、法王の勢力を恢復せんとして、諸方に舊教の布教宣傳をした。その中の、耶穌會長老の一人である、フランシスザヴィエルは、インド並びに南洋方面に布教してゐたが、やがて天文十八年に我が國に來航し、鹿兒島に着いて布教した。それから平戸に至り、更に博多、山口等を経て京都に上り、歸路再び山口を経て豊後府内に赴いて布教した。その後イスパニヤから、キリスト教の宣教師が續いて來邦して布教に従ひ、織田信

ヨーロッパに於ける宗教改革とその反動の對抗、並に新教の運動、フランシスザヴィエル

キリスト教が僅かの間に非常な勢力を以て至つた事、各方面から考へよ。またこれを佛敎の傳來の時、我が國富強の事情と對照して、國民の宗教心を對する見えてくる。

海外貿易の發展とキリスト敎の海外貿易發展の理由

大名のヨーロッパに對する態度

織田信長の上洛

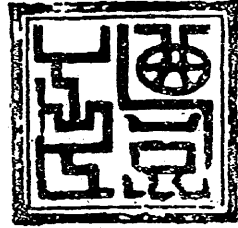


九州大名遣使節畫像

長や豊臣秀吉によつて、天下統一の機運に向ふや、益その敎を擴めた。かくの如く、西洋の商船の來朝に刺戟せられて、我が諸大名は、盛に海外貿易に活動するに至つた。その貿易の利益が多かつたので、諸大名は何れも陽にキリスト敎を保護し、陰にポルトガル船の來航を迎へて、西洋の新知識を輸入した。九州の大友・大村・有馬等の諸氏は、何れもこの間に活躍したが、元龜年間に長崎港は、貿易港として開かれ盛になつた。かく貿易が盛になるにつれて、キリスト敎も急速に擴まつた。信長が上洛するや、宣教師を保護し、京都に南蠻寺を建立せしめ、布教

九州大名の遣使節

豊臣秀吉の海外發展の雄圖
秀吉の雄圖



豊臣秀吉外交文書所用印

に便宜を與へた。また大友・大村・有馬等の諸氏は、宣教師にすすめられ、使節をローマ法王に送ることになり、伊東義賢^{ヨシタカ}・千々和^{チヂカ}・清左衛門が使者に選ばれた。この二人は何れも少年であつたが、宣教師に隨つて、天正十年長崎を發し、印度ゴアを経てアフリカを迂回して、ポルトガルのリスボンに着き、更に盛大なローマ入城式が行はれて、法王グレゴリー十三世に謁した。歸途一行は、イスパニヤ・ポルトガルを経て往路を辿り、八年の後に長崎に歸著した。これ我が國人の、ヨーロッパ國土を踏んだ最初である。

秀吉は、天下を統一してから、更に海外發展の雄圖を抱き、文祿慶長の役を起すに至つた。更にポルトガルのインド總督の來降を命じ、イスパニヤのフリービン大守に服從を諭し、文祿二年には、高山國^{コウサン}國^{クニ}にも、書を送つて服屬を説いた。

豊臣秀吉の海外發展の雄圖について、吉發の扇面に思ひ起せ。

秀吉の雄圖
と海外發展
の思想

キリスト教
に對する我
が國策

キリスト教
の思想

キリスト教
思想と我が
國民生活と
の背反

當時我が國民は最も勇敢であつて冒險の氣象に富み、海外發展の意氣は頗る旺てあつた。併し秀吉の薨去によつて、これ等すべての雄

一「大唐の版圖を以て我が國の版圖と爲さん。内地の諸國を以て我が國の諸國と爲さん。海外の諸國を以て我が國の海外と爲さん。」

一「大瀛洲の版圖を以て我が國の版圖と爲さん。内地の諸國を以て我が國の諸國と爲さん。海外の諸國を以て我が國の海外と爲さん。」

一「大瀛洲の版圖を以て我が國の版圖と爲さん。内地の諸國を以て我が國の諸國と爲さん。海外の諸國を以て我が國の海外と爲さん。」

一「大瀛洲の版圖を以て我が國の版圖と爲さん。内地の諸國を以て我が國の諸國と爲さん。海外の諸國を以て我が國の海外と爲さん。」

豊臣秀吉の朱印狀

圖は空しくなつたが國民の海外發展の意氣は促された。

キリスト教はもと平等の思想に立ち、個人主義世界主義に基づき、超國家國民的の特質を有してゐる。

特に耶蘇會の教義並びに活動に至つては、ローマ法王を中心として世界統一の思想が特に強く、且政治的には、イスパニヤの帝國主義植民政策による、政治的背景を有してゐた。さればキリスト教の布教並びに弘通に關しては、我が國體に基づく國民生活及び戰國時代の統一により、漸次盛となつた國家意識

信長の政策

秀吉の禁教政策

キリスト教の弊害

とは相容れざるものがあつた。

信長はキリスト教を保護し、これが弘通に大きな影響を與へた。また秀吉も、信長の方針に従つてゐたが、キリスト教が漸く勢を得る



豊臣秀吉のキリスト教禁止文書

に及んで、偶、天正十五年、九州征伐の際、キリスト教の信者が社寺を破壊し、神佛の禮拜を妨げるなど、我が善良の風俗を紊し、且その教旨が我が政治及び社會の秩序を紊す虞があつたので、布教を禁じた。されども、將に盛ならんとした貿易は、禁ぜざる旨を明らかにした。

かく秀吉がキリスト教を禁じたにも拘はらず、益、國內に擴まつた。偶、慶

織田信長と
秀吉のキリ
スト教に對
する政策を
比較せよ。
且、耶蘇會
の活動に關
して、いかに
像をすることに
か。

キリスト
教の歴史

オランダ・
イギリスと
の通商

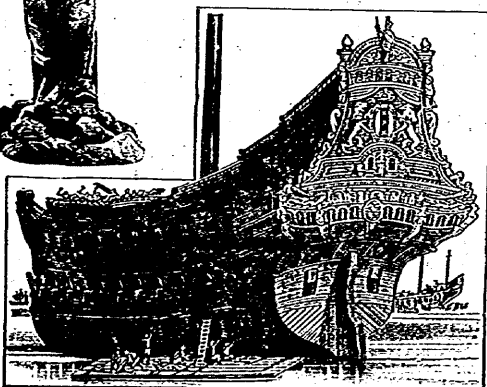
オランダ國
の盛頭

オランダ船
漂着

長元年に、イスパニヤの船が土佐の海岸に漂着し、その乗組員の言により、布教が政略的の意味を有するを疑ひ、秀吉は耶穌會及び他派の宣教師等を捕へて、長崎で處刑した。かかる弾壓を蒙つても、キリスト教の布教は、餘り衰へなかつた。

ヨーロッパでは、イスパニヤの屬國であつたオランダが獨立し、その後オランダは、(天正九年即元二二三年)イスパニヤ・ポルトガルと海上權を爭ひ、東洋貿易に志し、東印度會社を起して、次第にポルトガルの勢力を驅逐して來た。

偶、慶長五年、オランダの船リーフデー號が



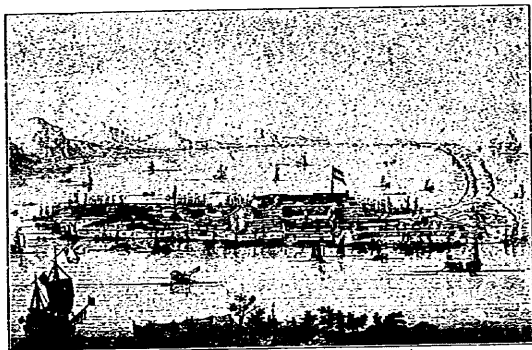
像の者尊狄貨と船のダンラオ
(のもたれらせ附に船の船商で像のスムスラエは貨)

豊後に漂着したとき、徳川家康は海外貿易を望んでゐたから、船を堺

ヤン・ヨーステン
ウィリヤム・
アダムス

オランダと
の通商

イギリスと
の通商



街市アデンラーゼ岸海西泗峯

に廻させ、後更に浦賀に招いた。そしてその乗組員オランダ人ヤン・ヨーステンと、イギリス人ウィリヤム・アダムスとを江戸に召し、厚く扶持し、邸宅を與へ、海外の事情を聞き、西洋式の帆船を造らしめなどした。

その後、オランダは國書を呈して通商を求めたが、家康は平戸に商館を置き、自由貿易すべき許可を與へた。その後オランダは、ジャバ島にバタヴィヤ府を開き、全くポルトガル・イスパニヤを壓し、臺灣をも占領し、永く我が國に來り、鎖國の後までも貿易を繼續した。

イギリスは、オランダよりも早く、東印度會社を起して、東洋の經營に従つてゐ

たが、オランダについて、使を遣はし、國書を呈し、通商を求めたので、家康はその請を許し、平戸に商館を建てしめた。されどイギリス人は、オランダ人と、東方貿易に競争して失敗し、元和七年遂に平戸の商館を閉鎖した。

(元三三八一)

メキシコとの交通

ノビスパンとの通商の意図

支倉常長の遺骸使節

江戸時代初期に於ける我が國民の海外発展の意氣の旺盛なりし實情をあげてその狀を思へ、そして更にそれ等が十分の成功を期待し得なかつた理由につき考察せよ。

我が國民の南洋方面の發展

家康は、アダムス等から既に海外の事情を知り、進んでメキシコ(渡比數般)と貿易を開かうとの志を有してゐた。そこで慶長十五年に我が國にゐたイスパニヤの宣教師に、京都の商人田中勝助を従はしめて、遣はして交渉に當らせたが、その意を達しなかつた。

また伊達政宗は海外の事情を知らんとして、その家臣支倉常長を、イスパニヤとローマとに遣はした。そして我が國とメキシコとの通商を議せしめたが、その交渉の目的はまた達し得なかつた。

さきに秀吉は、我が國民の海外渡航の船に、貿易許可の朱印狀を與へたが、家康・秀忠もまたこれをついて、我が商人をして、南洋貿易をな

幕府の海外貿易の獎勵

御朱印船

我が國人の海外發展

貿易上の活動

御朱印船の活動した大體の地理的範圍につき述べて、その地方は今何處の領地となつてゐるか。

南洋の植民地國威の發揚



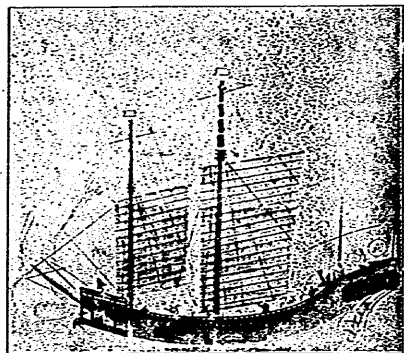
狀印朱航渡船ダンラオ (藏館書文ゲーハ・ダンラオ)

さしめ、澳門・安南・シム・交趾・ルスン・ジャワ・ボルネオ・ゴア等と通商を開き熱心に貿易を獎勵した。そしてこれ等に渡航する船舶には、朱印狀が與へられたので、これを御朱印船といふ。京都の角倉了以、大坂の末吉孫左衛門、堺の納屋助左衛門、長崎の末次平藏などは、有名な貿易商であつて、その船も、角倉船・末吉船・末次船などの名をもつて呼ばれた。

朱印狀は、我が商人のみに限らないで外國船にも與へて來航を許した。

かくて貿易の盛になるにつれ、東京・交趾・シム・ルスン等には、我が國人の建てた植民地が出来、日本町さへ設けられた。中にも山田長政・濱田彌兵衛などは、海外に名を轟かせた。また肥前

我が南洋方面發展の態



船 本 荒

島原城主、松倉重政の如きは、ルソンを征討しようとして企てた程であつて、我が國人の海外發展の思想は、上下に横溢してゐた。

されども當時南洋方面に於ける我が國人の活動は主として個人的の事業で、我が國家の統制ある支持を得てゐなかつた。これがためポルトガル、イスパニ

發展の成果

西洋文化の傳來とその影響

ヤ諸國の發展が國家の鞏固な植民政策を基礎とし、また耶穌會宣傳の強い信仰的基礎の上に立つて、統制のある活動をなしてゐたのと異なるものがあつた。従つて我が國民發展の成果に至つては國家的には價値の少ないものであつた。

西洋人の渡來によつて、西洋文化の傳へられたものが多く、我が國

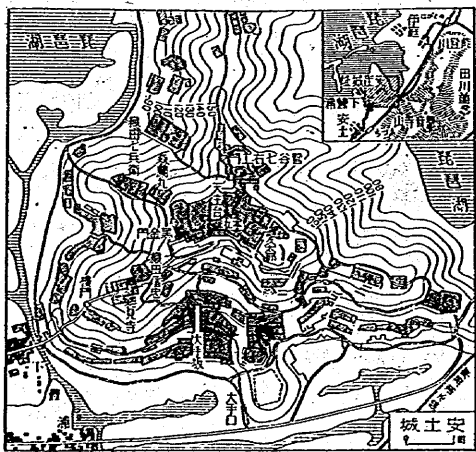
鐵砲・大砲の傳來とその政治的影響



(部一風屏篠長) 砲 砲 活 躍 の 影 響

の進歩發達に資する所が偉大で、社會上政治上の影響は極めて重大であつた。

鐵砲の傳來は續いて大砲等の武器の輸入となり、我が戰鬪法、築城術及び造船術の上に一大變革を齎らし、戰國時代の統一を促した効果は大きかつた。信長の築いた安土城及び大坂灣の海戰に用ひた鐵裝戰艦は、築城及び造船に新しい紀元を劃した。そして



西洋人との
貿易とその
結果

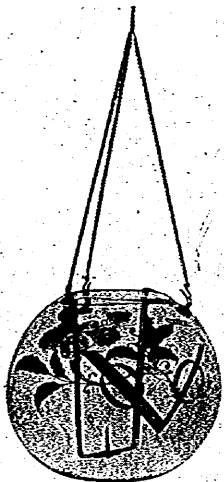
輸入品

輸出品

西歐諸國の
重商政策と
正貨の流失

鐵砲が信長に最も有効に用ひられたのは、長篠戦役であるが、これにより、個人的の戦闘が、漸次集團化して戦術の革新を促した。

ヨーロッパ人との貿易も、漸次盛となつた。されどその輸入品は、何れも不生産的な食料衣類調度の如き、奢侈品の類であつた。また我が國からの輸出品は刀劍漆器屏風金銅の如きものであつて、輸入品は何れも高價にして、輸出品をもつて償ふべくもなかつた。かく



鐘 燈 釣 シ マ ャ キ
は VOC。るあが立獨横に中)
(標商の社合資印東ダンラオ)

て歐洲諸國の、重商主義に基づく貿易策と、我が國人の貿易上の關心との結果、夥しい正貨が海外に流失したことは、實に國家經濟の上から憂慮すべき問題であつた。後年鎖國後のことなれば、かかる形勢は既に減じてゐた時でさへ、新井白石は對外貿易の國家經濟

キリスト教
の弘通と西
洋文化
學會
林堂宣教と文化
政策

西洋學術

上寒心にたへないで、長崎新令を制して、貿易政策を改めた程であつた。

キリスト教が布教せられてから、その教會堂は諸國に設けられ、近江の安土、豊後の府内及び臼杵^{ウスキ}などには、その學林があつて、神學を初

として他の學術も傳へられた。特に天

草有馬長崎などでは、西洋からもち來つた活字により、ラテン語ラテンの對譯、日本語ポルトガル對譯などの辭書も出版

せられ、日本語をローマ字で綴つたイソッ

ブ物語や、平家物語もあつた。また我が

國の活字で、簡単なキリスト教の教義書

や、辭書類も刊行せられた。また物理化

學などに關し西洋科學の知識が傳來し



桑 辭 葡 日



語物家平親草天

た。

ヨーロッパ風の風俗
生活の向上

キリスト教禁
教鎖國政策
家康のキリ
スト教に對
する政策
オランダと
イスパニヤ
との對抗

またキリスト教の信者の間には、その教名を用ひたり、印章にローマ字を現すなどのことが行はれ、ヨーロッパ風の風俗が漸く流行した。そしてポルトガル・イスパニヤ人によつて輸入された物品の名稱が、原語のままに國語化したものも多い。かくてこれ等の事情によつて、戦國時代末期安土・桃山時代に於て我が文化の發達、生活向上に對して西洋文明の影響がかなり認められる。

家康は秀吉と同じく、キリスト教の布教は好まなかつたが、貿易獎勵のため寛大に取扱つたから、耶蘇會以外の舊教も漸く布教され、天主教の勢は、また盛になつた。オランダ人は、イスパニヤ・ポルトガル人を我が國から驅逐しようとして、頻りに彼等が布教によつて領土を侵略せんとする野心があると、幕府に告げた。これに加へて教派の内訌があり、且信徒中には、邦人にして尙往々に國家内外の別を忘

徳川家康の
キリスト教
禁制

貿易と布教

れて熱中するものが出たので、家康は、我が國の社會上及び政治上の治安を保つために、遂に慶長十七年にキリスト教禁制の令を發し、その弊を除かうとした。そして宣教師並びに邦人の信者を捉へて、海外に追放した。また我が多數の信徒の中で、改宗の命を奉ぜぬものは酷刑に處した。これから、イスパニヤ・ポルトガルの船の來朝は、少くなつた。



白磁製菩薩像

禁制の目的は、容易に達し得られなかつた。そこで秀忠は先づ明船の外は、貿易場を長崎・平戸の二港に限り、貿易を縮少すると共に、一面キリスト教の宣

徳川家光の
禁教詔に
關する

島原の亂が
政治上から
見て重要な
意義につ
いて述べ

教師の探索に便ならしめた。その後家光の時更にポルトガル人を、長崎に出島を築いて、ここを限つて居留せしめ、ついで寛永十年には、御朱印船の外は國人の海外渡航を禁じた。更に十三年五月には、我が船舶の海外渡航を禁じ、これを犯すもの、及び長く外國に居住せる國民の、歸朝するものは死刑に處することとして、愈、キリスト教の禁制は嚴重になつた。

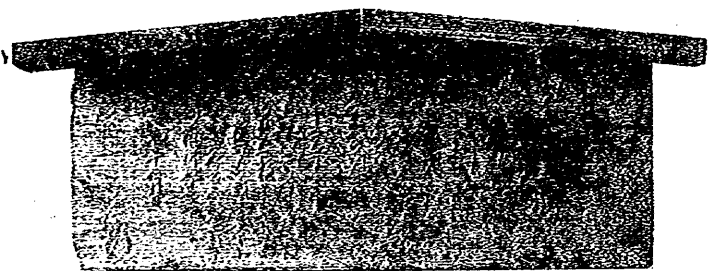
わが國の
キリスト教の
禁制は、
寛永十年
に、御朱
印船の外
は國人の
海外渡航
を禁じた。
更に十
三年五月
には、我
が船舶の
海外渡航
を禁じ、
これを犯
すもの、
及び長く
外國に居
住せる國
民の、歸
朝するも
のは死刑
に處すこ
として、
愈、キリ
スト教の
禁制は嚴
重になつ
た。

禁教政策の
徹底

鎖國

かくて幕府は、殆ど貿易を犠牲にしても、國內のキリスト教徒撲滅の決意をなし、全力を注いだ。だが信仰は依然行はれた。

特に島原の亂後、幕府の禁令は愈、嚴重を加へ、長崎出島のポルトガル人を放逐し、その船舶の來航を禁じた。更に十六年には外國船の來航、邦人の海外渡航を嚴禁し、犯すものは嚴罰に處することとし、全



元禄九年八月
切丹家門改帳
井通石堂書
九月八日
島原の亂後、幕府の禁令は愈、嚴重を加へ、長崎出島のポルトガル人を放逐し、その船舶の來航を禁じた。更に十六年には外國船の來航、邦人の海外渡航を嚴禁し、犯すものは嚴罰に處することとし、全

物遺係關ンタシリキ
札高制禁ンタシリキ 國上
帳改門宗 國中
女證びろこンタシリキ 國下

宗門改

ま　さ　の　行　執　給　踏

く鎖國することとなつた。但しオランダ人だけはキリスト教とは關係がなく、且、島原の亂に幕府を助けたので、例外として貿易を許した。

また幕府は毎年國民の宗門改を行つて、寺院にその信徒の宗旨を立證せしめ、キリスト教の信徒多き地方では、永く踏繪を行はしめた。これがため、國民はすべて佛教徒となり、檀那寺を定めたので、僧侶はその戸籍まで扱つて安逸に耽り、佛教界を沈滞せしむる

踏繪

鎖國政策の得失

たから、權力が漸く加はり、却つて安逸に耽り、佛教界を沈滞せしむる結果となつた。

かくて幕府は、キリスト教禁令の目的を達したが、西洋諸國と交渉

鎖國につき種々の方面から考察した鎖國のこととが一概に無謀無定に見え失政であつたと考へる弊を去らねばならぬ。

鎖國の利益

國內生活

の安定

の發達

資料の提供

金田の要

海外發展

の阻止

士見事乎

に疎し

Index

外國貿易の

外國貿易

1

—

外國貿易の

制限

市二條、下人の志卜菱菱と西平文化の専來

五三

を絶つたため、我が國をして、世界の國際紛争から孤立せしめた。これによつて國內の太平を保ち、封建制度は完備し、正貨の流失を制し、國內産業の進歩、文教の發達を致し、我が國民固有の思想と文化との進歩を促した。

されど鎖國のために、我が國民の、海外發展の思想は全く抑へられ、南支那から南洋へかけての、植民事業は放棄された。そして國民は、海外の形勢に關しては、僅かに長崎に入港した、オランダ船の齋すもの、を傳へ聞いて、その事情を知るに過ぎなかつたから、全く世界の進運に遠ざかるに至つた。

鎖國後幕府は、支那人及びオランダ人との貿易を、長崎に於て行はしめ、オランダ人を長崎出島に移し、その商船の來航も、毎年一回だけに制限した。また支那人を唐人屋敷に移し、その商船の來航は、毎年三回を限つて入港を許した。かくて貿易は非常な制限をうけたが、

長崎新令

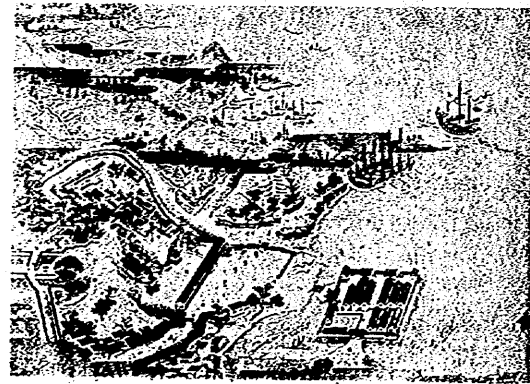
西洋人の日本に關する知識

耶穌會宣教師の報告



トルボシ

代にかけ
て、我が國
にゐた耶穌會の宣教師の報告や、慶長元
和頃のイギリス人の書翰によつて、我が
國情はヨーロッパに紹介されたが鎖國



四座山原の橋を渡る大船の海軍

ケンベル・ツンベルグ・シーボルト等の著書

西洋科學の教授

江戸幕府の財政經濟政策

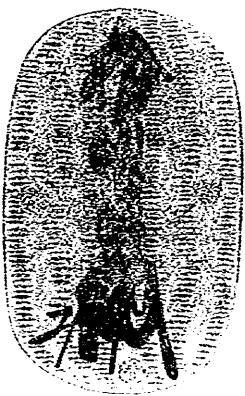
徳川家康の經濟政策

後は、僅かに、オランダ人のみによつて、傳へられるに過ぎなかつた。オランダの使節に隨うて來た、ケンベル・ツンベルグ・シーボルトなどいふ學者が、江戸に參府し、或は長く長崎に留つて、我が國情、國民性、文化などを視察し、紀行文、地誌等を出版して、ヨーロッパ人に紹介した。そして彼等は直接に、我が學者に、醫學、植物學等の西洋の科學研究の指導をしたので、その文化の上に大きな影響を與へた。

第三章 經濟の進展

安土・桃山時代の豪華絢爛な思潮の後をうけて、徳川家康は自から質素儉約を旨とし、勤儉の範を士民に示した。そしてまた、ひたすら國家財政に意を用ひ、朝鮮支那並びに西洋諸國と通商貿易を營んで利益を獲、更に佐渡越後・但馬・石見等の諸鑛山から、盛に金・銀・銅を採掘して貨幣を鑄た。

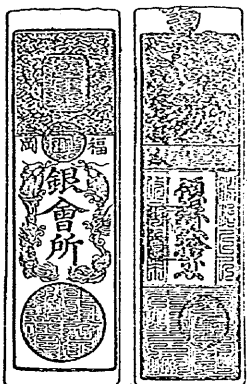
幣制の統一



大判



小判



福 銀會所

江戸時代造幣の權は主として幕府が握り、金座銀座錢座の制を立て、後藤光次をして鑄造のことに當らしめ、勘定奉行の所管の下に置いた。そして家康は慶長金貨(大判金・小判金・一歩判金・銀貨・丁銀・豆板銀・錢貨(慶長通寶)を造らしめ、幣制が幕府により統一せられた。かくて貨幣經濟が行はれ、陸上海上の交通通信の發達、都市の發達等と相俟つて、經濟の發達を促すことが大であつた。

その後幕府は、歴代何れも産業を興して、國民の福利増進を圖ることを念としたので、財政の基礎は頗る

産業振興の形勢

農業の發達と農業學說

江戸時代の石高とその配當

農民の社會的地位

農業振興に對する政策

安定した。かくて諸藩にあつても財政を獨立し、幕府の政策に應じて、藩札を發行し、爲替手形が商人の間に行はれた。かくして江戸時代の經濟の進展は全國を通じて、實に目ざましいものがあつた。

封建の體制によつて、全國土地の石高約三千萬石の中、大名の領地は約二千三百萬石、公家並びに旗本諸士の采地が約三百萬石、幕府の所領は約四百萬石であつた。そして封建制度は土地經濟に立脚してゐるため、農業を以て經濟の本位とした。

土地制度にあつては、幕府並びに諸藩を通じて、土地の所有權は民衆に附與し、その税率は地方により、藩の狀況に従ひ相違してはゐたが、概ね高く、農民の日常生活は極めて程度が低かつた。併しその社會上の地位は、生産者であるために、武士に次いで重んぜられた。そして田畠の永代賣は禁止されて、土地の兼併が防がれた。また困窮の小農については、救済の途を考へ、その業務に勵むべき愛護の法が

講ぜられた。更に一方山野荒蕪地の開墾と、農法の改善とに心を用ひ、産額の増大を圖つたから、農業は大いに進歩した。

農業學說

宮崎安貞
の農業全書

安藝の人宮崎安貞は自から諸國の老農を訪ねて教を聞き、また實



佐藤信淵

際農業生活の體驗を通じて農業全書を著し、穀菜の栽培植林より、生類養法などに至るまで細かに説いた。また佐藤信淵は農業の家に生れ、廣く各地の地質・風

佐藤信淵
の農業新説

二宮尊徳
の報徳社

土を研究し、更に蘭學を修めてその學說を加味して、農業の新説を唱へた。ついで二宮尊徳も農を本とし、殖産理財に明るく、また農業に基づくその處世訓は、よく郷人を徳化し、報徳社



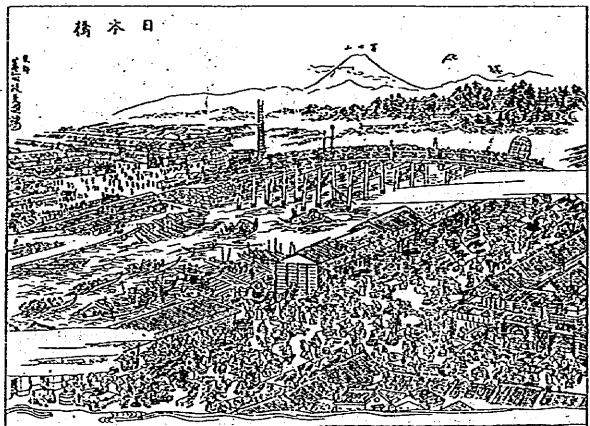
二宮尊徳の蹟

交通の發達

●陸上交通
中央集權と
交通路

江戸中心の
交通路網

五街道と街
路施設



日本橋

を起して相互の扶助を説き、民治に益した。

交通の發達整備は、中央集權の制度を立てるに必要であつたから、家康以來海陸の交通に力を盡くした。

京都は、永い間政治の中心であつたから、これを中心とした陸上水上交通は、早くから發達した。江戸に幕府が開かれ、政治の中心となつてから、陸上水上交通の體系が立てられる必要が起つた。されば江戸日本橋を起點として、東海道・中山道・日光街道・奥州街道・甲州街道の、五街道が設けられた。



東京の荒川の一里塚

幕府はこれ等の街道につき、道幅を廣め、兩側に並木を植ゑ、また江戸日本橋を起點として、一里塚を築き、榎を植ゑて、道程を知るに便ならしめた。また數里毎に宿驛を設け、人夫・驛馬・傳馬を備へ、大名宿舎たる本陣を始め、旅宿の備をなして、公用の往來、並びに私人の旅の用に供せしめた。

陸上交通網の整備

かくてこれ等の交通施設は、参勤交代の制度に伴ひ、益々備はり、五街道を幹線として、北國路・中國路・長崎路・伊勢路・水戸街道など、諸地方の側街道も發達し、陸上交通網の整備は著しかつた。

交通の發達と共に幕府は、軍事上並びに警察上の政策から、故に河川によつては橋を架けず、徒渉、または船橋によらしめ、また要所に關所を設けて旅人を檢した。渡船では東海道の熱田・桑名間の七里

江戸幕府が交通の發達に對して、いかなる政策をとつたか。

政治的・軍略的立場と交通路

水上交通

河川開鑿



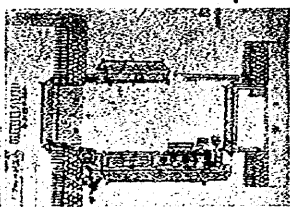
大井川の荒川

の渡と、大井川・葦臺渡、關所では東海道の箱根、中山道の福島・碓氷峠は最も有名で、これ等のため、交通は甚だしく妨害された。

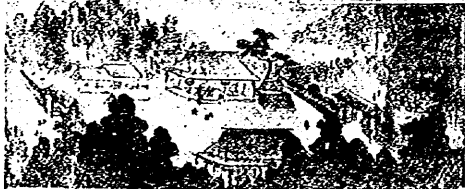
水運について

は、慶長の頃、角倉了以が、幕命によつて、従來船の通らなかつた、保津川・高瀬川・富士川・天龍川を開いて舟運を通じた。また

將軍家綱の頃、河村瑞賢は命を受けて大坂に安治川を開鑿して、淀川の舟運を便にした。



箱根關所及びその平面圖



江戸時代水上交通の發達して來た事情について、また江戸の大都市として發達するに當つて海上交通の促進せられた事情を考へ

海上交通

江戸・大坂間の交通

大船の建造が禁ぜられ、外國貿易も鎖されたが、國內商業の發達につれて、沿岸航路は著しく發達した。古來瀬戸内海、九州地方の航路は、よく發達してゐたが、江戸時代に入つて、江戸・大坂間の海運が開かれ、また瑞賢の苦心の結果、江戸と陸奥・出羽と下關間の二航路が開かれた。かくて江戸・大坂を中心として、全國の沿海航路は、全く連絡せられた。

江戸發展に伴ふ運輸交通の發達



飛脚
江戸時代における公用飛脚の急用
飛脚の各種各様の俗名を示す。

江戸は政治の中心として、漸次發展し、人口の増加に伴ひ、物資の消費著しく加はり、これが補給のために、江戸・大坂間の海運は盛となつた。これ等兩地の商人等は、互に問屋組合を作つて、菱垣廻船を通じて物資の輸送に當り、また樽廻船の間屋も出來て、攝津灘地方の酒類の輸送

國民經濟の成立

通信機關

飛脚

爲替

都市の發達

都市の發達

三都の廣大

江戸時代に於ける城下町の經濟上の意義について



江戸時代の旅行風景

替によつて、金子送達の方法も講ぜられてゐた。太平で、交通の發達と商業の進歩によつて、全國に都市が興つた。これ等の中、京都は古來の公家都市であり、大坂は全國の

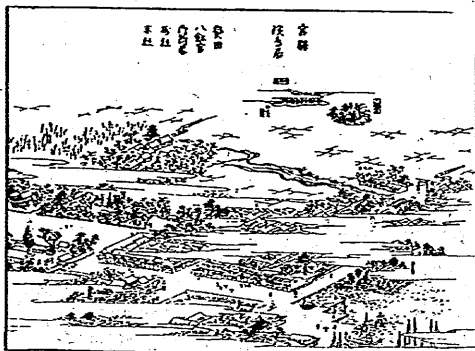
に當り、取引が盛となつた。更に奥羽地方との航路が開けるに及んで、その米穀の運輸も行はれ、眞に陸上交通の發達と相俟つて、地方經濟は進んで、國民經濟を成立せしめるに至つた。

通信機關として、飛脚は早くからあつたが、江戸時代になつて飛脚制度も整つた。そして江戸・大坂・京都の三都を中心に各地に發達し、幕府の公用、大名用の外、私用の町飛脚も廣く行はれた。それから爲

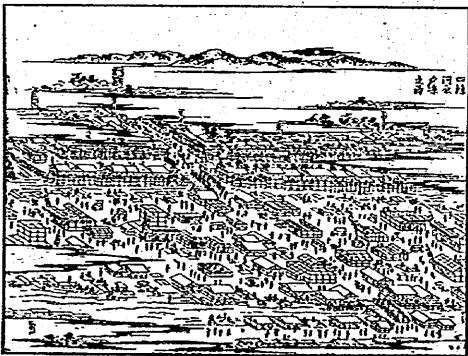
江戸時代都市の發達につきそれぞれの事情について説明せよ。

地方的の大都市
城下町
宿驛町

門前町



熱田



京都河原の夕涼み

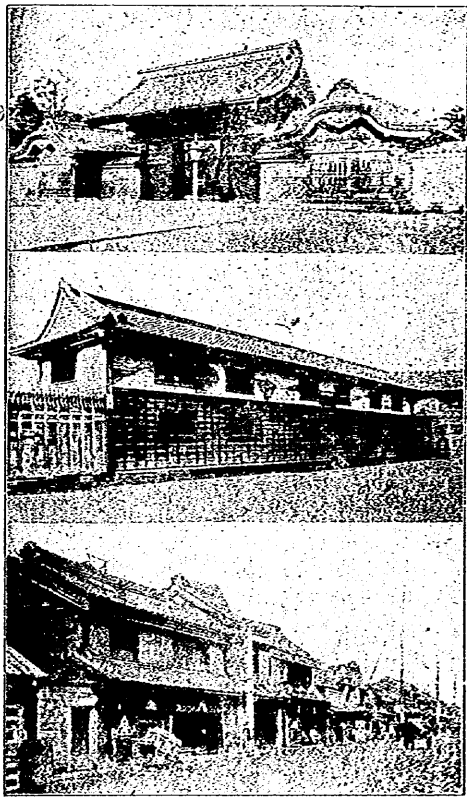
た奈良山田などは、社寺の門前町として繁昌した。そしてこれ等の中、江戸を始め、城下町にあつては、概ね

經濟中心地であり、江戸は政治の中心であつたため、それ等都市の人口は頗る多く、江戸の人口は百萬といはれた。その他地方にあつては、名古屋・金澤・仙臺・廣島・熊本などは城下町として、長崎・博多・兵庫・堺・下關・敦賀などは港として、熱田・伏見・大津等は宿驛として發達した。ま

都市とその市政

商工業の發展と町人の權頭
問屋制度

組合



(上)大名屋敷 (中)長屋 (下)町屋

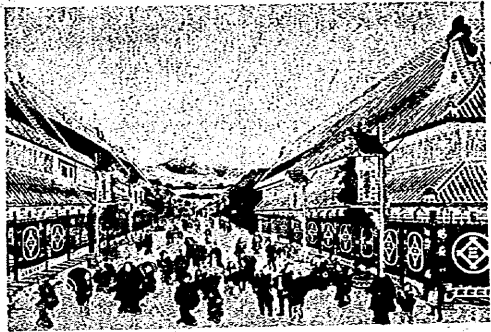
買なし、小賣商に卸させ、それぞれ組合をつて、全國の實業の實

武士の邸宅地と町家との區劃が定まつた。また警察を始め、防火の制度も整ひ、水道まで備へて、市政の整備されたものも少くなかつた。都市が勃興し、交通が便利になり、貨幣の流通が圓滑になつてから、商業は大いに興り、問屋制度が起つた。問屋は商品を生産地から仲

小賣商の發達
行商

市場の全國的擴大

工業の發達と時代の風潮



江戸日本橋越後屋

戸大坂を中心として、全國の産物が集中するに至り、市場が全國的に擴大された。かかる形勢と、諸藩に於ける産業獎勵と相俟つて、各地の工業も益々進歩した。そして陶器では、京都の仁清乾山、燒清水、燒肥前の伊萬里、燒加賀の九谷、燒などの如き、精巧のものを出した。また調度としては、優美な金工、蒔繪、漆器、染織では、京都の西陣織を始め、羽二重、縮緬、友禪、染鹿

江戸時代に
經濟上町人
が漸次抬頭
して遂に武
士を壓倒す
るに至つた
事情につい
て理解せよ。

土地經濟から貨幣經濟への推移

町人の發達と武士の頽廢

儒學の發達とその影響

子紋などの製作は、何れも著はれた。かくて一般に、社會生活の程度が高まり、奢侈華美に赴く時代の風尚に従つて、實用を超えた高價なものも現れた。

かくの如く、商工業の發達に伴うて、土地經濟から貨幣經濟に推移するに従ひ、これに従事した商工業者、即ち町人が、社會上に著しく勢力を得て來た。ために元祿以後に於ける、町人の發達は實に目ざましく、經濟上の變動のため、生活の困難となつた武士は、町人のために漸次壓倒されて行く形勢が現れた。

第四章 文教の發達

儒學の興隆は、徳川家康を始め、歴代將軍の獎勵にもよるが、また時代の風潮でもあつた。朝廷にても、後水尾、後光明兩天皇をはじめ奉り、後西靈、元兩天皇も、儒學の御教養深くあらせられた。幕府でも將

儒學の發達
興隆

軍綱吉の好學は有名であり、大名の中
では、保科正之、徳川光圀、前田綱紀、池田
光政等は、何れも儒學の造詣が深く、下
つて庶民の間にも、大家が輩出した。

●朱子學派

朱子學は、鎌倉時代の末に我が國に

傳はり、その



後僅かに、五山僧侶の手によつて、命脈をつ
ながれたが、桃山時代になつて、藤原惺窩が
田 出で、その門人林道春が、家康に聘せられ、幕
府の學制を掌り、學問の興隆に力を盡くし
紀 た。道春の後、その子鷲峰、孫鳳岡、共に著は
れた。また木下順庵も將軍綱吉に登用せ
られ、その門下に新井白石、室鳩巢等の大儒

江戸時代に
於て學問の
發達した事
實につきて考
察せよ。

京 學

正學として
の朱子學

が多く出た。後に松平定信の執政の頃、林述齋、柴野栗山、尾藤二洲、古
賀精里などが出て、隆盛を極め、朱子學をもつて正學としたため、最も
弘く行はれた。

土佐學

水戸學

●朱子學以
外の學派

陽明學

朱子學は、我が國に傳はり、その
後僅かに、五山僧侶の手によつて、命脈をつ
ながれたが、桃山時代になつて、藤原惺窩が
田 出で、その門人林道春が、家康に聘せられ、幕
府の學制を掌り、學問の興隆に力を盡くし
紀 た。道春の後、その子鷲峰、孫鳳岡、共に著は
れた。また木下順庵も將軍綱吉に登用せ
られ、その門下に新井白石、室鳩巢等の大儒

熊澤藩の筆自山

また朱子學以外にも種々の學
派が興つた。陽明學は明の王陽
明に起り、將軍家光の時に中江藤
樹が始めて主唱し、實踐躬行を重
んじ、その門人に熊澤蕃山があつ

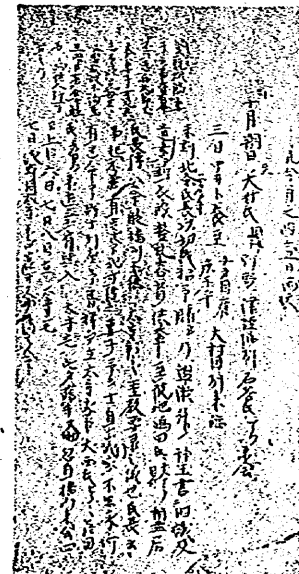
七

江戸時代儒
の發達が
我が國民の
精神生活に
及ぼせる
影響に
考察せよ。

武士道精神
の完成
武士道の觀
念的自覺
忠孝一致の
思想
武士道精神
と町人

めて、國民思想上に貢獻する所が多かつた。主從關係の如きも、從來は實際の恩惠恩義によるものであつたが、漸次觀念的のものととなり、主從は三世とか、忠臣は二君に仕へずなど、いふ思想が確立するに至つた。また大義名分の思想についても、本來我が國民は、固有の道德として、大義名分の道を重んじ、早くより武士道の根本をなした。それが儒教思想の感化を受けて、大いに銑鍊せられ、忠孝一致、若しくは一本の思想は、一層觀念的に自覺せられ、武士道に對して、倫理的の基礎が與へられるに至つた。

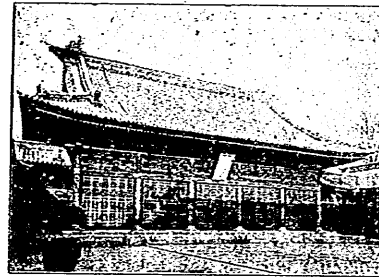
武士道の精神は、單に武士の間にのみ限られず、廣く庶民に多くの



山縣南行日記
(山縣時長高麗已氏)

教育機關

昌平校



大成殿

影響を與へて來た。されば町人の間にも、手代と主人との關係は、武士の主從關係と類し、利害を超越して義理が重んぜられ、また商人間に約束が重んぜられて來た。

儒學の隆盛に伴うて、教育の機關も漸

く普及した。幕

府は綱吉の時、林

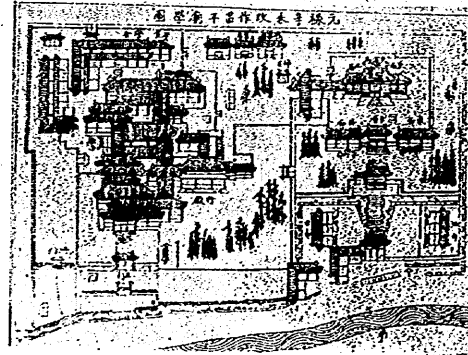
鳳岡の私塾を忍

岡から湯島に移し、聖堂を建立して、これを幕

府の直轄となした。その後家齊の頃、林述齋

の議を容れて、聖堂の規模をひろげ、昌平坂學

問所と稱し、昌平校(塾)ともいつて、幕府督勵の



昌平學廟

藩學



林 遠 齋

下に、旗本諸士をして朱子學を學ばしめた。この頃諸藩に於ても、藩學を起して、子弟の教育に、意を用ひる風が興り、名古屋の明倫堂、水戸の彰考館、會津の日新館、仙臺の養賢堂、米澤の興讓館、萩の明倫館、佐賀の弘道館、熊本の時習館、鹿兒島の造士館等は、何れも多くの人材を養成して、最も有名である。

併し幕府や各藩の教育は、武士の教育を主としたのであつて、庶民には殆ど及ばなかつた。ただ岡山藩の池田光政が、閑谷校シヤノミを創めてから、諸藩に刺戟を與へて、藩民教育を促したことは、著しいことである。然るに庶民は次第に擡頭し、生活が向上して來たので、庶民の教育が興つて來た。その教化の程度の高いものには、民間學者の私塾私塾があり、また程度の低いものとしては、寺子屋寺子屋、手習師匠手習師匠は、到る所の寒

江戸時代の教育機關に於いて系統よく見

手習師匠

心學

通俗文學と社會教化

文藝の發達

漢文・漢詩

和歌



寺子屋の圖

村にも出來、初步の讀書習字を教へた。また吉宗の頃に、石田梅巖は心學を創め、道德を平易に説明して、非常な効果をあげた。また勸善懲惡を本位として行はれた淨瑠璃演劇、小説なども、社會教育民衆教化に與つて大いに効果があつた。

儒學の普及につれ、漢文・漢詩も廣く行はれ、祇園南海、服部南郭などが出て、後には頼山陽、齋藤拙堂、梁川星巖などは、何れも著名であつた。これ等は文字の修飾と、道德的内容に多く拘束せられた嫌はあつたが、それ等の詩文の思想的感化は、また大きかつた。國學の發達に伴うて、和歌は綱吉の頃北村季吟、契沖などが、先づ著はれたが、眞淵は萬葉集を研究し、その古調を唱へて歌壇に清新の氣

眞淵の萬葉古調
加藤千蔭村田春海
新古今調

平民文藝の發達

連歌と俳諧

溫澤馬琴の八代傳を始
め、江戸時
代の小説・
戯曲等では
義理と人情
との對立に
於て、人情
は十分の同情
はするが、
併し義理の
重きを主張
した。劇善
精神の作興
なども通俗文
學的の有所
果のあつた
一面を解せ
よ。



溫澤馬琴

を齎らした。その門から加藤千蔭・村田春海などが出て、新古今の歌調を唱へて、江戸に門戸を張つた。これに對して、香川景樹等は京都にあつて著はれた。これ等は主として實感を重んじ、自然の描寫に巧であつた。併し和歌は、傳統的の文學であつて貴族的の特色が多かつた。

和歌の貴族的色彩あるに反して、平民文學として、俳諧・戯曲・小説等の發達は、實に目ざましく、時代の特色とも考へられた。

室町時代から連歌が行はれて來たが、山崎宗鑑や荒木田守武などは連歌から發句を創め、俳諧の新作法を立てた。江戸時代に入つて、松永貞徳・西山宗因等によつて、俳諧は益々流行した。然るに綱吉

芭蕉と俳風の一變

狂歌・狂句
太田蜀山人

川柳
柄井川柳

戯曲
近松門左衛門

竹田出雲
近松半二
鶴屋南北

小説

の頃に、松尾芭蕉が出づるに及んで、從來の俳風を一變して正風體を唱へ、その風が天下を風靡した。その門人、榎本其角・服部嵐雪等は何れも著はれた。また將軍家治の頃、與謝蕪村・小林一茶などが出て、各獨自の風を立てた。そして俳諧は、その心境の優雅なると、入門し易いため、遂に普く民間に行はれた。

また俳諧と共に、狂歌・狂句が興つた。狂歌は、家治の頃に、太田蜀山人・右川雅望等の巨匠が輩出し、専ら滑稽諧謔を弄した。狂句は、綱吉の頃から漸く行はれたが、また家治の頃、柄井川柳が出て、所謂川柳を創め、奇抜の外に、時代を諷刺する意を寓し、特異の風を立てた。

淨瑠璃と操りの發達に従つて、戯曲が進歩した。綱吉の頃、近松門左衛門が出て、最も名聲を博し、時代物・世話物を通じ、多くの名篇を残した。この他、竹田出雲・近松半二等が出て、少し後れて、鶴屋南北など、何れも戯曲家として有名であつた。また小説は、從來の架空の御伽噺

平民文藝の發達と時代的世相、人の心の推移との關係について理解せよ。

そして平民文學に共通な大衆的な特色について、またその時代に世相がよく反映してゐる點について考察せよ。

井原西鶴
山東京傳
瀧澤馬琴
式亭三馬
九十返舍一

特色



を描ける、假名草紙から全く變化し、人情の機微を穿ち民衆の社會生活の世相を山描いた。元祿の頃には、井原西鶴が出て、東後には山東京傳、瀧澤馬琴、式亭三馬、返舎一九などが、著はれて、廣く流行した。傳そしてこれ等の小説は、概ね通俗的であつて、日常生活の實際に、即するものが少くなかつた。その風俗人情を表はすに當つては、時代思想の影響を受けることが多く、卑猥に墮するものもあつた。

蘭學の發達とその影響

蘭學は吉宗が洋書輸入の禁を弛め、更に青木昆陽を、長崎に遣つてオランダ語の研究をさせてから興つた。その門人には前野良澤が出て、長崎で蘭學を學び、後に杉田玄白等と苦心慘憺して、オランダ語

蘭學研究に關して、その當初適當な辭書・教科書なく、科書の譯出一語目を出したといふやうな、いかに學者が苦心陰戔したが蘭學事始に書かれたる。當世學生研學上の一抔の清涼劑とならう。

解體新書

商學階梯

波留察和解

蘭學研究の
範圍擴大



芝 蘭 堂 新 元 會

の人體解剖書を翻譯し、解體新書と名づけて出版した。また良澤の門人大槻玄澤は更に長崎に學んでオランダ語の書を譯し、蘭學階梯」として出版し、蘭學の入門書としたから、蘭學者が増加した。更にその後稻村三伯は、ハルマ蘭佛辭典の説明を和譯して、『波留麻和解』と名稱しここに始めて蘭和辭書が出来た。

かくて蘭學の研究は、初は醫學によつて西洋の文化が研究されて、幕末から明治にか

A	全一冊 二巻
<i>Ablank, Z.B.</i>	空白
<i>Abcangien, Z.M.</i>	アベカンギエン
<i>Abeciang, Z.M.</i>	アベカンギエン
<i>af, affje</i>	アフ
<i>af, Z.V.</i>	アフ
<i>Af, fch, en angie</i>	アフ
<i>afje, angf.</i>	アフ
<i>afje, afje, och</i>	アフ
<i>Paven, W.W.</i>	パヴェン
<i>Pak, Z.M.</i>	パク

波 留 麻 和 解 一 頁

[illegible]

翻譯局

西洋理化
學
蕃書調所

醫學の發
達

物理・化學



蘭學分館

けて、新時代をつくるため、貢獻した蘭學者が多かつた。即ち家齊の頃から、幕府では、大槻玄澤等の蘭學者を登用して、翻譯局を設け、イギリス、ロシアを始め、フランス等の諸國語を研究せしめ、外交に備へんとした。また蘭學の發達に伴うて、天文、曆學、植物學を始め、西洋の理化學も輸入せられ、蕃書調所が設けられて、人材を養成したので、その進歩が著しかつた。醫學は、從來の漢法醫が衰へて、蘭醫がこれに代り、西洋醫學が發達した。ドイツ人シーボルトは、滞在してゐる間に、醫學、博物學等を指導して、これ等の發達に大いに貢獻し、幕府でも西洋醫學所を設けた。またこれに刺戟せられて、日本流醫學も興つた。

また西洋の物理化學も傳はり、家治の頃には、平賀源内は早く電氣

砲術・兵學

鎗砲

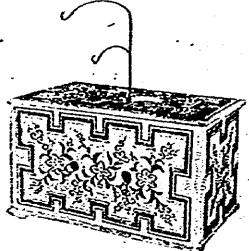
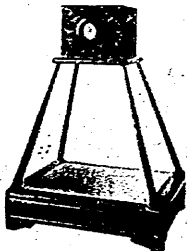
伊能忠敬
の實測圖

美術工藝の
發達

狩野派中興



平賀源内



エレクトリ

平賀源内の發明品

機械を作つて、時人を驚かした。また國防の必要から、西洋兵學の研究が興り、高島秋帆はオランダ人から砲術を學び、幕府に召されて、武藏の徳丸ヶ原で實演を行ひ、幕府の砲術指南となつた。その門人江川太郎左衛門は、伊豆の韭山に反射爐を築いて大砲を鑄造した。

また伊能忠敬は、天文、數學の知識に富み、家齊の時に、日本全國の海岸を實測して、我が國最初の實測圖を作つた。

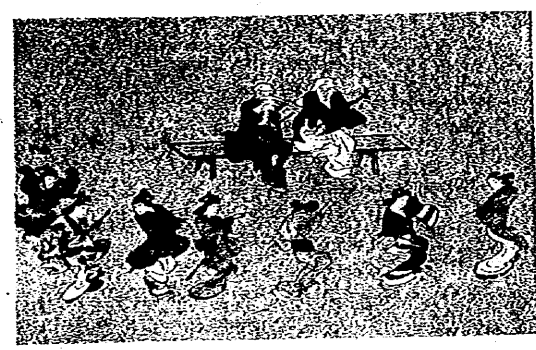
江戸時代の美術では、繪畫が最も盛で、種種の流派が起つた。家光の頃、狩野探幽が出て、幕府の繪所となり、狩野派を中興し、ま

土佐・住吉派

日本固有の
畫風の發達

西洋畫を輸入して新派を立つ

江戸時代に於ける東洋畫の研究は日本畫を本として東洋畫の粹を集め大成する基を立てたものに注意せよ。



盆踊 (笑一筆)

た大和繪の土佐・住吉の二派も、禁裏幕府に仕へてその派を盛にした。然るにこれ等の諸派が、何れも傳統に拘はれてゐる時、尾形光琳や英一蝶等が出て、何れも一派を立て、新規軸を出した。ついで明清で全盛を極めた文人畫は、家治の頃、京都に池大雅與謝蕪村が出て、名を揚げた。この頃、圓山應舉等が出て、また松村吳春が出るに及び、何れも一家をなし、宋・明清の畫風から脱して、全く我が國特有の畫趣を發揮するに至つた。これ等の畫家は既に東洋畫の粹を學びつくし、我が獨自の見地に立つて日本畫を大成したのである。

また當時蘭學の發達に伴ひ、西洋畫



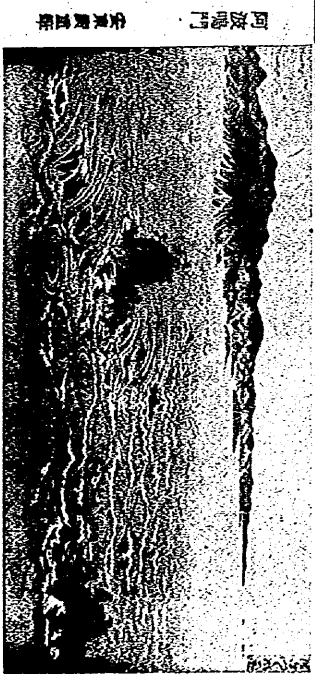
那智瀨 池大雅筆



旅人渉溪 谷口蘭村筆



實 城 葛城北原御

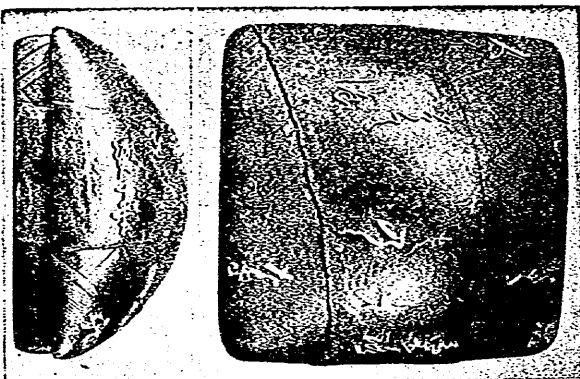


阿波鴨門 安東殿重雄



上面 (右) 八ッ橋現和 (左) 燕子花屏風
四季花鳥圖屏風 (右) 秋 (左) 冬
酒非池一軒





江戸時代浮世繪の發達

浮世繪の發達



浮世繪の發達

浮世繪の發達

江戸時代浮世繪の發達
原因は、何れにありと思ふから考へて見よ。

浮世繪の發達

岩佐又兵衛

菱川師宣

鈴木春信

喜多川歌麿

葛飾北齋

安東廣重

司馬江漢



浮世繪の發達

が輸入せられ、谷文晁は從來の諸派に西洋畫を配して一家をなした。その門人渡邊華山は寫生に妙を極め、當時の畫壇は眞に百花繚亂の觀があつた。

桃山時代に端を發した風俗畫は、江戸時代に入り、家光の頃に、岩佐又兵衛が、土佐派から出て浮世繪を起し、綱吉の頃菱川師宣が出てこれを大成した。その後、鳥居派、懷月堂派を生じ、更に家治の頃には、鈴木春信が出て版畫の隆盛を致した。尙文化文政の頃、喜多川歌麿、葛飾北齋、安東廣重などが、相ついて出て、何れも一家をなした。これ等の浮世繪版畫は、後に西洋に傳へられて、非常に珍重せられて、印象派の基をなした。また西洋の銅版畫、油繪等の描き方も傳へられ、家治の頃、司馬江漢が始めてこれを試みた。

能面製作に
つき工人が
いかに精魂
を盡くして
從事したか
を窺ふこと
は、本朝の
修善寺物語
に於て来る
夜叉王の説
れがよく説
明されてゐ
る。かくの
如く同じ面
でも西洋に
於ける面と
異なる、非
常に藝術的
な製作が多
く造られて
ゐる。

工藝美術

錫金

陶磁器

蔴繪

彫刻

活版
木版

版畫



(蛇男面) (小能面)



(高役) 能装束

また工藝美術として
は、鑄金の後
藤顯乗横谷
宗珉、陶磁器

の野村仁清尾形乾山蔴繪の本阿彌光悦等が著はれた。この他染織刺繡等の工藝も、何れも精巧を極めるに至り、華麗より滋味を尙び、趣味が向上して來た。また能樂の流行につれ、能面の彫刻にも名工が出た。

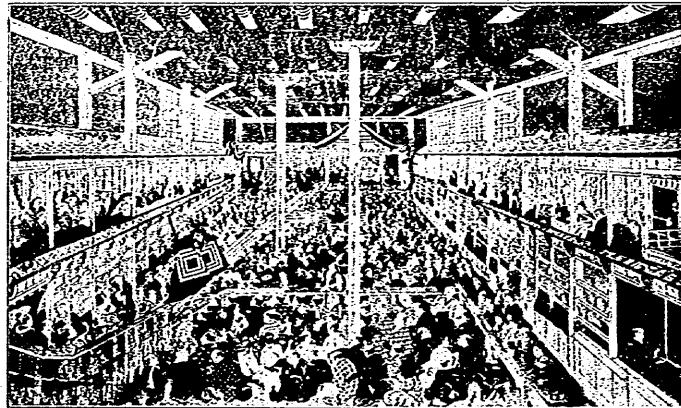
また朝鮮出兵の後、活字が傳へられて、家康が古書を出版した際には、木銅などの活字を使用した、その後多く行はれなかつた。そして浮世繪の發達に伴うて、版畫の進歩は著しく、獨特の技能を表はし、錦繪繪草紙など精巧美麗を極めた。

當時の娛樂
と風俗
淨瑠璃と三
味線

江戸時代に入つて、聲樂は、前時代から傳はつた淨瑠璃が流行し、これに伴うて、三味線が汎く用ひられるに至つた。もと京坂に端を發したが、家光の頃、江戸淨瑠璃が起り、ついで勇壯な金平節も行はれたが、大坂に竹本義太夫が出て、近松門左衛門の新作を語つて、義太夫節が大成せられた。その後江戸が繁華になるに隨つて、半太夫節河東節などが起り、後になつて常盤津富本清本の諸節が起り、また小唄・長唄なども發達して、それぞれ異なる曲調に清艶を

義太夫節

常盤津
富本
清本
小唄・長唄



歌舞伎場

江戸時代に入つて、聲樂は、前時代から傳はつた淨瑠璃が流行し、これに伴うて、三味線が汎く用ひられるに至つた。もと京坂に端を發したが、家光の頃、江戸淨瑠璃が起り、ついで勇壯な金平節も行はれたが、大坂に竹本義太夫が出て、近松門左衛門の新作を語つて、義太夫節が大成せられた。その後江戸が繁華になるに隨つて、半太夫節河東節などが起り、後になつて常盤津富本清本の諸節が起り、また小唄・長唄なども發達して、それぞれ異なる曲調に清艶を

歌舞伎の發達

坂田藤十郎
市川團十郎

江戸時代最も華やかであつた時代は、元禄時代と、文化文政時代である。この二時代に上つた文化の特色を比較對照せよ。後者の時代こそ所謂江戸文化の實たる時代であり、また大に江戸文化と稱へられる所以といふべきである。

文化中心の移動と文化向上

元禄時代の文化

文化文政時代の文化

競ひ、今日行はれてゐる邦樂は、概ねこの時代に完成された。

桃山時代に起つた歌舞伎は、この時代に入つて、狂言や操りの脚色を綜合して、演劇の體系が整へられた。元禄の頃、京坂の坂田藤十郎、江戸の市川團十郎が東西に相對して、歌舞伎の發達に新紀元をつくり、劇場、舞臺、淨瑠璃の發達と共に、當時の人心の傾向に促されて、異常の發達を遂げた。ついて文化文政時代に至つて、歌舞伎は全盛に達し、眞に、大江戸の人心、風俗の傾向を、最もよく反映した。

江戸の文化も初は粗野であつて、剛健の態があり、豪放の趣があつた。加ふるに諸國の人々が多く寄合つたがために、雜然として特異の氣風が起らなかつた。そして上方の文化は遙に優美であつたので、これに壓されてゐた。やがて元禄の頃となり華麗な文化を成したが、尙生硬で、外面的で、趣味も低く、上方文化には及ばなかつた。

然るにその後、文化文政時代に至るや、江戸の文化は絶頂に達し、生

硬を脱して、全く爛熟し切つて、銑鍊され、深味を増した。そして華麗を去つて滋味とか、サビとかいふ高尚の趣味と、圓滑な輕妙に傾いて來た。この頃までに、文學、學問、美術、工藝等、各方面の大家巨匠が、何れも江戸に集つて、江戸は日本唯一の文化の大中心となり、また文化を理解し、鑑賞する風が普くなつた。これが大江戸文化と稱せられる所以である。

第五章 勤王思想の勃興と明治維新

第一節 尊王思想の發達

戰國時代の亂世に、武家の間に尊王思想が興り、織田信長・豊臣秀吉は、尊王の心をもつて、よく天下を統一した。そして幕府を開かずして、朝臣として朝廷に奉仕し、皇室を奉戴じて、公武の融和の上に政治を行つた。併し徳川家康は、江戸にあつて、天下を統一し、範を鎌倉幕

江戸幕府の討朝政策
織田信長・豊臣秀吉の政治基調
徳川家康の政治基調

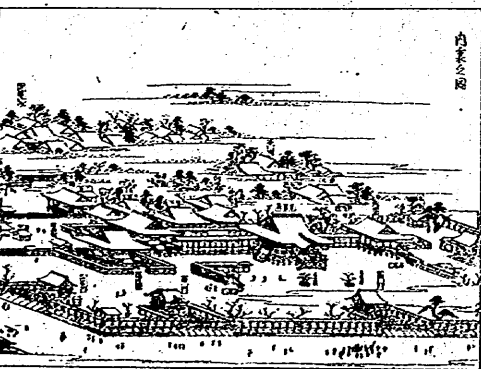
江戸幕府の
公家抑制制

京都所司
代

武家傳奏

公家諸法
度

公武の不和



内裏の図

府にとり、純然たる武家政治を興して陰に朝廷を抑制した。京都には所司代を置いて、公家の動靜を監し、且關西地方を制せしめた。そして朝幕間の連絡のため、朝廷に武家傳奏を置いて、關白と議し、公家の任免のことさへ干渉せしめて朝廷にその權力を張つた。また禁中並びに公家諸法度十七箇條を制し、畏れ多くも天皇の御學問、日常御生活までも規定し、公家の當官と武家の官位とを區分し、官位儀禮及び諸住持任命に至るまで制限し奉つた。

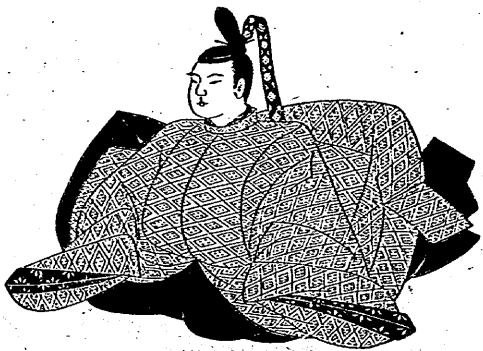
かくの如き幕府の檢束に對し、公家は痛く憤懣した。また公家は傳統的に武家を卑しむ格式の上、及び形式からは遙に優つてゐたが、

江戸時代を通じて公武間に生ずる不調の所以を起る所以を見よ。

幕府初期の
公武の不安

幕府の尊王
とその影響

家康の尊王



後光明天皇

實力並びに、經濟上からは對抗しがたかつたので、公武の間に不安な暗流が絶えなかつた。ために幕府の初期、家康から將軍家光に至るまでの幕府創業期に於ける公武關係が、特に不安であるのは避け得られなかつた。そして後水尾後光明天皇の御代には、公武の關係が最も不安であつた。

家康は、一面政治上から、朝廷を抑へたが、他面には、皇居及び仙洞御所を營み、供御の料を増し奉り、公家の領地を加へて尊王の志を示した。ついで歴代の將軍も、また皇室尊崇の誠を失はなかつたが、政治の實權は毎に確保してゐた。

江戸時代初期に於ては、公武の關係はかなり險惡であつたが、將軍

歴代將軍の尊王

新井白石の公武融和

松平定信の尊王

松平定信の朝廷に対する態度につき、矛盾があるが、よく見れば如何に解したるか、よいと思ふか。

家綱以後は幕府の奉公の事績が次第に現はれた。將軍綱吉の如きは、御料地を増進し、供御の御料を奉獻し、また廢絶した大嘗祭を復興し、御歴代山陵の修築等をして、朝廷を尊敬した。次の家宣の時には、新井白石の建議によつて、閑院宮家を創めるなど、公武融和の絶頂に達した。また將軍家齊の時に老中の松平定信は、内裏の炎上に際して、紫宸殿・清凉殿などを、略古式に則つて新に造営し、光格天皇も深くその功勞を嘉せられた。されど天皇が、御生父閑院宮・典仁親王に太上天皇の尊號を上り、大孝を敍べんとせられしを止め奉り、これに關係せる公家を罪し、かくて江戸時代を通じ、歴代の將軍、または幕府執政の尊王の美績



(政安)殿

幕府尊王の思想的感化

武家政治に伴ふ公武對抗の意識

尊王思想の發達

儒學の發達と尊王思想の國家的自覺

神道研究



藤原 惺 高

は少くなかつた。かくの如き、幕府の態度と美績は、諸大名以下武士庶民に、大義を辨へしめる上に多少の感化を與へたやうである。かくて時代が進むにつれて、公武の關係は著しく融和されて來たが、武家政治の存する限りは、決して公武對抗の意識は去ることが出来なかつた。

江戸時代に學問が盛になり、儒學の發達するに伴ひ、國民の間に、弘く國家的自覺が喚起され、尊王の思想が起つた。

文藝復興の開祖である藤原惺高は、儒學と神道との一致を説いて、

神道研究の端緒となつた。その學風を受けて、門人林羅山・堀杏庵等が、これを祖述して神道に新生面を開いた。ついで熊澤蕃山・山崎闇齋・山鹿素行などが、何れも我が國體を自覺し、大義名分の上から

江戸時代の儒者に付き、(一)崎門及び(二)崎門學の如き、(三)新井白石・室鳩巢・貝原益軒の如き、(四)尊王主義の唱へたものと、(五)儒學の發達と尊王思想の國家的自覺、(六)神道研究

大義名分
と尊王抑
覇

國體自覺

山崎闇齋並
びにその門
流の尊王思
想

闇齋の學統

足
綺門派の發

尊王抑覇の説を唱へた。儒者は支那を崇拜し、禪讓放伐の説を認め
る傾さへあつたが、素行は、その著、中朝事實に於て、我が國が萬世一系
の皇統を戴き、忠孝は開闢以來存し、眞に中華文明の本源なりとして、
支那の禪讓放伐、革命の風を否定した。そ
して蕃山並びに素行は、何れも幕府から忌
まれて抑へられた。また闇齋は朱子學を
奉じ、更に神道研究をなして、垂加流神道を
唱へ、夙に國體を尊重し、名分を明らかにし、
早くも吉野朝廷正統の説を立て、大日本史
の先容をなした。そして闇齋は、國本の思
想と正統の思想とにより、尊王の大義を説き、多くの門人を養成した
ので、人材輩出し、その學統を綺門派と稱した。
綺門派にあつて、神道の玉木葦齋、儒學の淺見綱齋、佐藤直方、三宅尙



山崎闇齋

淺見綱齋は
その刀鐔に
「赤心報國」
の四字を刻
し、その皇
室尊崇の精
神深くし
て、常に我
れ國東の地
を踏まず、
大名に仕へ
ずと誓へ
り、もし時
を得ば、義
兵を擧げて
王室を佐け
べし」とい
へりとい

淺見綱齋の
尊王大義の
思想

綺門派と水
戸學派

綺門派と幕
末の志士

◎國史學の
勃興と尊
王思想
徳川光圀の
彰考館と大
日本史

齋の三者は何れも著名である。就中幕末尊王論の源泉をなしたの
は、綱齋である。その著、靖献遺言は小冊子であるが、支那の張巡、文天
祥、方孝孺等の忠孝義烈の行蹟を述べ稱へた。そして陰に大義名分、
勤王の志を披瀝し、幾多の志士をして感奮興起せしめ、義氣を鼓舞せ
しめた功績は大であつた。

闇齋の學派は、また水戸に入り、水戸學をなした。水戸の徳川光圀
に招かれて、大日本史編纂に従つた鶴岡鍊齋、同稱齋は闇齋の門人で
あり、また三宅觀瀾、栗山潜鋒の如きは、またその流を汲んだものであ
る。尊王論者の先驅をなした竹内式部、山縣大貳等を始め、幕末尊王
論の指導的人物となつた梅田雲濱、橋本左内等は、何れもその門流に
屬するものである。

一方に修史のことに従ひ、國史を通じて尊王の志を彰すものが出
た。光圀は、明暦三年に彰考館を建てて有名な學者を集め、大日本史

時門派が王
政復古に對
し、思想的
に如何に大
なる貢獻を
なしたかを
知れ。

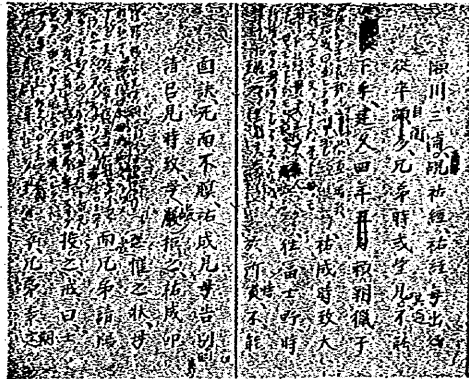
徳川光圀が
大日本史編
纂をなすに
當つていか
なる態度を
とつたかを
知りなす

編纂の事業に當り、大いに大義名分を明らかにした。その三大特筆と稱せられる點は、(一)神功皇后を御歴代から離して、后妃傳に收め、(二)

弘文天皇の即位を認めて御歴代の中に加へ、(三)吉野の朝廷を南朝といひ、足利尊氏の私かに擁立したるを北朝と稱したが、吉野朝廷をば正統と定めた。そして享保五年に、その頃になつた、大日本史を、水戸家から幕府に獻じ、續いて完成に努めた。これが影響を受けて尊王論は盛となつた。

大日本史編纂のため、聘せられた學者は、尊王論の學者が多かつた。即ち栗山潜鋒は、保建大記を著はし、政權の武門に移つた由來を明らかにして、尊王の大義を説き、また皇

栗山潜鋒と
保建大記



大日本史草稿

歴史研究に
ついて新
なる事實を
考證して確
定する専門
的業績のみ
が尊王論の
たゞ一方、山
陽の如く史
學を基礎と
して與論を
正しきに導
くことを講
ずる史學の
應用の如く
れ。所以を
知

三宅觀瀾の
中興鑑言
國史學の發
達
頼山陽の
思想

復古思想と
尊王攘夷論

位と三種の神器の授受との關係を論じて、國體の本義を詳かにした。また三宅觀瀾は、中興鑑言を著はして大義を明らかにした。

その後一般に國史研究の傾向は進み、寛政の頃、頼山陽は、日本外史を著はし、武士の興起から政權の武門に歸する由來を説くと共に、忠孝義烈の士を賞揚し、また、日本政記を著はして、吉野朝廷の正統なるを論じた。その文章が流麗平易であつたため、世に多く讀まれ、廣く大義名分を自覺し、尊王論を唱へしむるに至つた効果は大きかつた。



日本外史頼山陽集

かくて儒者の自覺と、國史研究の發達とは、漸く復古思想を勃興せしめ、外國船渡來のことあるや、これを機として、尊王攘夷の説を唱へるものが多くなつた。中にも、水戸の藤田鳴谷、その子東湖は最も著

藤田東湖
と會澤正志



藤田東湖

はれ、その言説は、當代に於て頗る重きをなした。また幽谷の弟子の會澤正志は、よく國體の本義に通じ、尊王の思想を述べ、新論を著はした。何れも藩主徳川齊昭を戴いて、尊王の大義を唱へ、攘夷論を主張した。かくて、水戸の學風は、正しく天下の輿論を指導せんとするの勢を示した。

④國學の發達と尊王思想
賀茂眞淵

國學は契沖、荷田春滿等に源を發し、賀茂眞淵が出て、大いに國語國文の古典の研究を進めた。また思想上、儒學を排し、皇國上代の道こそ、實に治國の根本精神たることを強調し、儒學、佛敎に對して、國學の立場を確立した。

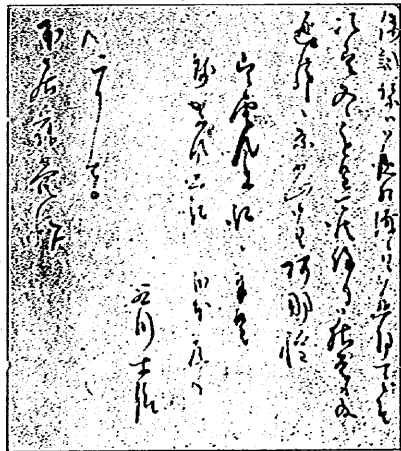
本居宣長とその思想

本居宣長は、常に儒佛の外來思想を放れて、惟神道の國民固有の精神に復るべきを説き、動もすれば外國を崇拜し、内外本末の辨を忘れ

國學研究の
眞髓が尊王
論となる所
以を考察せ
よ。

谷川士清

ることを批難して、正しい修學の精神を教へた。この思想を喜ぶものが甚だ多く、教を受けしものも、前後五百人に及んだといふ。宣長の著はした「古事記傳」と共に、谷川士清の「日本書紀通證」も、古代に關する貴重の研究である。士清は垂加流神道を究め、後國史・國語の研究をなしたものである。



谷川士清筆蹟

平田篤胤の思想



平田篤胤

また平田篤胤は、宣長の思想を受け、國學の精神を擴充して、尊王の精神に論究するに至つた。篤胤は、始め儒佛の學を修めたが、後何

れをも排撃し、且蘭學をも斥け、唯我が國の古道に復すべきを説き、多くの著書をなした。就中、古史傳は最も著はれてゐる。篤胤の學説は、愛國的氣魄に富み、むしろ偏奇といはれる位に激しく、常に我が國體の尊嚴を説いた。その説は、また多くの人を感化し、その門から勤王家を多數出した。

塙保己一
國學の發達
と復古思想

宣長と時を同じくして、塙保己一が出た。保己一は盲人の身にて、『群書類從』の編輯をなし、國學の發達に貢獻した。國學の正なるにつれて、ここに復古思想が興り、武家政治が我が國の本義に違ふことが明らかとなり、更に進んで外交上、外夷を攘うて清淨な我が神國を守るべきことを主張し、尊王論の發達に貢獻した。併し幕府は、その極端の説を抑へて治安の維持をはかり、篤胤の如きは罪せられて、郷里秋田に蟄居せしめられた。

③楠氏崇拜
追慕の思想

かくの如く、廣く國體を自覺し、尊王の本義が理解せられるに當つ

楠氏追慕の
念と尊王論
との關係を
考へよ。且
太平記に現
れたる楠木
正成の人格
に、つぎの
武將と比較
してその絶
忠の精神を
想ひ起せ。

光圀の湊川
建碑
前田綱紀の
楠氏追慕



楠木正成父子訣別圖

て、楠氏追慕の思想が起つて來た。光圀は湊川に楠木正成の碑を建て、加賀の前田綱紀は、尊王の志厚く楠氏を敬慕し、狩野探幽をして正成父子訣別の圖を描かせ、朱舜水をしてこれが贊を書かしめ

た。かくて楠氏追慕の念の盛に動き來つたことは、やがて尊王思想を鼓吹する結果を齎した。

尊王論の發
達
竹内式部
山縣大貳
高山彦九郎
蒲生君平

かくて尊王思想は、武家政治と相容れぬから、實、明治の頃、竹内式部、山縣大貳等は、尊王論を唱へて共に罰せられた。その後、寛政年間に至り、尊王論の勢は漸く旺になつて、高山彦九郎、蒲生君平等が出て、彦九郎は朝廷の衰微せるを大いに嘆き、諸國を廻つて尊王の大義を

尊王思想の普及
武士と尊王思想
教育の發達と尊王思想
御歴代の聖徳と尊王思想



光格天皇

説き、君平は、山陵志の外、職官志を著はして朝制を明らかにした。かくて尊王思想は、漸次、大名、武士の間に、行はれ、特に文教に關係する學者の間に、有力な思潮として勢力を有した。そして教育機關が發達し、庶民教育にまで及んだので、尊王思想は漸次上下を風靡するに至つた。またかかる間にも、御歴代の萬民愛撫の聖徳はすこしも變らず、東山天皇は賀茂川の流れ乏しく、農耕に水を缺き、農民の困れるを聞しめされ、宮城の引水を停めさせたまうた。また光格天皇は、世の治まらざる不祥のことにつき、畏くも御身の不徳を責めたまうた。かくの如き幾多の聖徳を洩れ聞き、國民は深く感激し、漸次尊王論が輿論化するの因となつた。

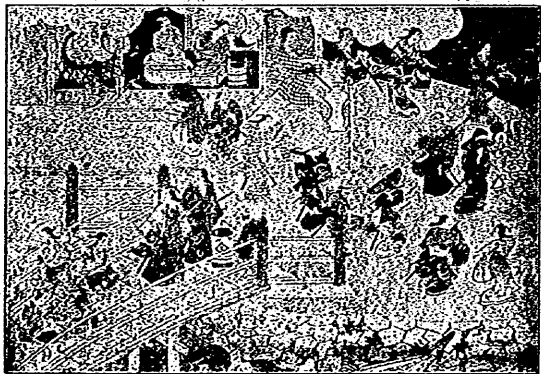
第二節 王政復古の思想と江戸幕府滅亡

尊王論と武家政治の破綻
武家政治と二元的國民生活
尊王論の發達と國民固有生活への還元

武家政治が創まつて以來、これが我が政治の變體であるため、皇室に對する尊王の精神と、幕府の政權に従ふ實際生活とを對照して、國民は二元的の生活をなして來た。

武家政治の動搖
武家政治の基礎の破綻

戰國時代を轉機として起つた尊王思想は、江戸時代に入り、將軍から大名、武士、更に次第に庶民にまで普及するに及んで、一般に漸く我が國體を自覺した。そして國民は王政歸一の國民固有の思想に還元し、武家政治の存立の基礎を動搖せしめるに至つた。幕府は專制の威力をもつて、天下の政權を保つてゐた。然るに將軍綱吉



上下士族の階級

江戸幕府滅亡の原因につきこれを各方面から考察せよ。

幕府の紀綱
の弛廢と財
政難

幕府及び
諸藩の財
政困難

商人の勃
興

武士の頹
廢



江戸末期の町人の風俗

の元祿以後、經濟上の變動と、國民生活の向上とのため、漸く幕府の財政が逼迫した。殊に將軍家齊の文化文政以後に至つて、その窮乏は甚だしく、財政難は年と共に加はつた。また大名も參勤交代、並びに臨時に幕府から課される經濟負擔のため、次第に窮乏した。これがため直接生産者たる農民は、常に過重の負擔に苦しんだが、貨幣經濟と資本經濟の發達に伴ひ、これに従事した京都・江戸・大坂等の商人は獨り榮え、奢侈贅澤に耽つた。武士も時勢につれて、概ね華奢に流れ、質實剛健の風を失ひ、士氣が廢ると共に、また窮乏が甚だしかつた。かくて政治上社會上の支配者たる武士も、經濟上、商人のた

時代の推移
と人心の自
覺とによる
幕府存在の
困難となれ
る事情を考
察せよ。

封建制度
維持の困
難

時代推移と
社會組織の
破綻

先例舊慣
墨守の弊
害

幕府の衰亡
と外船渡來

皇室中心の
舉國一致の
思想と王政
復古の機運

めに壓倒されるに至つて、武士を中心とせる社會組織も、漸次破綻が促された。また幕府が屢、革新の改革を行つて、政治の紀綱を振作し、士風を矯正することにつとめたが、次第にその効果を失ふに及んで、封建制度の維持は漸く困難となつた。

封建社會では秩序を維持するため、門地格式が重んぜられるのあまり、有爲な人材の立身出世の途が妨げられ、人心は沈滞した。且、幕府が、何事にも、先例と形式とに拘へられたため、社會の進運と時代の推移に連れて、幕府の存立は困難となつた。

かくて幕府の專制力も次第に衰へ、武家政治の基礎の危くなるに及んで、王政歸一の思想は一層促された。特にかかる際に、外國船の渡來があつて、種々外交問題が紛糾した。この國難に際し、種々の思想論議が起り、對内的にも對外的にも、舉國一致を必要とする情勢となるや、皇室を中心とする國民思想は、上下をあげて盛となり、王政復

西洋史で留
つた十八世
紀から十九
世紀にかけ
て諸國の政
治發展の政
策の發展に
特に関心し
て来た事
情について
思ひ起せ。

江戸時代末
期に於ける
ヨーロッパ
並びにアメ
リカの諸國
の國情と
外部發展の
形勢を思ひ
起し、且、
當時の東洋
諸國の國情
を総観して
見よ。

世界形勢の
變化とその
影響

イスパニ
ヤ・ポルト
ガル・オラ
ンダの衰亡

ロシア・イ
ギリス・ア
メリカ合衆
國の形勢

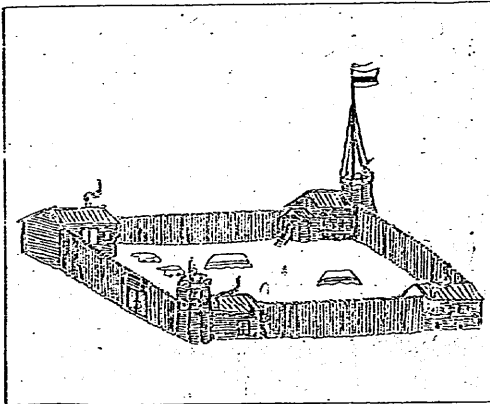
古の機運が漸次高まつた。
幕府が鎖國の政策を斷行して以來二百餘年を経過し、この間に世
界の大勢は著しく變化した。當時既にポルトガル・イスパニヤの國
勢は衰へ、これについて、一時海上の覇を唱へたオランダも衰へ、専ら
イギリス、ロシア・アメリカ合衆國（米國）などが、アジア大陸にその勢力
を伸ばすに至つた。

ロシアは、夙にシベリヤ經略の歩を進め、綱吉の頃既にカムチヤカ
半島を略し、家齊の頃から、屢使者を我が國に遣はして通商を求めた。
イギリスは既にインドを略し、更に極東經略の歩を進めようとして、
その船艦は、また我が近海に出沒した。また合衆國は將軍家治の時、
新に獨立し、その後國勢の發展目ざましく、太平洋岸に移住して捕鯨
事業が盛となり、東洋の形勢に注意して、清國との通商を始めた。そ
の後、嘉永年間に、カリフォルニアに大金礦が発見され、太平洋沿岸の開

California

ロシアの遣
使と我が北
邊の狼狽
ラックス
マン

レザノフ



塞城の太神の造築人ヤシロ

發が急に盛になるや、我が國を開いて寄港地を得、修好通商をなすこ
とを必要とした。
かかる形勢であつたから、我が邊境沿海に於て、これ等の諸國との
關係が自から發生した。寛政四年の秋にロシアは、ラックスマンを松
前に遣はし、我が漂流民を届け、且、通
商を請はしめた。爾來ロシア人は
屢、我が北邊を窺ひ、更にアレクサン
ドル一世が即位するに及び、文化で
年には、レザノフをして、長崎奉行に
ついて正式に國書を呈し、通商のこ
とを交渉せしめた。また當時、我が
北邊の警備の整はざるに乘じて、沿
岸を脅掠した。

イギリス船の暴状

イギリス船長崎暴行と奉行の自殺

幕府の海防對策
●幕府の沿岸警備に對する無關心

蘭學者の見識

また一方イギリスは、江戸時代初期早く通商は許されたが、オランダ人に壓せられ、平戸の商館を撤去して、インド經略に全力を注いでゐた。されど寛政の頃から、その商船は再び我が近海に出沒したが、オランダと對敵關係にあつたので、オランダの東洋に於ける植民地及び貿易の侵略に努め、文化五年にその軍艦は、オランダ船搜索のため長崎に入港し、薪水、食料を奪ひ去つた。長崎奉行松平康英は、これを撃退し得なかつたので、責を負うて自殺した。その後も、軍艦は浦賀に入りて通商を求めたが、幕府はその請を卻けた。

鎖國以來我が國人は全く世界の形勢の變化に疎く、幕府の爲政者といへども、僅かにオランダの甲比丹の江戸參府の際に、これを通じて知り得るに過ぎなかつた。従つて外國貿易に當てた、長崎港の防備にのみ意を拂へども、沿岸の警備は全く等閑に附せられた。唯當時世界の事情について、見識を有つてゐたのは、蘭學者であつた。

林子平の先見

●幕府の對外策
祖法の保持

松平定信の沿岸巡視



(林子平) 國全夷蝦

將軍家齊の時、仙臺の人林子平は、かねて蘭學を修めて、海外の形勢

を察し、海國兵談、三國通覽を著して、海防の必要を論じたが、幕府の忌諱にふれて、寛政四年に罪せられた。併し林子平の先見誤らず、北邊からロシアの我が國を經略せんとするに會つた。

幕府は固く鎖國の祖法をとつて、通商の交渉を拒絶せしめ、外國との交渉は總べて、長崎奉行を通じて、行はしめる方針をとつた。されどここに至つて、始めて海防の急務と、更に北邊警備の要とを痛感した。されば老中松平定信は、親から房總豆相の沿岸を探查巡見してから、幕府も漸次、海防國策に心を傾けるに至つた。

幕府の北邊警備

江戸時代末蝦夷地警備の困難を立っての困難であつた事情を述べ

もと蝦夷島は松前氏が管し、開拓も警備も及ばなかつた。然るにロシア人の北邊に迫るを見て、幕府は將軍家治の時、最上徳内等をやつて、これを巡視せしめたが、北邊警備の對策は立たなかつた。

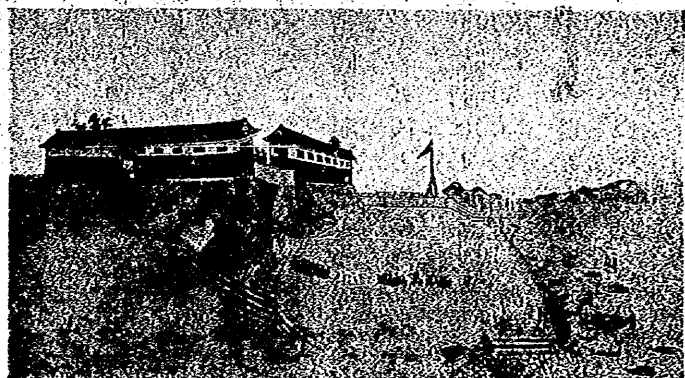
幕府の北邊對策

近藤重藏は蝦夷地に入り、高田屋喜兵衛を嚮導として探検し、土人を懐け、當時ロシア人の立てた樺太を併して我が國領を立てて歸つた。喜兵衛は一船乗るが、勇氣と義氣に富み、幕府に功のあつたものである。

近藤重藏等の北邊巡察

蝦夷地の直轄

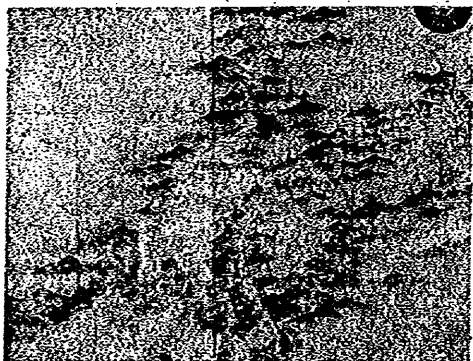
かくてロシアの北邊脅掠のこと繁くなるや、幕府は近藤重藏等に、遍く北邊の要地を巡察せしめて、對策を樹てた。そして松前氏から、東蝦夷を回收して、幕府の直轄の下に函館奉行を置いて、蝦夷地の開拓と警備のことに當らしめた。それから伊能忠敬に、蝦夷



長崎西役所及び波戸場

高田屋嘉拓兵衛の開

文政の打攘令



伊能忠敬(筆)

地を測量させ、兵庫の船頭高田屋嘉兵衛をして、擇捉島に漁場を設けしめて、北邊の警備に力を用ひた。

然るに偶、イギリス船が、長崎港で暴行を働くに及び、我が國民は外國の横暴を憤り、海防攘夷の論は、漸く猛然として上下の間に興つた。そこで文政八年に、幕府も遂に意を決して、爾來外國船が沿岸に近づいたら打拂ふべき

ことを命じて、鎖國の祖法を勵行した。

幕府の海防 洋式の兵制・兵器と軍事改良

かくて幕府は、海防に一層の關心をもち、西洋兵學者高島四郎太夫(秋帆)並びに江川太郎左衛門(英龍)等を用ひて、洋式の兵器・戰術を研究せしめた。そして軍事の改善をはかり、武家諸法度の鐵則を破

諸大名と國
防の輿論

徳川齊昭

鳥津齊彬

鍋島直正

攘夷國防
の輿論

つて、大船製造の禁を解き、軍艦・兵器を
オランダから購入した。
また諸大名に、兵備を充實して攘夷
に備ふべきを命じた。

水戸の徳川齊昭は、固く攘夷の主張
を持ち、天下の士氣を勵まし、反射爐を
作つて大砲を鑄て武備の充實につと
めた。また薩摩の鳥津齊彬、佐

賀の鍋島直正等も、はやく瓦斯
電氣の使用より、寫眞術・蒸氣船・
蒸氣車の製作など、西洋文化を

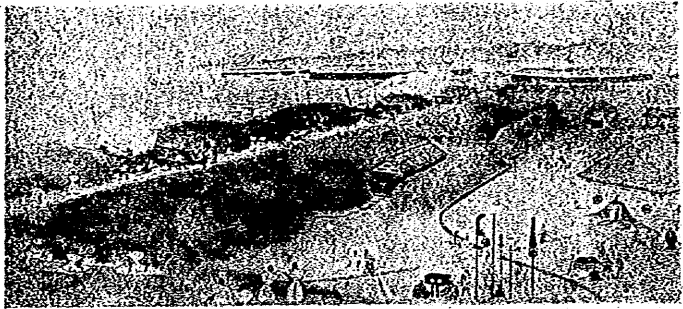
入れ、反射爐を作つて巨砲を鑄造した。これ等は、何れも海防の先覺
者であつたが、この他に一般に諸藩の間に、攘夷思想と、これに伴ふ海防



武蔵丸と高島秋久

蘭學者の開
國論と國策
の緩和
高野長英と
渡邊華山の
開國論

國防上の武
備を缺きな
がら外國船
の打拂ひの
ために危険
を蒙るかを
懸念



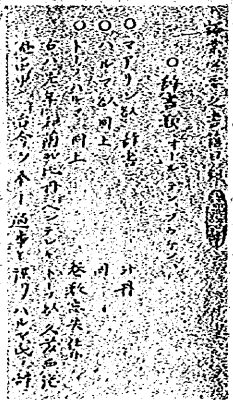
品川嘉三郎侯爵邸蔵

の輿論が興つた。

かくて一時は、外國船の渡來が著しく減
じたが、かかる形勢を見て、蘭學者渡邊華山
高野長英等は、世界の大勢に略通じてゐた
ので、外船

打拂ひが、
やがて由
由しき大
事を起す
べきことを唱へた。そして開國すべきこ

とを主張して、長英は、夢物語を、華山は、慎機
論を著はし、何れも幕府の忌憚に觸れて罪
せられた。その後幕府も、清國が阿片問題



渡邊華山とポラックス像

幕府の外船
和打拂令の緩

オランダ王
告の開國の勅

アメリカ使
節の來朝
ビッドルの
來朝

ベリーの來
航とその決
意

のため、イギリスと戦つて敗れたことに鑑みて、天保十三年に、外國船打拂ひを緩和して、外國船の漂流して、薪水食料を失つたものにはこれを支給し、諭告しても去らぬものは打拂ふべしと命じた。かくて外船の來航が多くなつたので、弘化元年にオランダ王ウィリアム二世が、從來の關係から特使を來朝せしめて、幕府に大勢を説いて開國を勸告し、清國の轍を履むことなきやう説いたが、幕府はこれを斥けて、祖法の破るべからざることを答へた。

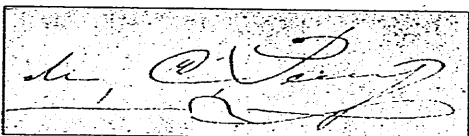
アメリカ合衆國船舶の、我が近海に來るもの多きを加へたが、弘化三年に、始めて同國の使節ビッドルは、薪水食料補給のため、軍艦を率ゐて浦賀に來り、幕府に通商を請うたが、許されなかつた。その後、合衆國は、太平洋航海の盛となれるに促されて、水師提督ベリーを我が國に遣はし、和親通商を求めしめるに至つた。そしてベリーは、我が沿岸港灣の占領をもなすべき、固き決意を藏し、嘉永六年の春、先づ香港

(弘化元年)

アメリカ合衆國が我が國に使節を遣はした目的は何か。この歴史の國の上から見て、未だ帝國主義の發達の時、對外的に極めて消極主義をとつてゐた頃であつたことを思ひ合はせよ。

久里濱の會

ロシア使節
の來朝
通商並びに
國境劃定の
要求



署名のーリー

に於て艦隊を編成し、琉球の那覇に寄り、更に小笠原島を探檢した。そして六月に浦賀に來り、大統領フィルモアの國書捧呈のために、將軍家慶に謁見を強要し、勢威を示して目的を達せんとした。然るに幕府は、國力に鑑みて、これを拒み得ず、浦賀奉行戸田氏榮等をして、久里濱に於てその國書を受けしめた。よつて幕府は事態の重大なるに鑑み、明春回答すべきことを約し、ベリーも、我が事情を察して去つた。

間もなく將軍家慶薨じ、子家定が職を嗣いだ。幕府は内外の事情切迫し、且、急に外交策を講ぜんとし、水戸の徳川齊昭を起して、老中阿部正弘と共にその局に當らしめた。

また當時、合衆國の使節來朝に刺戟されて、ロシアも海軍中將プーチャチンに命じ、軍艦四隻を率ゐて急ぎ長崎に來航せしめ、通商を請ひ、



グチャー・チャン

且、千島樺太に關し、日露の國境を定めんことを要求した。併し幕府は、川路聖謨等をやつて、何れも即答なし難きを告げ、他日を期して商議すべき旨を答へて歸らしめた。

外國船艦の渡來と幕府の對策

朝廷奏上
諸大名への
詰問

諸大名の攘夷論

幕府外交政策上の缺陷

外國船艦の渡來と、これに伴ふ外交問題に直面して、幕府は事の重大なるがため、始めて從來の政治上專制の慣例を破つて朝廷に奏上し、諸大名にも諮つた。然るに齊昭等多くの大名は何れも攘夷論者であつた。また幕府も合衆國への回答を遷延し、軍備を整へて拒絶し、若し應ぜざれば開戦して、我が國體を傷つくべからずとの強硬な意見を持した。そして海防國防に一層意を用ひ、更に諸藩を促して防備の充實を期した。

されども幕府は、一度專制の例を破つたがために、政治上朝廷の控

江戸幕府の政治組織は、幕府が専制獨裁の勢力を有することによつてのみ存するを得るもので、その條件の破綻によつて幕府存在の窮乏を露せよ。

幕府開港の段階

修好條約

ペリーの強迫

神奈川條約

通商條約

ハリスの來朝

制を蒙り、また諸大名の意見に制肘をうけ、政治上の統制が破れた。

そして幕府軍備の體制、武器調練などに不備な點が多く、諸藩軍備の統制をなす上にも不便を生じた。ために外國に對し武力を以て解決する自信がなかつたので、漸次外交上の窮地に陥るに至つた。

ペリーは浦賀を去つた後、琉球並びに小笠原島の經略をなして香港に赴き、翌安政元年正月、先約に従つて、船艦九隻を率ゐて神奈川沖に來り、強硬の態度をもつて幕府に確答を促した。幕府も已むなく、鎖國の祖法を棄てて、合衆國と修好條約を締結し、下田函館の二港を開き、薪水、食料を給し、漂流民を相互に救ふべきことを約した。これを神奈川條約といふ。續いてイギリス、ロシア、オランダにも、合衆國と略同様の條約を結んだ。

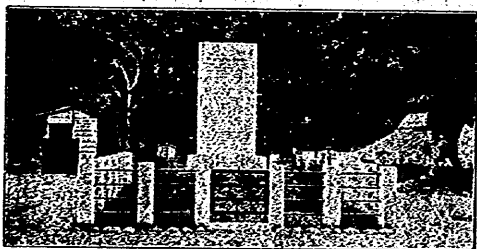
修好條約が結ばれたので、合衆國は安政三年に總領事のハリスを、伊豆下田に着任せしめた。ハリスは、家定に謁見して、國書を捧呈せ

通商條約
草案



城登のシリハ

んことを要求し、幕府も遂にこれを許した。そしてハリスは、老中堀田正睦に世界の太勢を述べて、通商條約締結の要を説いた。正睦も略、海外の形勢に通じてゐたから、開國の急務なるを覺り、共に議して修好通商條約の草案をつくつた。そして下田を閉ぢ、新に神奈川・長崎・新潟兵庫を開き、輸入品の税率を定め、在留する合衆國人の治外法權を認めることとした。かくて正睦は、五年に上京して條約の勅許を



碑念記シリハ田下豆伊

條約勅許
を得られず

開港に關し、幕府の極めて困難な立場にあつたことを、
(一)朝廷と
(二)諸大名との關係
(三)志士との關係
(四)外國との關係
の各方面から考へて見よ。

井伊直弼
大老とな



成臨丸の太平洋渡航

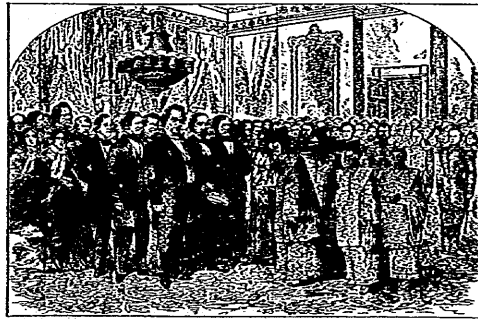
仰いだが、朝廷は鎖國に傾き、また諸大名諸士の間にも、鎖國攘夷の論を主張するものが多かつた。そこで孝明天皇は、諸大名の議を盡くして更に奏聞すべしとて、容易に勅許せられなかつたので、正睦は空しく江戸に歸つた。されば幕府は全く進退に窮し、やがて彦根藩主、井伊直弼をあげて大老とし、難局に當らしめた。偶、當時イギリス、フランスの聯合軍が、清國と戦つて大勝利を得た餘威をかつて、我が國に通商條約の締結を迫らんとすとの風説があつた。ハリスもこの形勢を利用して、頻に幕府に通商條約調印のことを迫つた。ここに於て直弼は、内外の事情切迫せるをもつて、勅許を待たないで、その六月、條約に調印せし

無勅許の
まま條約
調印

イギリス・フランスその他諸國との通商條約

將軍繼嗣問題

徳川慶喜



大徳川領の遣米使節との接見

め續いてオランダ・ロシア・イギリス・フランス等の諸國とも、略同様の條約を結び、更にポルトガル・プロシヤ・スウェーデン・イタリア・デンマーク等とも、漸次各條約を締結した。かくて萬延元年、幕府は、外國奉行新見正興等を合衆國に遣はして、條約の批准交換を行はしめ、ここに始めて、我が國は鎖國を棄てて、開國することになった。そして外國商船は勿論、外國人も相續いて來朝した。かかる間に、將軍家定は薨去した。これより先、家定に嗣子がないので、徳川慶勝や、松平慶永などは、當時人望の高かつた齊昭の子一橋慶喜を繼嗣に立てんとし、朝廷でも年長賢明を旨とせよとの御思召もあつた。然るに直弼は他の説を斥けて、斷乎として、紀州

直弼の徳川家茂擁立
直弼獨斷の非難

井伊直弼の安政大獄を起したことは、府大老として、内憂外患による、國民生活の極度の不安を救ひ、幕府維持のための非常政策であつた。併しその手段を講じたのである。これをフランス革命時の恐怖政治、イタリアのムッソリーニの獨裁政治の出現等と對照して考へよ。

安政の大獄

櫻田門外の變

家から、幼少なる家茂を迎へて擁立した。ここに於て、將軍繼嗣のことに破れた人々は、條約調印の專斷を責めるものと合し、朝廷を動かして、幕府の改革をなさんとした。そして天皇は、遂に勅書を幕府と水戸家に賜はり、國事については、須らく三家以下諸大名の衆議を凝らすべきことを仰せ出された。これから直弼の專斷を憤るものは、尊王攘夷論者と相合流して、幕府の處置を非難して止まなかつた。

そこで直弼は、幕府の威力を回復せんとして、公家諸大名藩士並びに吉田松陰を始め、橋本左内頼三、樹三郎等の志士數十人を嚴罰に處した。これを安政の大獄といふ。これがため、却つて世人の憤激を招き、直弼は萬延元年、江戸城の櫻田門外で殺された。かくて幕府の



徳川家茂

— — —

江戸幕府の末期、何時ともなしに薩長が、武家を抑へるに至つた。幕府を考へ

國情の不安

尊王討幕の運動

薩長土三藩の京都警備

三藩の聲望

朝廷の幕政改革

この時に當り、薩摩長州土佐等の、有力な諸藩の有志及び浪士は、京都に集つて頻に公家と往來し、東西に奔走して策動した。そして尊王攘夷論は、やがて尊王討幕の計畫を内に秘めて、實際運動化した。當時志士の言論及び行動が、過激にして治安を紊すことが甚だしかつたので、幕府は會津藩主松平容保を、京都守護職とした。そして朝廷では、島津久光をして京都を鎮撫し、秩序を維持せしめられ、間もなく、長州藩主毛利敬親の子元徳、土州藩主山内豐範等にも、關下の警衛を命ぜられた。これがため薩長土の三藩の威望は、天下に漸く重きを加へた。

かくて朝廷は、幕府に御沙汰を賜はり、また勅命をもつて、三藩に京都の守備警衛を御下命になるが如く、積極的に幕府の政治に干渉せられるに至つた。そして勅使を遣はして、家茂に諸大名を率ゐて上洛し、公家と共に國事を議し、公武合體の實を擧げ、幕政の改革を諭さ

尊王思想の政治的展開

勅使三條實美の東下

家茂の上京勅命拜受

攘夷の實行長州藩の下關砲撃

留魂録

身はたゞの我、我の身はたゞの我、
乃れも留魂録、大和魂
十月五日、二丁、回福士。
一、余、年、未、だ、弱、く、百、五、歳、を、越、し、初、中、
越、後、高、く、希、に、楚、を、年、々、仰、く、諸、君、を、如、
く、所、う、故、子、を、是、の、句、を、越、し、多、く、上、高、
新、楚、深、憂、只、平、平、を、い、ふ、事、也、先、二、五、日、
ナ、百、八、十、日、行、ノ、間、ナ、リ、一、誠、子、ニ、大、
ナ、付、リ、時、ニ、子、を、守、リ、終、ニ、余、是、ノ、用、を、
一、白、帛、而、リ、子、を、至、誠、不、動、也、

吉田松陰筆

れ、そして攘夷を實行すべきことを促された。従つて、幕府もこれに種種の政策を施したが、却つてその實權を失ふ結果を齎らした。

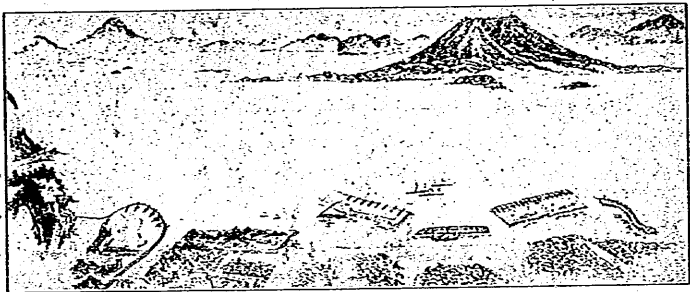
然るに京都では、尊王攘夷を主張せる、過激派が急に勢を加へ、敬親の建言によつて、三條實美を勅使として江戸に下し、攘夷の實行を幕府に促された。そこで文久三年に、家茂

も遂に勅命を拜して上京し、参内して攘夷の勅命を拜し、五月十日をもつて攘夷決行の期日と定めた。

かくて攘夷決行の期日になつて、長州藩は、フランス、オランダ、アメリカ合衆國等の船を下關に砲撃し、また薩州藩でも、七月にイギリス

攘夷御親
征の計畫

朝議一變と
公武合體説



陸英戦争給巻 (島津公家源家)

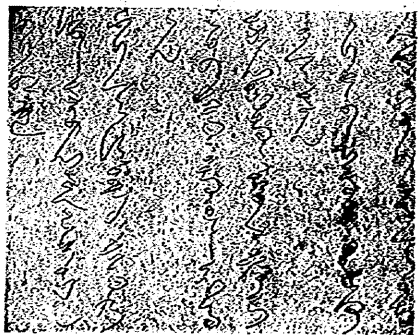
の船艦を鹿兒島灣に撃退し、攘夷の熱は一層
昂められた。家茂はかかる間に江戸に歸つ
たので、過激なる攘夷論者は益々幕府の態度を
憤り、公家を遊説して、遂に天皇が大和に行幸
せられ、親しく神武天皇の御陵を拜せられ、攘
夷御親征の軍議あるべき朝議を、一決せしめ
るまでに至つた。そしてこれを機として、討
幕の實現を期せんとする論者もあつた。
かかる過激派の計畫を輕舉盲動となし、會
津並びに薩摩等の諸藩士の中には、自重して
時局を匡救せねばならぬといふ、公武合體の
穩和主義をもつものが多かつた。そこで朝
議も急に一變して、過激派に屬した長州藩士

過激派の打
撃

志士の憤激
と舉兵

の宮門護衛を止め、その入京を禁じ、これ等と志を同じくしてゐた三
條實美等の公家は參朝を停められた。ここに於て長州藩士等は、實
美等七人の公家及び志士と共に長州に
奔つたので、朝廷では公家七人の官位を
削られた。

朝議の急變が、會津薩摩等の策動から
起つたと考へた過激派は、慷慨悲憤のあ
まり、君側の奸を除くと稱して、地方で亂
を起すに至つた。そこで藤本鐵石等は、
中山忠光を立てて兵を大和に舉げ、平野
國臣は、澤宣嘉を立てて但馬の生野に兵を舉げたが、皆幕兵に鎮壓さ
れた。また常陸でも、武田耕雲齋等は、兵を筑波山に舉げたが、間もな
く亡びた。



平野國臣が獄中で紙を以て作つた歌

元治の變

かくて長州藩士及び志士は憤懣に堪へず、遂に元治元年七月に、長州の家老福原越後國司信濃益田右衛門介等は、士卒を率ゐて、公家七人の官位を復し、敬親父子の誠意を訴へ、入京を許されんことを朝廷に請はんとした。そこで相共に東上して、皇居の諸門に迫つたが、會津薩摩桑名等の藩兵に拒まれて、戦ひ敗れて長州に歸つた。

ここに於て、幕府は勅命を奉じ、敬親父子の官位を削り、徳川慶勝を總督とし、諸藩の兵を出して長州征伐の軍を發した。長州藩では恭順黨が大勢を占め、越後等三家老を自殺せしめて罪を謝し、謹慎の意を表した。そこで總督は、山口城を毀ち、實美等五人の公家を、太宰府に幽せしめることにして、征長の軍をかへした。

然るに間もなく、同藩の士高杉晋作等は奇兵隊を組織し、慶應元年正月に、敬親を奉じて再び兵を舉げた。この時家茂は親ら將として、勅許を得て長州藩を征することになり、大坂まで出陣し、幕府の諸軍

長州征伐と幕府滅亡の機運
第一回長州征伐と長州藩の恭順

第二回長州征伐
高杉晋作

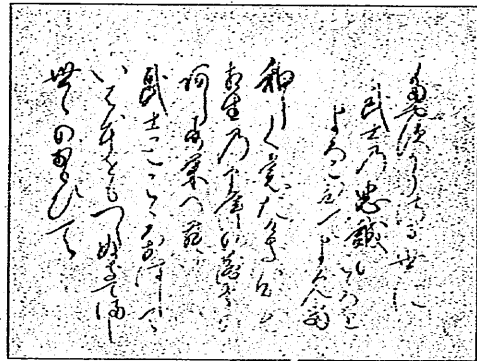
長州征伐がいかなる變を誘ふたか、且、これが幕府滅亡の近因となつたとを解説せよ。

幕府の敗北と家茂の薨去

幕府無力の暴露

皇權の確立と王政復古の大勢
慶喜將軍となる

明治天皇踐祚



孝明天皇御致和親王復讐書

は四方面から進撃したが、各方面とも長州藩のために破られた。かくて幕府の勢威は大いに挫かれたが、この間に家茂は大坂城で薨去した。よつて朝廷から將軍の喪中の故に、征長の軍を止めしめられたが、この役によつて、幕府の大名を統制する實力なきことが、天下に暴露するに至つた。

慶喜は前から上洛してゐて、内外に互つて幕政を統裁してゐたが、家茂について將軍職となつた。時に天皇は國事多端の際、いたく大御心を惱ませられながら、遂に崩御せられた。かくて慶應三年正月、明治天皇は、御年十六歳にて踐祚遊ばされ、勅して征長の兵を解かしめられた。

イギリス等
諸國公使の
大坂來航

兵庫開港の
要求

薩長二藩の
反目

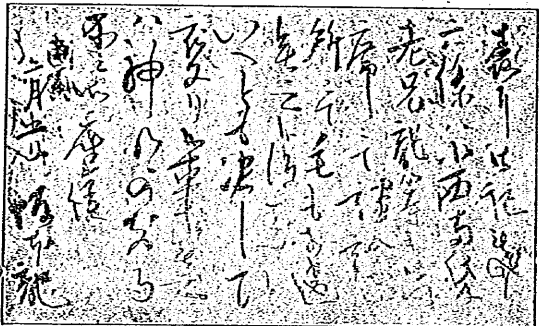
これより先、慶應元年、長州征伐で人心不安の最中、九月にはイギリス、合衆國等の諸公使は軍艦を連ねて大坂灣に航し、條約の勅許と、兵庫開港のことを迫り、家茂も切に勅許を請ひ奉つた。孝明天皇は止むなく、兵庫の開港を除く外、假條約を勅許せられた。ここに於て公使等は、大坂城で新將軍慶喜に謁し、兵庫開港のことを再び迫つた。そこで慶喜は、參内し、強ひて請ひ、明治天皇は、兵庫開港を勅許せられた。かくて内治外交に於ける皇權の宣揚は、漸く我が國政治の固有の本體に、復せるの觀を呈するに至つた。

薩州藩はもと土州藩と同じく、公武合體説を執つてゐた。然るに長州藩は、他藩に先んじて、尊王攘夷論と討幕説とをもつて、藩の輿論として來たので、薩州藩とは一致しなかつたが、元治の變以來、反目は更に甚だしくなつた。されど薩州藩の西郷隆盛等は、幕府の衰頹甚だしく、到底公武合體説に基づく國難打開の困難なることを察した。

薩長二藩の
提携

公武合體派
の過激攘夷
派との提携
融和

天下輿論の
對趨
尊王の輿論
化



薩長盟約の書

偶、太宰府にあつた實美等の命を受けて、土佐藩土坂本龍馬の斡旋があつたので、大久保利通、小松帶刀等と、長州藩の木戸孝允等と共に京都に合議し、國家のため、相携へて事に當るべきことを約した。

この結果、長州再征の時、薩州藩は無名の軍なりとして出兵に應じなかつた。かかる間に實美等の公家と、かねて公武合體説をとつて、京都岩倉村に蟄居を命ぜられてゐた、岩倉具視を始め、同志の公家との連絡提携が成つて、薩長二藩の勢力を中心にした討幕運動が、極秘の中に早くも進められた。

幕府の政策は事毎に輿論の反抗をうけ、長州征伐の失敗と共に、そ

皇室を中心とする舉國一致の國民的自覺

の政治的存在は頗る危殆に瀕した。そして朝廷を中心に舉國一致して、國難打開の方途に出ねばならぬとの國民的自覺は諸大名藩士志士等の間にも漸く盛となつた。それから攘夷討幕を通じて、尊王の大義は弘く輿論の指導精神となつた。

大政奉還と江戸幕府の滅亡

土佐の前藩主山内豊信は、大勢に察して藩士後藤象二郎等をして、書を慶喜に呈し、大政奉還のことを勸告した。慶喜は夙に國體の本義を解し、よく内外の事態に鑑みて、慶應三年十月に、在京の諸士を二條城に集め、大政奉還のことを告げた。そして十四日に慶喜は大政奉還を奏請し、ついで御裁可を賜はつた。かくて江戸幕府は、徳川家

王政復古

康以來十五代二百六十餘年にして亡び、源賴朝が武家政治を創めしより、六百八十年にして大政は朝廷に歸した。

第三節 明治維新

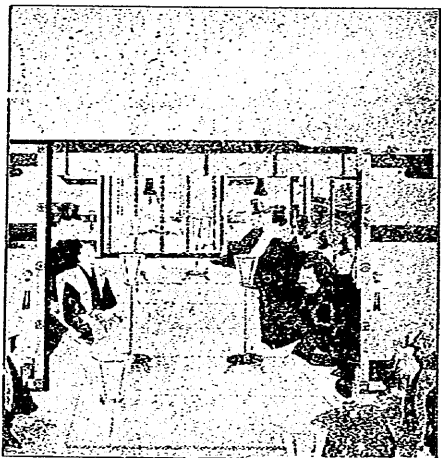
王政復古の大號令

徳川慶喜が大政を奉還し、續いて征夷大將軍の職を辭したから、明

萬機御親裁

治天皇は王政復古の大號令を發せられた。そして從來の攝政關白、征夷大將軍などの官職を廢して、總裁・議定・參與の三職を置き、萬機御

三職



王政復古
(明治神宮徳仁紀念館壁畫)

親裁遊ばされる旨を天下に告げさせられた。かくて王政復古に與つて、勳功を樹てし皇族公家大名を、總裁・議定に、公家諸藩士を擢て、參與とせられた。ここに我が國の政治の本體に基づいて、王政は復古し、公武の隔ても門閥の別も總べて撤せ

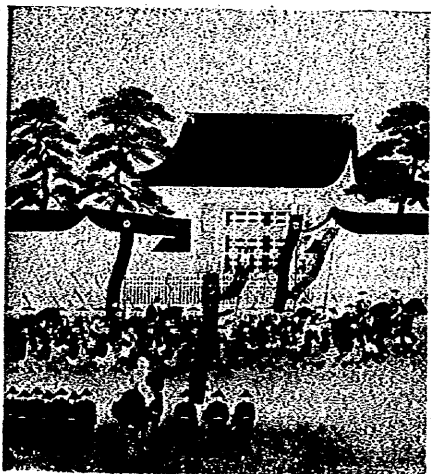
我が國史上明治維新の事業に關しこれを建式と比較してその成敗をよつて生ずるの所以を明らかにせよ。この國史上未曾有の大事業の成功したことが指導的地位に立つた人々の、明確なる國體觀念と更に國民の尊王を基調とする舉國一致の精神とを負ふ所なるを深く記憶せよ。

明治新政の基礎
政變の反動と天下一統

武家政治の
實質

大政奉還に
關する意見
の相違

武家政治の本體は依然存在した。されば幕府の危急を救ひ、公武一致して、國運の興隆を策せんとして、大政奉還を策した土佐藩などと、武家政治を倒し、一新の政治確立を主張する薩州・長州・安藝三藩並びに三條實美・岩倉具視等の公家とは意見の間に大なる懸隔があり、政治の運用に關しても、また意見の相違があつた。



大總督徳川慶喜親王京都御出發
(明治神宮徳仁紀念繪堂)

かくて薩州・長州並びに實美・具視等は、兵力に訴へても、根本的に時局を解決せんとする政策を進めた。そして慶喜は、復古の改革にも與らず、しかも内大臣を辭し、直轄せし土地人民の奉還を強要せられしかば、旗本並びに會

舊幕臣の不
平不穩

鳥羽・伏
見の戦

江戸進撃
と徳川慶
喜の恭順

戊辰の役
反動勢力の
鎮壓

五箇條の御
誓文

津藩主松平容保等は喜ばなかつた。そこでこれ等は、慶喜に勸めて討薩の表を捧げて兵を發し、遂に鳥羽・伏見の兵變となり、慶喜は敗れて江戸城に還つた。

かくて朝廷は、熾仁親王を、東征大總督として慶喜を追討せしめられたが、慶喜は旗本の激昂を抑制し、フランス公使の勸誘を斥けて江戸城を開き、罪を謝し、恭順を旨としたので事が治まつた。されども旗本及び譜代大名の中には、慶喜の恭順を喜ばず、彰義隊の亂及び奥羽函館の役などを起したが、暫くにして東征軍に破られ、佐幕勢力の反動は漸く一統せられた。

新政府は、人心の歸嚮を一にせんとしたので、慶應四年三月、天皇には親しく紫宸殿に臨御せられ、公家・大名等を率ゐて天神地祇を祭り、五事を誓約し、國是を御定めになつた。

一、廣く會議ヲ興シ萬機公論ニ決スヘシ

後醍醐天皇の建武中興の規模と比較して明治天皇の新政府の雄大なるを思へ。明治武中興政治が同様に失政しなかつた所以を各方面から考察せよ。

御誓文の精神

即位御大典と東京奠都

一、上下心ヲ一ニシテ盛ニ經綸ヲ行フヘシ。
一、官武一途庶民ニ至ル迄各其志ヲ遂ケ人心ヲシテ倦マサラシメ
ン事ヲ要ス
一、舊來ノ陋習ヲ破リ天地ノ公道ニ基クヘシ
一、智識ヲ世界ニ求メ大ニ皇基ヲ振起スヘシ
我國未曾有ノ變革ヲ爲ントシ 朕躬ヲ以テ衆ニ先ンシ天地神明ニ誓ヒ大ニ斯國是ヲ定メ萬民保全ノ道ヲ立ントス衆亦此旨趣ニ基キ協心努力セヨ
この御誓文は、實に神武天皇建國の御精神並びに大化改新の理想に則られたもので、眞に明治新政の根本方針であつた。これにより我が内治外交の國是は決定せられ、爾來施設の方針は一にこれに基づき立憲政治の如きも、この御趣旨を擴充したものであつた。
この年八月、天皇には紫宸殿に於て即位の御大典を行はせられ、悉く古制に則つて儀容が頗る盛であつた。そして九月八日に改元して明治といひ、一世一元の制を立てられた。

一世一元

東京奠都とその御精神

皇后冊立

東幸

官制改革



御著島兒鹿幸巡國四國中
(畫壁館畫繪念記德聖宮神治明)

幸あつて、孝明天皇の御祭典を行はれ、左大臣一條忠香の第三女、美子(みこ)を冊立して皇后とせられた。更に翌二年三月に再び東幸あつて、永く東京の地をば我が國の帝都と奠められた。
大政奉還の當初三職を置

東京奠都に際する諸勅
朕萬機ヲ親裁シ億兆ヲ綏撫スハ東國第一ノ大綱ニシテ
四方輻輳ノ地、宜シク政治ヲ臨ミテ其
政ヲ因テ自今江戸ヲ稱セン、是朕ト京西内一家ル所以ナリ
體此意ヲ

太政官七官
と三權分立

かれたが、更に明治元年に官制を改めて太政官に七官（議政・行政・神祇・會計・軍務・外國・刑法）を置かれた。そして議政官には立法を、刑法官には司法を、他の五官に行政を分掌せしめ、三權分立の制を採り、先づ中央政治の機關を立てた。

大寶令に基
づく太政官
官制
六省

正院左院
右院と三
權分立

翌二年七月更に官制を改め、大寶令に則り、神祇・太政の二官を設け、太政官に左右大臣・大納言・參議を置き、別に六省（民部・大藏・兵部・刑部・宮内・外務）を設け、官位十八階並びに勅任・奏任・判任の制を定めた。また四年には更に太政官の官制を改め、左右大臣以下の官を廢し、新に正院・左院・右院を置き、これを行政・立法・議政の府となし、三權分立の政治形式は一層明瞭となり、中央政府の官制が略整備した。この後時々官制の改定をなし、十八年になつて、始めて現今の内閣官制が完備するに至つた。

版籍奉還

當時地方にあつては、先きに幕府の亡ぶや、その所領地は總べて新

府縣藩の存
立

政府の實權
確立せず

地方政治統
一の要
木戸孝允・
大久保利通
の努力

版籍奉還の
成功

大政の奉還
任夷大將軍
の辭任等よ
り版籍奉還
並びに廢藩
置縣が、中
央集權の確
立に本質的
な重大な意
義を有する
理由を、ま
た、これぞ
政治・社會
上の大改革
で、外國な
ら必ず革命
の起るべき
所、我が國
に何等の故
障なく坦々
として行は
れた所に我
が國體の精
華を見よ。



毛利敬親

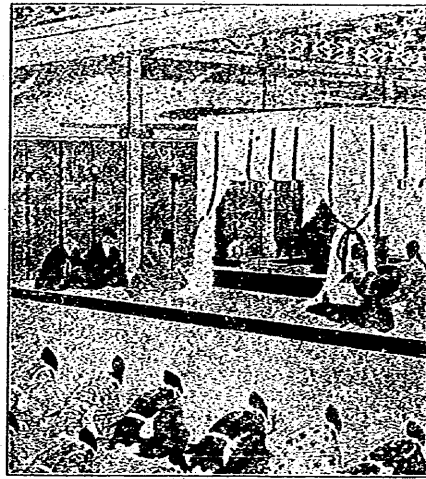
政府に歸したれば、これを府縣として直轄地とした。されど舊來の二百六十餘の諸藩は依然として存し、藩主は兵力を有して封建制は尙持續せられた。されば府縣と藩とは政治上・經濟上それぞれ立場を異にし、全國劃一の政治を行ふことが出来なかつた。また政府の歳入も極めて乏しく、財政の基礎定まらずして政治の實權は確立せず、中央集權の實があがらなかつた。

ここに於て、木戸孝允は、政治の不統一を憂へ、諸藩主をして、その土地人民を朝廷に還納せしめねばならぬとし、大久保利通と議して孝允は長州藩主毛利敬親を、利通は薩州藩主島津忠義を説いた。ついで土佐の山内豐範や、肥前の鍋島直大等も、何れもこれを賛した。かくて明治二年正月に、これ等有力な四藩主が、率先連署して版籍奉還を奏請に及んだので、他の藩主等もこれに

封祿の給與

做うたものが多かった。よつて朝廷は、藩主をもつて知藩事となし、府縣と同様に治めしめ、別に封祿として、收入石高の十分の一を給せられた。かくて全國の土地人民は、悉く朝廷に歸して、我が國の封建制度は全く亡んだ。

廢藩置縣
藩の位置と
地方政治上
の不便



廢藩置縣
(明治御覽繪圖紀念繪壁壁)

版籍の奉還によつて、全國の土地人民は悉く公地公民となつたが、地方政治にあつては、府縣藩は互に不規則に混在し、その管轄する行政區域の廣狹について、大小區々であつた。また知藩事は皆舊藩主であつたから、その藩の士民との間の情誼は俄に改め難かつた。ために動もすれば中央

中央集權に
治と地方分
治と政治の
特色を現
色を現解せ
よ。

全國地方政
治の統一主
張
廢藩置縣の
詔

政府との連絡を缺き、全國の統一は尙困難であつた。

府縣制の整
備

されば孝允利通等は西郷隆盛板垣退助等とはかつて、朝廷の實力を鞏固にして諸藩を制せんとし、親兵を設けて政府の根柢を堅くした。そして四年七月に廢藩の議を決し、天皇は親しく知藩事を召して、内は民衆を安んじ、外は列國に對するには名實相伴ふの策を樹つべき旨を諭され、全國の知藩事を罷め、藩を廢して縣を置き、新に地方官を任命せられた。ここに始めて府縣の制が整ひ、政府は地方行政の便宜をはかつて、府縣の區劃を改め、全國を三府七十二縣に分ち、その後改廢併合が屢行はれ、二十二年には、三府四十三縣となつた。

かくて武家政治の根本組織をなした、知行制に基づく藩の廢止によつて、始めて政治社會經濟の上に、地方分權の制が破れて、中央集權の基礎が確立せられるに至つた。

武家政治根
本組織の崩
壞と中央集
權確立

第六章 立憲政治の確立と自治制度の發達

幕末、内憂外患のため、幕府は措置に窮して、輿論に諮る端緒を作り、また西洋の思想の影響により、輿論を本として、幕政及び藩政の改革を企てる主張も起つた。これが徳川慶喜の大政奉還の一原因ともなつたが、やがて五箇條の御誓文を拜するに及んで、輿論尊重の思想が漸く興つた。

政府も、萬機公論に決すべしとの國是に基づき、明治元年に徴士を天下に求めて參與とし、府縣藩から各貢士を出させて、議定官下局の議員とし、更に公議所を置いた。翌二年に地方から公議人を集めて、制度律令を議せしめ、後に集議院と改稱して、左院に屬せしめた。集議院は、輿論尊重の機關として設置されたが、行政權の強大のため全く顧みられなかつたから、民權を主張するものは、民選議院設立の議

輿論尊重の思想
輿論尊重の思想の由來

我が國に於て輿論尊重の思想が發達して來た由來について理解せよ。

政府の輿論尊重の施設

議定官

公議所

集議院

民選議院論

板垣退助等の民選議院設立の建議

民選議院論の根據

を唱へた。

六年に木戸孝允が、ヨーロッパから歸朝するや、御誓文の趣旨に基づいて、徐に憲法を制定して、國家の基礎を堅固にし、内治を整頓して外交を親睦にすべきを急とし、建白書を政府に出した。これ實に立憲政治確立の階梯をなすものであつたが、時恰も征韓論の旺であつたため、多く顧みられなかつた。ついで征韓論の議に敗れ、西郷隆盛、板垣退助等は、職を辭して野に下つたが、七年一月に退助等は、連署して民選議院設立の建議をなし、これを廣く發表した。その所説は、多く



加藤弘之

フランス革命、アメリカ合衆國獨立の際流行した自由民權思想の影響によつたものであつたが、これが當時の民心に授け、世論喧囂を極めた。これに對し加藤弘之等は、民智未だ進まず、國民輿論の自

時期尙早論

覺なきに參政權を與ふるの弊を述べ、時期尙早として反對した。政府にあつても徐にその制を立て、民智の發達を待たんとするの方針をとつた。

立憲政體の
階梯
大阪會議

我が國に於ける代議政治の確立は、國民の力に迫られ、餘儀なくせられたものでなく、明治新政の根本の精神に則り、政府に於て著るべき計畫を定め、つたものであつたことを注意せよ。

政府の立憲
政體に對する
態度

その後、孝允も參議を辭して野に下りたれば、井上馨は孝允利通及び退助等を大阪に會して、立憲君主政體を創め、議會を開設すべきの議を定めた。かくて退助、孝允等何れも政府に入り、八年四月に天皇は御誓文の趣旨を擴充して太政官の左右兩院を廢し、元老院、大審院を置いて、立法の源を廣め、審判の權を固くせられた。そして地方官會議を開いて、民情を通じ、二院制を參酌して漸次立憲政體を立つべき旨を諭された。これが所謂立憲政體の勅諭である。

元老院
地方官會議

かくて元老院は門地、功勞、學識、經驗あるものを選んで議官とし、地方官會議は府縣の長官を會合せしめて、地方施設を議せしめ、この二者を以て立法院の上局（後の貴族院）、下局（後の衆議院）に擬した。更に十

地方政治に
於ける代議
制の實施

一年七月には、府縣會規則を制定し、始めて民選議員によつて府縣會を開き、府縣の經費を協賛せしめたので、地方經濟について先づ代議制の實施を見た。

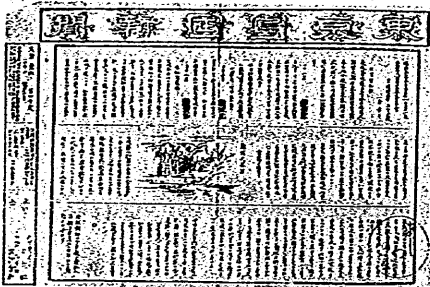
政論の流行
と輿論
言論の發達
と民權說

西南の役後、民間の政治思想は漸く昂まり、政府と意見を異にするものは、専ら言論によつて主張を貫かんとするに至つた。立憲政體

の創設に關し、政府の漸進主義に反對し、急進主義を執るもの多く、自由民權説は輿論化し、諸國有志の國會即開に關し、政府に建白するものが多かつた。

維新後新聞雑誌の刊行盛になり、明治五年頃、東京日日新聞、郵便報知新聞等が創められた。これ等は、初は社會上事變の報道に止まつてゐたが、その後政論が熾なるに

新聞・雑誌
の社會的勢力



（聞新日日京東）刊初の新

フランス革命の思想的源泉をなし、たの民約論の主旨を述べ、我が國情に背反する點を明らかにせよ。そして、かかる説が、殆ど民権論者に暗記せられて、彼等の意見として吐かれるが如き時、國民輿論の自覺を、いかに治安上妨害多かつたかを覺

輿論の熱狂と治安妨害

政府の治安維持

議會開設の大詔

議會開設の詔勅



日本最初の新聞

及び政治政策の得失是非を論評し、國民の政治思想の發達と、輿論勢力の結成に大なる勢力を有するに至つた。然るに當時の言論界は極めて無自覺にして、ルソーの民約論、フランス革命の思想なども、批判なく主張して、熱狂した輿論に、惡影響を及ぼし、國家の治安を妨害することが尠くなかつた。この形勢に鑑み、政府は、新聞紙條例を制定し、更にまた集會條例を發布して、取締を嚴重にした。

されど一方に、國民の政治思想も漸次發達して來たのに鑑みさせられ、十四年に天皇は、明治二十三年を期して、議會を開くべき旨を詔らせられた。ここに於て國論は定まり、官民上下共に議會開設の準備に忙しかつた。かくて議會開設に應じ、政見の實行を期す

政黨の結成

るために政黨が組織された。中にも板垣退助の自由黨と、大隈重信の立憲改進黨とは最も盛で、何れも主としてフランス、イギリスの自由民権の思想に則つたので、我が國情に合せぬところがあつた。またこれ等に對し、福地源一郎等は立憲帝政黨を組織して保守的精神を發揮し、加藤弘之はドイツ思想に基づき、國家主義を唱へ、何れも政府の勢力をなした。

立憲制度の取調

伊藤博文の海外觀察
博文の見識

議會開設の議が定まるに先だち、憲法起草のため委員が任命せられたが、十五年三月、伊藤博文をヨーロッパに派遣せられて、各國の制度、典禮並びに立憲政治の實情を視察せしめられた。博文は當時我が國で、イギリス、フランスの民権思想が盛に唱へられたるに對し、むしろ我が國の國情が、ドイツに類似するの點多きに鑑みて、特にドイツ憲法の研究に最も力を注ぎ、我が憲法構成の準據をここに求めた。そして博文は、歴史と憲法とは重大な關係を有すべきもので、憲法は

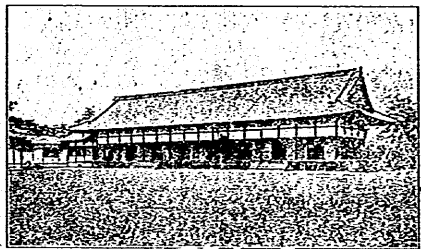
伊藤博文の見識のいかんにかつてゐたかに敬服せよ。そして博文が、國民自由の思想と、國史に基づく我が國體の本質を考慮して、いかに肝膽を碎いたか、その苦心を察せられた

各國の歴史によつて、制定せられねばならぬといふ意見を抱持して、我が國情を基として、諸國の憲法を詳細に比較研究した。

制度取調局
と憲法起草

内閣制度の
創立

宮中・府中
の別
内閣官制と
責任内閣



恩賜憲法記念館
帝國憲法制定記念館に於て、伊藤博文に特によりて
召恩賜、で物建きべす念記し閣に定制法憲國帝
るあでのもたつは賜に文博藤伊に特りよに

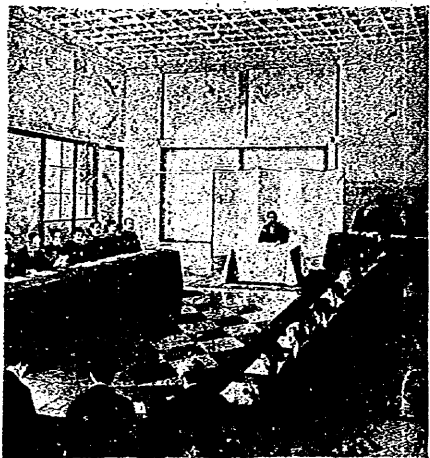
かくて十六年八月、博文等は歸朝し、十七年三月、制度取調局が宮中に設けられ、博文を主宰とし、井上毅、金子堅太郎等を委員として、帝國憲法の起草をなさしめられた。またこれに伴ふ諸制度の調査にも従事せしめ、著々として、議會開設の準備が進められた。やがて十八年十二月に至り、中央政府官制の大改革が行はれた。從來官制は、概ね大寶令に準據して構成せられたが、これを一新し、宮中府中の別を立て、太政官を廢して内閣制度を創立した。そして宮中には内大臣、宮内大臣を、府中には内閣總理大臣を置いて内閣を組織し、政治上天皇輔弼の責に任

宮中府中の別を建てること並びに責任内閣制が天皇は神聖にして侵すべからずとの主旨を確立するの所以である。我が憲法政治の發達運用の上から重要な意義あるを理解されたい。

帝國憲法の
制定
樞密院

帝國憲法の
審議

憲法發布
憲法發布



樞密院憲法會議
(明治神德聖記繪繪館院憲)

じ、八省外務、内務、大藏、陸軍、海軍、司法、文部、農商務、逓信を置いて、諸政を分擔せしめ、博文を第一次の内閣總理大臣に任命せられた。

その後二十一年に、政府は國政諮詢の最高機關として、樞密院を宮中に置き、國家の元勳及び政務練達の士を以て顧問官に任じた。そして憲法草案を樞密院に附して審議せしめ、天皇には始終親臨して御統裁遊ばされ、遂に帝國憲法を欽定したまうた。

る、各般の準備悉く成つたので、二十二年に、天皇は紀元節の佳辰を以て、我が大日本帝國憲法を發布せられた。その時、天皇はこの趣を先

憲法發布及び皇室典範の制定によつて我が國體の確立せる所以を、理解せよ。朕亦諸國に於ける憲法發布當時の事情を想ひ我が國體の精髄について自覺された

皇室典範制定

帝國憲法の特色
欽定憲法
憲法の根本精神

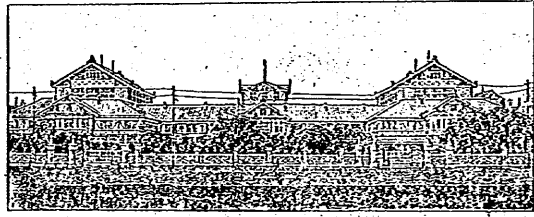


憲法發布兵衛行幸啓
(明治神宮聖德太子記念館聖德堂)

づ宮中奉安の賢所及び皇靈殿に告祭せられた。そして、皇后と共に宮中正殿に出御せられ、皇族・大臣・各國公使・文武の百官、並びに府縣會議長を召して、發布の大典を挙げられた。これに對し國民は國を舉げて歡呼し、大典を奉祝して聖恩の限りなきを謝し奉つた。これと同時に、皇室典範も制定せられ、皇位繼承踐祚、即位、立后、立太子等のことが規定せられた。その形式に於ては、西洋のそれを參照したるも、その精神は、御誓文の趣

帝國議會の開設

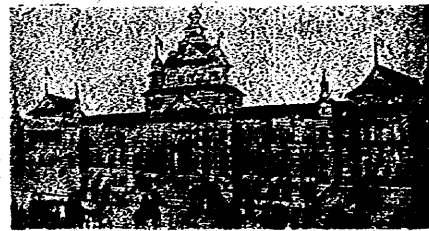
三權分立の體制と政黨政治の發達
行政機關
立法機關
司法機關



西園寺公望

旨を擴充し、更に遠く我が肇國の大精神を發揚せられたものである。かくて帝國憲法と皇室典範とによつて、我が國體は愈萬世不易のものとなつた。

ついで憲法の規定により、二十三年十一月に、第一回帝國議會が東京に召集せられ、

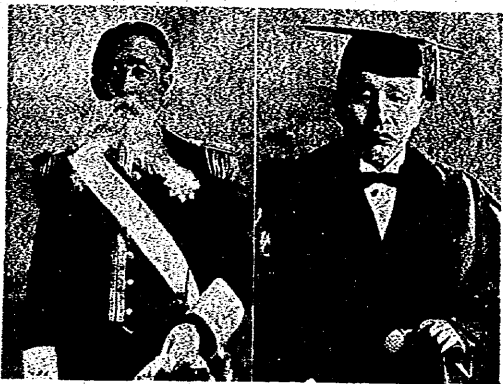


院當の時議事堂

天皇は親臨して、開院式を舉げさせられた。かくて我が國は立憲政體の實を具備し、東洋唯一の立憲君主國となつた。かくて内閣制の創立によつて、行政機關の組織は確立し、議會の貴族院・衆議院の二院制度の制定によつて、立法機關は備はつた。更に二十三年に

三權分立の政治體制の有利なる點を考へなさい。

政府と政黨との關係



大隈重信 板垣退助

内閣官制が十八年に布かれて以來歴代の内閣は自由開進の兩政黨と屢衝突したが、その争は何れも憲政發達に對する、朝野の愛國の至情に基づくものであつた。されば外に對する日清戰役には、舉國一致して對抗し、戰勝を收めた。政黨はその後幾多の離合盛衰の變遷を経たが三十一年に重信が憲政本黨を結成し、三十三年に博文が、

憲政有終の美を濟す所以につき、重要な條件について考察されたい。

政黨内閣の端緒

政黨と憲政

地方自治の發達
立憲政治と自治制度の發達

政友會を組織し、各、その總裁となるに至つて、政黨政治は一段の進境を示した。また日露戰役にも、上下心から一致してよくその國難に當つたが、戰後政府は、政友會を基礎として經營に當り、ここに政黨内閣の端緒がつくられた。その後政黨の變遷はあつたが、政界の分野は、概ね二大政黨が對立し、政黨政治は漸く發達し、政黨に根據を置く議會政治の發達、責任内閣制の發達など、憲政發達の跡は目覺ましいものがあつた。

地方自治制は、憲政發達の基礎となるべきもので、十一年七月、政府は府縣會規則を制定し、十三年三月には、府縣會を開いて立憲政治の楷、梯たらしめた。やがて二十一年に、地方自治制を確立し、市制、町村制が發布せられた。これにより、市町村は一つの自治體となり、各公選議員を以て市會、町村會を組織し、公選の市町村長及び市參事會を置き、行政の事務に當らしめた。ついで二十三年、府縣制と郡制との

江戸時代に於ける自治制

江戸時代に於ける自治制運用の効果

自治制發達と憲政有終の美

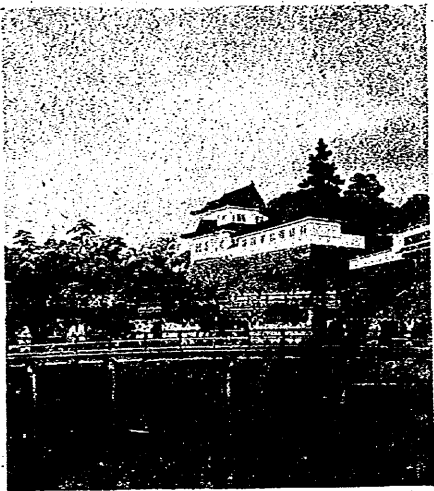
發布があつて、地方自治制は整備して、代議制議會政治發達の基礎をなすに至つた。

我が國に於ける地方自治制の運用は、既に江戸時代に幕府が庶民を治めるために、五人組制度を設けたのに端を發してゐる。そして五人組制度が幕府または藩の政治機關と連絡がとられて、政治が行き亘つた。これがため各町村の間には、それぞれ固有の慣習と不文律とが既に形成されてゐて、町村の政治産業交通衛生教育などに至るまで自治の精神はよく存してゐた。これが明治時代となつて、新に憲政の布かれるに及んで、地方自治制の形式は更に法制的に整へられた。されば自治制は、封建治下に行はれた形式體制と異なつて、御親政の下に於ける國民として、與へられた權利と義務とを國民がよく自覺し、理解して行動するところに意義が存してゐる。これを完全に擴充して、憲政有終の美が始めて濟されるのである。

第七章 現代に於ける經濟文化の進展

現代に於ける我が國運の發展の因由

明治時代に於ける國民生活の發展



東京御著
(明治神宮御德記念繪畫館壁畫)

明治維新後僅か數十年間に於ける我が國際外交上國威の發展は、他方、政治制度の整備、經濟文化の發達と共に、眞に世界歴史上の驚異である。顧みればかかる發展は、正しく明治天皇の聖徳と、御獎勵と、更に皇室を戴く我が國民の國家的國民的自覺に基づく、潑刺たる興國の意氣と活動とによつたのである。

維新以來の歴史を顧みるに、明治初年より十年頃までは旺に西洋文化を攝

明治維新後の我が國運の發展を、ロシアのベロトール大帝治下に於ける發展と、ドイツのドイッシャの統一前後より世界大戦前までに於ける發展とを比較し、其の差を考へられた。

變動時代
内省時代

國民生活の
擴大時代
國民生活の
國際的發展
時代

明治維新と
國家的國民
的自覺

國境確定並
びに隣邦修
好
王政復古
と外交關
係

取して國民生活が激變せる時代であり、十年後、二十三年頃までは、各方面に國民的自覺が次第に起つて、國民生活の内省の時代であつた。そして二十三年頃から明治末年に至るまでは、國運の發展と、これに伴ひ、國民文化發達の旺盛となれる時代であつた。そして大正時代は、明治時代に發展せる我が外交文化思想などが、世界的に進展せる時代であつた。以下これ等の時代に於ける國民生活を本とせる、經濟文化の發達を概観することとする。

第一節 明治初年に於ける國民生活の變動

明治維新によつて武家政治が倒れ、天皇を中心とする君民一體の、國民固有の生活に復歸し、ここに國家的國民的自覺が興つた。王政復古の後、五箇條御誓文によつて、新政府は我が國是を明示し、ついで明治元年、各國公使に王政復古のことを報じ、開國の國是を公式に示された。そして三年に政府はイギリス・フランス・プロシヤ・合

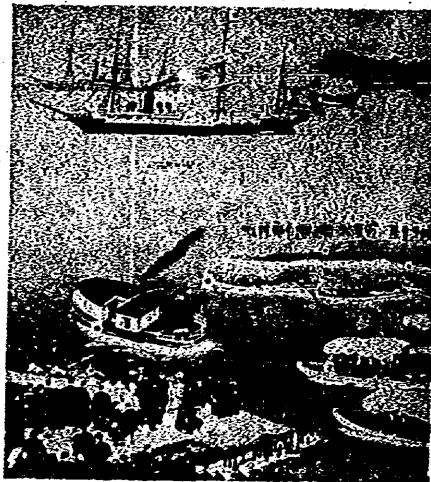
明治初年我が國多事の際、東洋諸國は、何れも諸國も種々分を東方に力をを用ひたれなかつた。事情が、我が國に有利であつたとを思へ。

駐劄公使の
派遣
岩倉大使一
行の歐米視
察

排外思想と
外交事件

●清國との
關係
通商條約

臺灣事件



岩倉大使歐米派遣
(明治神宮聖德太子記念館壁畫)

衆國に駐劄公使を派遣し、また四年には岩倉具視一行を歐米に派遣し、彼我の和親を加へ、條約改正の談判を兼ね、外國の文物制度を視察させた。かくて我が國に於ける攘夷排外思想も、中央集權の確立するに及んで次第に

薄らぎ、外交も漸く順調に赴いた。

我が國は、隣好の誼を重んじて、先づ四年に、進んで清國と通商條約を締結した。然るに琉球の民六十餘人が、臺灣に漂着して、生蕃に殺害せられ、六年にも備中の漂民が劫掠された。これに對して、清國は責任を回避して、生蕃は化外の民であると答へたので、ここに征臺論

◎琉球・小笠原諸島領有確定



話對御のと軍將トンラダ
(畫壁館畫繪念記徳聖宮神治明)

臺灣事件と關係して、我が政府は琉球をして清國との關係を絶たしめ、我が屬領たることを明らかにし、やがて我が版圖とした。小笠原諸島の、我が屬領たることを明らかにしたのもこの頃である。

④ 日露境界
の劃定

境界劃定の交渉

千島・樺太
交換と国境
の確定

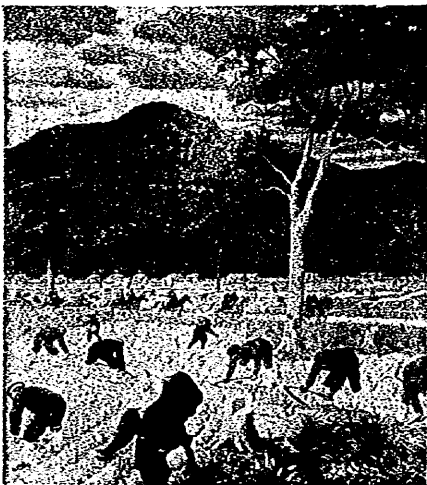
安政元年に、幕府が、ロシアと條約を結びし際には、千島は擇捉以南を我が國に屬し、得撫以北をロシアに屬し、樺太は彼我雜居の地として、境界を劃定しなかつた。その後明治初年に至るまで、屢、交渉を重ねて境界の劃立を議し、容易に纏まらなかつた。その後政府は、北海道の拓殖を進めるに及び、北方境域を劃定せんとし、八年に全權公使榎本武揚をして、ロシアに交渉せしめ、樺太全島をロシアに譲り、千島

朝鮮との關係

當時朝鮮は、國王李熙は尙幼少で、生父大院君（李熙の父）が政を攝し、保守主義をとり、排外政策をとつてゐたので、我が國のみならず、佛・米等の諸國に同じ態度をとつてゐた。

朝鮮の無禮

征韓論盛に起る西郷隆盛等の主張



北海道巡幸田兵衛殿（明治神宮御覽）

の國書形式を破り、朝鮮を屬國視するものとなし、無體にも我が國書を斥けた。その後政府は屢、使者を遣はし、その誤を解かんとしたが、不遜の態度を毫も改めなかつた。ここに於て、征韓論が漸く朝野の間に起り、六年八月に、西郷隆盛は副島種臣等と強硬に征韓論を主張し、板垣退助、江藤新平等は、皆この

全島を我に收めて、多年の紛議が始めて決定した。

朝鮮へは明治元年三月、對馬藩主宗重正をして、王政復古の行はれたことを告げしめた。その時我が國書中、皇祖、皇上等の語を用ひてあつたので、朝鮮は江戸時代から

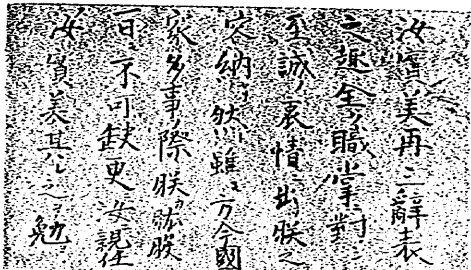
岩倉具視等の主張

征韓論者の退縮

朝鮮の非禮暴行

修好通商條約

征韓論の結末、論者が連袂辭職した當時、新政府の一つの危機であつたことを、當時の種々の形勢から考へられた。征韓論の尙收まらざるに、太政大臣三條實美は疾のため致を辭し、併し當時の世局に處し、實美の適任者がいないので、明治天皇は特に宸翰を賜はつた。これによりよく時局多き想像されたい。



明治天皇御覽

説に賛同した。既にして九月に、かねて海外視察中であつた具視等が歸朝し、世界の大勢を説き、内治を専らにし、國力を充實すべきを主張して、兩派の議論が對抗した。その時に具視が、右大臣として輔弼の大任に當り、斷乎として征韓論を抑へたので、征韓論者は皆職を辭して下野した。

その後八年に、我が軍艦雲揚艦が朝鮮の西海岸を測量中、飲料水を江華島に求めようとすると、その守備兵は不意に發砲したので、我が兵は、これに應戦して砲臺を陥れた。そこで政府は、嚴重に朝鮮に交渉して、その罪を謝し、我が國と條約を結ばしめた。それから朝鮮の自主國たることを認められ、我が國と、平等の權を保有することを明らかにし、元山、仁川

朝鮮の開國
の機運

外交方針の
進歩と歐米
文化の攝取

歐米文化の
攝取と革新
の機運

制度の改善
●學制の頒
布と教育
の普及
●學制頒布と
その時賜は
つた勅諭

の二港を貿易地として開くことを約した。その後朝鮮は漸く開國の機運に向ひ、十三年に我が政府は、京城に公使館を設け、公使を駐劄せしめるに至つた。

我が國と歐米諸國との交際が行はれるに及び、政府は、具視を大使として、歐米諸國に派遣して以來、我が國は旺に歐米の文化を攝取して、内治の改良をはかつた。また數多の留學生が派遣せられ、官民の海外諸國を視察すること多きを加へた。そして我が文化を高めんとする、一般の機運と相須つて、西洋文物の攝取同化の勢はすさまじく、各種の制度、法律、教育、風俗などが、鋭意改善せられた。

國運の發展の本は、國民の教育にあるので、政府は、教育の發展に力を致した。そこで明治五年、學制が頒布せられて、勅諭を賜はり、一般に教育を普及し、國民は必ず就學せしめることとなつた。そして全國到る所に小學校が設けられ、男女六歳にして就學せしめる義務教

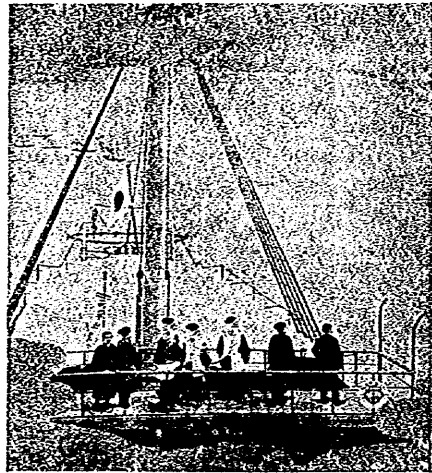
國民の義務
教育制度の
變遷

●徴兵令の
制定

兵制改革の
要

大村益次
郎

山縣有朋



大坂行幸御禮
(明治神宮御禮記念繪畫館壁畫)

育の制が立ち、十年頃には師範學校の制度も定まり、各府縣に設立せられた。それから中學、専門學校等も、漸次に建てられた。

武家政治が倒れたので、兵制の改革が先づ必要となつた。初め政府は、海軍にあつては、舊幕府の海軍を引繼いだ、主としてオランダの制に鑑みたものであつたが、陸軍にあつては、まだ各藩があつたから、

兵制の實權は尙これに存してゐた。そこで大村益次郎は、夙に皇軍建設に關する案を建てたが、まだこれが實現を見なかつた。ついで山縣有朋は、歐米の軍制を視察して、陸軍はフランスに、海軍はイギリスに、その範をとつて

徵兵令發布

軍人勅諭の
下賜

歐米文物の
採用と社會
の面目一新
歐風の攝取



軍人勅諭下賜
(明治神宮御禮繪畫館壁畫)

軍人に勅諭を下されて、我が軍隊の本質を述べ、且、軍人の心得五條を諭され、皇軍の體制と精神とは共に、我が國體に基づき、確固のものとなつた。またこの勅諭は、國民皆兵の制と關聯し、國民道徳上より極めて意義ふかきものである。

當時、人心を一新する必要上、進んで舊習を棄て、歐風を攝り、文明開

文明の進歩

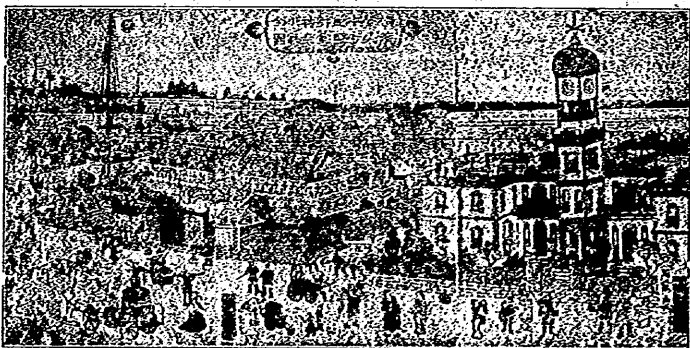
歐風攝取に
よる舊物打
破と歐風萬
能の弊

物質的進歩
のため、東
京上野忍
ヶ岡の東照
宮寛永寺の
境内を閉鎖
し、桑畑茶
畑となさん
とし、日光
廟をも破壊
せんとした
が、木戸孝
允の力で、
停めたのも
この時のこ
とであるを
記憶された

化の聲が上下に叫ばれた。ために我が風俗習慣が改まり、文明の進歩發達は實に目ざましかつた。

かくて歐風攝取による物質文明を尊重するの傾向は、舊物を打破する思想を生じ、封建時代の城郭などを破壊遺棄して、顧みない風を起した。また更に進んでは我が固有の美術工藝品を輕蔑し、國民固有の風俗習慣を排斥して、歐風の萬能を信ずるが如き、誤まれる思想が滔々として勢をもつた。

社會の面目一新 明治四年に散髪並びに廢刀を許され、五年には従來の禮服であつた上下を廢



横浜港本町通

明治初年時
代の人を今
日生存せし
めたるなら
如何に今昔
隔世の感を
もつて現代
を見るか、
各種の點に
ついて想像
された。

新舊思想の
對立

して、西洋服裝を採用し文武官の大禮服通常服の制を定めた。また大陰曆を廢して太陽曆を用ひ、五年十二月三日を以て、新曆の六年一月一日とし、神武天皇即位の年をもつて紀元とし、紀元節を制定した。そして從來の十二刻を二十四時間に改め、祭日祝日の制を立て、日曜を休日とした。その後九年には、士民に對し佩刀が禁止された。かくして諸般の改革が盛に行はれ、風俗が改められた。

また一方物質文明の進歩も著しく、蒸汽船は帆船に代り、汽車、自轉車、人力車は馬駕籠に代つた。當時は汽車を陸上の蒸汽船の意で陸蒸汽といつた。また交通通信に關しても、郵便電信は飛脚、早飛脚に代り、また洋風建築が諸所に營まれて、漸く都市の偉觀を添へるに至り、さきに明治元年の建造にかかる東京築地のホテル館の如きは、忽ちに於て東京の新名所とせられた。またランプ、洋燈、ガス燈は燭燭行燈に代つたが、新文明の用具は多く西洋より舶載されたから、珍しきを舶來品と稱した。また普通には食せざりし、牛肉を食する風が盛となつたのも、歐風の攝取からであり、寫眞も明治の初年から傳はつて錦繪に對抗し、これを壓倒するに至つた。

かくの如く維新以來、政府が政治上社會上あまり急激なる改革をなせるに對し、これを悦ばないものも少くなかつた。かくて自己の

改新政治に
對する反動

政府に對する
不平と地方の騷亂

政治思想の
輸入と帝國
憲法の制定
歐米政治思想の輸入



人の服洋・人のゲマンヨチ・士武の佩刀

意見が政府で容れられないため憤るものもあり、士族の職を失つて窮乏し、舊制を慕ふ保守のものも出た。これ等の不平は、やがて征韓論に敗れて、官を辭し下野した西郷隆盛、江藤新平等に率ゐられて、諸方に内亂を起すに至る機運を醸成した。併しこれ等は何れも早く鎮壓せられて、新政府の基礎が次第に固まつた。

第二節 國民的自覺と國運の發達

歐米文物と伴ひ、各種の政治思想が輸入せられた。そして或はイギリスの憲法主義に基づく自由思想、或はフランス、合衆國の自由民權の思想などが、議會開設の輿論をあふつた。これがために、我が政

我が國情に
即せる内政
の發達

經濟界の進
歩

農業・工業
の發達



啓幸行會覽博業勸國內
(畫壁館畫繪念記德聖宮神治明)

治思想の發達に、貢獻したところもあるが、歐米の文化採用に急なる餘り、多くは我が國體國情に對する自覺を缺いてゐた。されども政府の周到なる指導と畫策と國民的自覺とに俟つて、五箇條御誓文の趣旨に基づき、我が國情に即した輿論政治を、健全に發達せしめ、内治は着々として改善せられた。

立憲政治の準備が進むと、これに伴うて産業貿易も興つた。政府は、明治十年内國勸業博覽會を開いたが、また各府縣でも盛に品評會共進會などが開かれ、政府の獎勵によつて農業工業は旺となつた。また陸上に於ては、鐵

交通・通信
の發達

運輸・通商
の發達

紙幣發行



定治御度制換兌
(畫壁館畫繪念記德聖宮神治明)

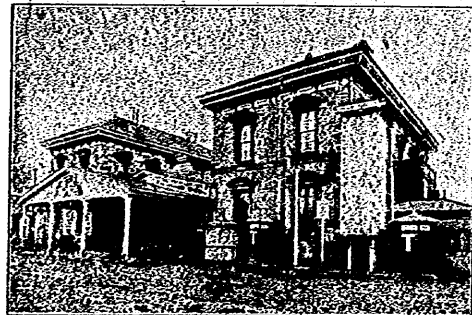
道網を初とし、各種の交通通信機關が發達し、海上に於ては、日本郵船大阪商船などの諸會社が起つて、運輸が便利となつた。これにつれて、商業も興り、外國との通商貿易も次第に開けて行つた。明治初年、政府は財政及び金融の急に資するため、太政官札を發行した。その後明治五年には、各地に國立銀行を設けしめ、これに夥しき紙幣を發行させた。これのために、紙幣の價が下落して物價が高くなり、次第にその弊があらはれた。そこで政府は十五年に、日本銀行を創立し、兌換の制を立て、紙幣を正貨に引きかへる法をとり、日本銀行にこれが特權を與へるに至つて、我

兌換制度の確立

が國の兌換制度は確立した。これがため、經濟界は大いに安定し、工業の發達を促進した。

通信交通機關の發達 郵便は初めて明治四年に東海道に實施せられ翌年既に全國に普及され十年までには制度も改善され萬國郵便聯合に加入した。電信は明治三年に開始され間もなく陸上海底共に敷設せられ十二年に至つて大いに設備も整ひ、萬國電信條約に加盟し、日露戰役には無線電信は大いに軍用に役立ち、戦後は一般にも利用せられるに至つた。また電話は二十三年に東京横濱間に開通したのを初として、全國各都市に架設せられるに至り、更に無線電話も發明されて以來、次第に實用に供せられた。後大正十三年に東京放送局が設けられて、ラジオは重要な國民文化普及の機關となつた。

鐵道は明治五年政府によつて、東京横濱間十七哩餘間に敷設せられたるを初とし、次第に發達し、二十二年には東海道線が開通し、日清戰役の頃には東京青森間、神戸廣島間などの重要幹線はすべて開通せ



新橋驛

られた。これと共に私設鐵道も各地に起り、三十九年には官私鐵道總延長五千哩に達し、その後大正末年には一萬哩を超えた。その間に機關車の速力の増加、線路の改良等によつて輸送力は増大し、車室その他の設備も完備して、眞に陸上交通機關として最も重要なものとなつた。既に政府は三十九年以後鐵道の國有主義をとり、國家が鐵道交通の統制をとることとなつた。

電車は二十八年に京都に敷設せられて後全國主要都市に普及し、水力電氣の發展と共に東京大阪等の大都市の郊外電車も發達した。その後大正末年には一千哩の延長に達し、鐵道の電化も年々行はれるに至つた。

その他の交通機關には明治二年に人力車が發明され、各地に流行を極め、日清戰役の前後には二十萬臺に達し、これと共に馬車も起つた。されど、近時自動車の發達によりこれ等は何れも壓倒せられた。

海上の運輸交通は當初帆船のみ用ひられ、漸く汽船が用ひられるに至つても、明治初年には全く外國船に頼つてゐた。然るに岩崎彌太郎が明治四年に汽船會社三菱會社を創立するに至り、漸次外國船を近海から驅逐し、更に政府の補助を受けて、その發展は著しく、忽ち上海航路を開き、外國汽船と競争した。ついで政府の保護をうけて共同運輸會社が起つたが、十八年に三菱會社と合併した。これが日本郵船會社の起源である。

またこの前後に、大阪商船東洋汽船の二大會社も創立され、何れも政府の補助を得て、遠洋航路を世界各地に開き、四十年には汽船總噸數は百萬噸を超えるに至つた。

信教の自由
王政復古と
神道
廢佛棄釋と
佛敎の覺醒

維新の政治は、開國進取を主義としたが、王政復古に伴なふ復古主義も旺であつた。そして上古の祭政一致を理想とし、神道が勃興して、廢佛棄釋の論が起つた。併しこれがため、江戸時代を通じ安逸を貪つて來た僧侶も、始めて自覺を起し、大いに佛敎の興隆に盡くした。そして佛敎の各宗派は、相寄つて同盟會を組織し、それぞれ教育を盛にし、宗學興隆の端を開いた。

キリスト敎
の傳道

キリスト敎は、維新の初まで禁ぜられて來たが、條約改正問題と關聯し、漸く布敎が認められるに至り、諸外國の新舊各教會は、何れも布敎に努めた。概して新敎は合衆國舊敎はフランスが勢力を占めた。新敎では、新島襄が早く合衆國に渡り、キリスト敎を修めて歸朝し、京都に同志社を建てて、教育並びに傳道に努めた。

キリスト敎の傳道布敎が我が國民生活との關係を保つに於ける宗教と教育との問題につき、後種々の衝突をなしたことを思ひ、キリスト敎の日本生活の立場から重要な意義をさしつけられた。

キリスト敎
の日本化傾
向起る

かくてキリスト敎は、時代の風潮に乘じ、一般の人氣に投じて盛となつたが、我が國體と相容れぬ點があり、偶國粹尊重の思想が勃興するに當り、激しく攻撃をうけた。されど憲法によつて、信教の自由が認められてから勢力も加はつたが、西洋崇拜熱の衰へるに従ひ、その勢も衰へた。そして從來に比して次第にその宗風が日本化し、日本人經營の教會も出來て、健全な發達を見るに至つた。

教育の振興

學制が布かれて後、普通教育が普及すると共に、専門教育も進み、帝國大學並びに各種の専門學校が設けられた。かくて高等教育の機關が漸次備はり、延いて私學の興隆、女子教育の發達なども漸次著しくなつた。

維新後の教育方針の推移
洋學、萬能

維新後の教育方針に就いては、或は國學に、或は儒學の精神によらんとするものがあつたが、政府が自然科學を盛にし、物質文明の發達をば意圖してゐたため、洋學が萬能視せられた傾があつた。また明

自由民權主義

國家主義



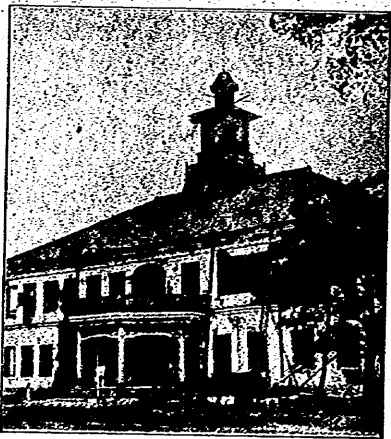
東京帝國大學舉行
(明治神宮德記念繪畫館壁畫)

治五年頃から自由民權の思想が教育界に影響し、自由主義が尊重せられ、道德教育が著しく輕視された。その後十八年頃には、ドイツの思潮によつて國家主義の教育が極端に唱へられ、その他の教育思潮も輸入された。

高等教育の機關 高等教育は、初に舊幕府の昌平校を大學校として教育行政の府とし、開成所で洋學を教へ大學南校と稱し、また醫學所で醫學を授け、大學東校と稱した。その後明治四年には、大學校を廢して文部省を設け、東校と南校とを合はせて、法理醫文の綜合大學とした。これが東京帝國大學の起源である。その後帝國大學は京都を始め東北九州北海道及び京城臺北に設けられ、これに伴うて高等學校及び專門學校も續建設せられた。更に大正七年に、公私立の大學高等學校が許され、單科大學が認めら

れるに至るや、高等教育の機關は急にその數を増した。

また官立學校の普及せざりし明治初年の頃、慶應義塾、同志社、中村正直創立、攻玉舎（近藤眞琴創立）等の私塾で、英學、漢學、數學等が授けられた。就中慶應義塾は、福澤諭吉の創立するところで、明治十五年、大隈重信の創立にかゝる東京專門學校、早稻田大學と並び、その規模も最も大に、且、いづれも獨特の學風を有し、多くの人材を出した。佛教キリスト教各宗派教會の經營する大學專門學校も、漸次建設されて、我が國民教育發達、文化向上に大いに貢獻するところがあつた。



舊帝國大學本部

教育勅語の御下賜と國民道德の確立

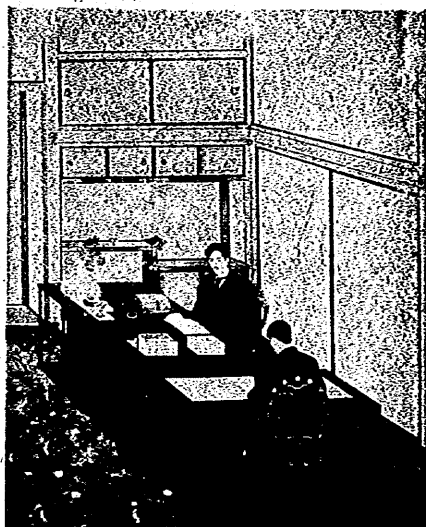
かくて教育の設備は漸く整ひ、教育は普及したが、動もすれば歐米文化に心酔して、我が國固有の道德を輕んずる傾向があり、教育の根本方針が立たず、従つて我が國民道德の根本に動搖を來すの虞があ

教育勅語の御精神

つた。ここに於て明治二十三年十月三十日教育勅語が下賜せられ、我等が祖先以來の傳統的精神を以て、國民精神の根本とし、教育の淵源とすべきことを御諭しになった。これ實に我が國民道德の根本が確立したものであつて教育勅語と帝國憲法とは共に我が國民の永久に準據し格守すべきものである。

儒術の發達

歐米學術の流行



明治神宮聖徳記念館講堂

從來學問の中心となつてゐた儒學は漸く衰へて、歐米學術の流行は時代の風潮となつた。イギリス、アメリカ學の福澤諭吉、フランス學の中江兆民、ドイツ學の加藤弘之等は何れも斯界

自然科學の發達

人文科學の發達とその傾向

歐米學術研究法の應用

文學の發達
傳統文學と
歐米文學

坪内逍遙の
小説眞髓

の先驅者であつた。これと共に、自然科學の發達も漸く興つて來た。また一方、法律、政治、經濟、哲學等の、人文諸科學も頗る盛になつたが、初にイギリス、フランス、後にドイツの學說、研究の輸入紹介が主で、まだ獨特の研究に乏しかつた。併し新なる歐米學術研究法によつて、各方面の研究が進められた。

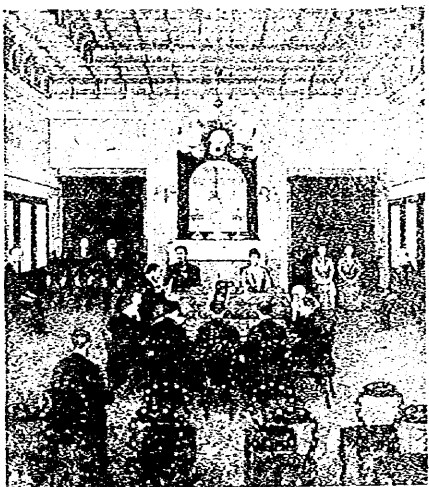
文學も時代思潮の影響をうけて、明治初年江戸時代からの文學者、假名垣魯文は、『西洋膝栗毛』を著はし、當時の社會風俗の急變した狀態を、輕妙の筆致をもつて描いて好評を博し、また明治十五年前後自由民權の政論の盛なるに當り、矢野龍溪の『經國美談』、末廣鐵腸の『雪中梅』、『花間鶯』等の政治小説が流行した。これ等は何れも舊い文學の形式に拘へられてゐて、文學的價值は少かつたが、十八年に坪内逍遙が、『小説眞髓』を著はし、更に、『當世書生氣質』を著はして、寫實主義を唱道し、心理的觀察と解剖的描寫とが企てられ、從來の勸善懲惡の形式を排し

我が國の自然科學の發達は實に目ざましく、十年間に於て、世界の大學者を出し、大發見をなした。科學の獨立が時ばれたるまでに至つた。これが発達したる努力が、有名な學者をあげて見なさい。

國粹思想の
發達の影響

和歌
俳句

美術工藝
舊物打破と
古美術



明治御始
(明治神宮祭祀記念繪館壁畫)

た。

また文學を通じて、小泉八雲(ラフカヂオ・ハーン)・モラエス等の如き、我が傳説や國情を西洋に紹介するものもあつた。

明治初年の極端な歐化主義に對して、熱烈な國粹論が勃興したが、これに伴うて國史・國文の研究が旺に興り、國學が勃興した。和歌にあつては落合直文、俳句にあつては正岡子規が最も著はれ、やがてそれ等の革新運動が起つた。

維新の初には、歐米模倣と舊物打破の風が一世を風靡したから、江戸時代に榮えた狩野派・住吉派等の繪畫を始め、何れも衰へ果てて、僅

明治維新に於ける教育・美術・文藝等に至る迄の發達は、何れも國民生活の向上進歩に在ることを自覺された。従つて、時代が個人をつくり、個人が時代をつくる相互の意義を明らかにされた。

古美術の觀
賞の空氣

フェノロサ
の刺戟

岡倉覺三等
の國粹美術
の尊重

狩野芳崖
橋本雅邦

かに、その命脈を繋ぐに過ぎなかつた。然るに維新後、社會人心も平和になつて、古美術の鑑賞も興り、明治十年頃から博覽會・共進會などが催されて、大いに美術工藝發達の機運が促された。當時合衆國人フェノロサ、ドイツ人ワグネル、イタリア人キッソネ等は、しきりに我が古美術を推賞し、國民的藝術復興の要を説き、大なる刺戟を上下に與へた。これに加へて、外國の美術並

Photostat



フェノロサ

びにその教育を視察して歸朝した、岡倉覺三・濱尾新等も、大いに我が國粹美術の尊重すべきことを説き、二十二年に東京美術學校が開かれ、専ら固有の美術教育が奨励された。既に時勢に壓せられ、苦辛慘憺して僅かに日本畫の傳統を維持し、更にまた洋畫の粹をとつて、新興の畫壇に雄飛したのは、狩野芳崖や橋本雅邦等であつて、何れも狩野派の流を汲んだものである。

工藝美術の
進歩

美術の進歩と共に、工藝美術である窯工、金工、漆工等も、非常に進歩した。就中陶磁器の製作に至つては、明治初年以來内外の博覽會に出品して、噴々たる名聲を博した。これ等のものは、何れも廣く歐米

の趣味を研究して、新味ある意匠を加へ、有田、瀬戸、九谷等も、傳統的作風を改め、美術の改良進歩に努め、七寶燒の如きは、殆ど完成したものであつた。

歐米文化攝取の風が旺になる一方、國粹保存の風も興り、維新當時歌舞伎も一時衰へたが、その後九代目團十郎と、五代目菊五郎とは、共に斯道復興のため大いに努力して、歌舞伎を復興した。また新に興れる西洋劇、並びに新劇も歌舞伎と



座伎舞歌「頓進動」

國粹保存の
思想と固有
の音楽及び
娯樂
歌舞伎劇

新劇

傳統的演藝

西洋音楽の
發達と普及

條約改正
國民的自
覺と條約
改正の運
動

關稅自主權
の喪失

相並んで發達するに至つた。歌舞伎と共に、別に江戸時代に發達した歌舞音楽能樂なども、また依然として行はれ、西洋音楽の流行に對し、傳統的演藝として、特殊の立場をもつてゐる。
西洋音楽は明治初年早くも陸海軍音楽隊に採用され、小學校の教課に入れられて漸く普及し、新に君ヶ代が國歌に制定せられた。明治二十年東京音楽學校が設立されて、洋樂を授けられ、漸次音楽界を指導するに至つた。

第三節 國威の發展と文化興隆

王政復古し、中央集權の政治が完成し、憲法發布を見んとするや、我が國民の自覺は昂まり、早くも條約改正の運動が起り上下の輿論となつた。

安政假條約は、幕府に國際法規に明らかなるものが無かつたので、すべてハリスの草案に據つたから、我が國の不利益なことが尠くな

治外法權

かつた。就中關稅自主權の喪失と、治外法權とは、その主なるものであつた。そのために貿易上、我が國の蒙る不利益は莫大であり、國家の體面を穢すことが多かつた。

さきに岩倉具視が、歐米巡視の際にもこの問題を交渉したが、諸外國に省みられなかつた。その後歴代の政府は、熱心に條約改正を達

●條約改正の交渉の失敗

條約改正のための努力

井上馨の改正案



明治神宮記念館壁畫 (明治神宮記念館壁畫)

成するため努力したが外國の政府の反對と、我が國輿論の強硬なるために、その實現は困難であつた。
しかるに外務卿井上馨は、法權の撤廢をなさんとし、條約改正案を具し各國と商議を重ね、將に成功せんとしたが、その

大隈重信の改正案

條約改正の困難な理由

法律の改正と法典の編纂
法律改正

内容が外に洩れ輿論の反對に遇つてこれを中止し、その職を辭した。かくて二十一年に、大隈重信が外務大臣となるや、さらに條約改正のことに當り、各國別談判の方法によつて、概ね列國の諒解を得て將に成立しようとしたが、朝野の反對が甚だしく、つひに刺客のために傷つけられた。かくて政府もまた、改正のことを一時中止するに至つた。



井上 馨

相次ぐ條約改正の失敗は、國民が國家的自覺を深めて政府の措置に満足しなかつたことにもよるが、又列國が、既得の權益を失ふを欲せず、且我が法典の不備に對し疑懼の念を懷いてゐたからである。政府は早く法典の改正に著手し、明治三年新律綱領が編纂され、特に詔により、江戸時代に於ける峻烈なる刑を廢し、人道上寛恕の意を

江藤新平
の改定律
例

新刑法

體し、成るべく輕減に従ふを旨とした。その後江藤新平が司法卿となり、ヨーロッパ諸國の法律を參酌して、改定律例を撰定した。それからフランス人ボアソナードの助言を得て、政府は更に、新刑法の編纂に著手し、これを十三年に發布した。

諸法典の編
纂と憲法發
布

政府は、條約改正並びに帝國議會の開會に先だち、諸種の法典編纂をなさんとして、法典取調局を置いた。かくて刑法その他各種の法典が、年を追うて編纂され、且、憲法が發布されて、立憲政治が確立したので、我が國情も、漸く列國に理解せられるに至つて、條約改正の交渉

は著しく容易となつた。

陸奥宗光の
努力と條約
改正



陸奥宗光

されば二十五年、陸奥宗光が新に外務大臣となり、多年の宿題たりし條約改正の議を解決せんと努力した。宗光は、先づ通商航海條約について、イギリスと商

我が國際的
地位の向上
と條約改正
の機運

對等の條約
の締結

國際上對等
の地位

法典の整備
と内政の確
立

議し、その同意を得て、二十七年七月調印を了した。やがて日清戰役が開始されて、勝利を得るに及び、我が國に對し、列國の信望が大いに昂まり、條約改正の機運は一層促進され、合衆國、イタリヤ、ロシヤ、ドイツ、フランス等の順序で、何れも改正條約に調印し、三十二年から實施せられるに至つた。

かくて改訂せられた通商條約の多くは、四十四年まで存續期間を有したから、政府は四十三年に、先づイギリスと交渉し、關稅の相互的協定を定めた、對等條約を締結した。それから他の列國とも、條約を新に結び、舊條約の不備に基づく、我が不利な點は全く除かれることとなつた。かくて我が國は、始めて歐米諸國と、對等の地位を占めるに至つた。

條約改正の交渉に動機を得て、諸法典の編纂が早く進められた。それで二十三年に、裁判所構成法、民法、民事訴訟法、刑事訴訟法、商法な

法典の國民
生活化

極東平和保
持と我が國
威の發揚
日清戦役
と三國干
渉



イwakura トモミ



井上 達

どが漸次發布された。その中民法商
法は、條規修正の要があつて施行を延
期し、法典調査會を設けて更に審議修
正の上、民法は三十一年より、商法はそ
の翌年より施行した。また刑法は實
施後も、尙改正の必要を認めて、長い間
研究を重ね、四十年に改訂を加へた。
そして次第に、我が國情國民性に合致
した法典が完成し、内政上の整備と須
つて、國家の威容を加へた。

朝鮮と、修好通商の條約を締結した後、我が國は、朝鮮に對し、銳意隣
邦の好を盡くし、これが開發に努力したが、國內には、我が國に依頼し
て、開明に導かんとする開國派と、守舊派とがあつて相争ひ、十五年の

事大黨と獨
立黨

天津條約

朝鮮東學黨
の亂
朝鮮に於け
る日清勢力
の衝突

戦役の勃發

事變となつた。清國は、我が國が朝鮮を獨立國として認むるのを喜
ばず、依然屬邦視した。

かくて朝鮮には、事大獨立兩黨が、互に政權の争に端を發して、十七
年の變が起り、我が國は清國と對立の立場に立つた。そこで伊藤博
文を、特命全權大使として清國に派し、李鴻章と天津に會して天津條
約を結び、日清兩國は、何れも朝鮮の駐兵を撤し、更に出兵の必要あれ
ば、互に通知すべきを約した。

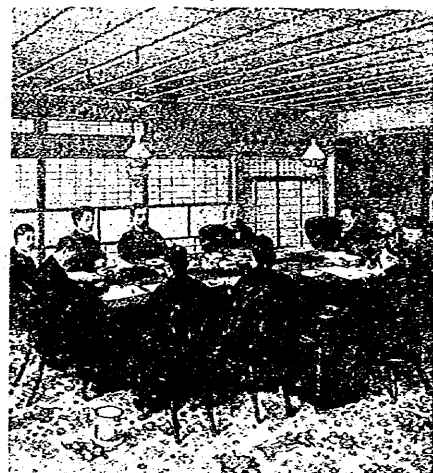
二十七年に、朝鮮では事大黨が政權を得てから、清國の勢力を恃み、
暴政が多かつたのに加へて、諸外國の勢力も日に進展した。これを
憤つて、外教排斥と東學振興を名として、東學黨の亂が勃發した。こ
の亂の善後措置に關し、我が國は清國と共に、朝鮮の弊政を改革せん
とせるに、清國は却つて海陸の大兵を送り、我が國を威壓せんとした。
ここに於て、我が國は朝鮮の獨立擁護と東洋平和のため、清國と開戦

日清戦役の
原因は、清
國の政治的
腐敗、外交
の不振、我
國の勢力が
支那に及ぶ
に對する、
戦不能と考
へた程不安
であつたこ
とと、これ
が戦勝に因
み、我が國
國民の精神
を發奮させ
たといふ。

下關條約

三國干涉と
我が國民の
憤激

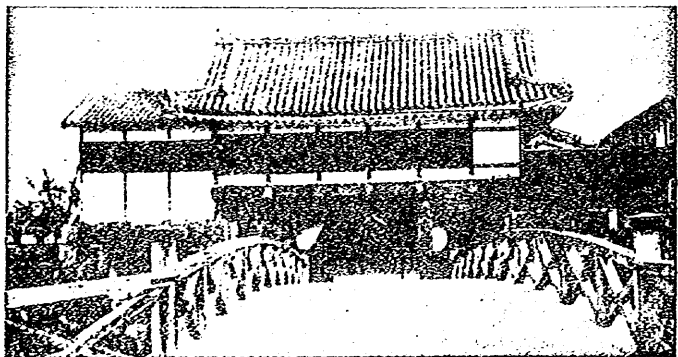
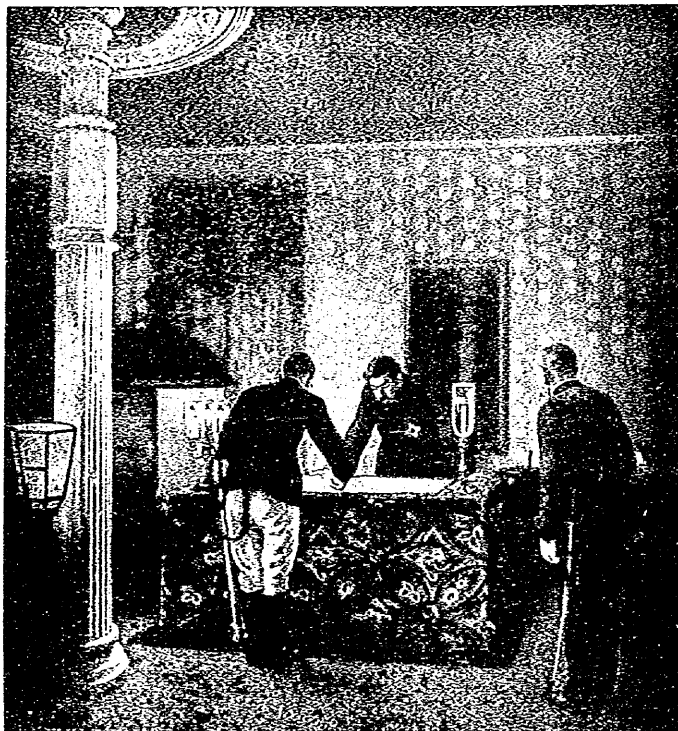
日清戦役後
の我が國際
環境



下關和議談判
(明治神宮御記念館壁畫)

した。戦争には、我が國は連
戦連勝して、二十八年四月、清
國と下關條約を結んで和睦
した。然るにこの條約に對
し、ロシア、フランス、ドイツの
三國が干涉したので、我が國
は戦後の疲弊等に鑑み、イギ
リス、合衆國の態度に徴し、遂
に已むなく遼東半島を清國に還附し、三千萬兩の代償金を收めた。
この屈辱に對し、臥薪嘗膽は國民上下の輿論となり、銳意國力の進展
に努めた。

日清戦役前より諸列強の帝國主義の歩調は、漸く極東に對し發展
し來り、既に三國干涉となつて現れた。そして戦後清國の衰微甚し



上國廣島大本營親裁 (明治神宮御記念館壁畫)
下國廣島大本營正門



圖の臣母帝廢治國外に遷葬



圖 廟 黃

よに匠意の分自が帝ツイド頃の役職清日は岡本
これらへ傳とのもたつ題に帝ヤシロせか畫てつ

歐米列強の
帝國主義

日露戰役と
我が國際的
地位の向上

ロシアの朝
鮮侵略の野
心

ロシアの満
洲侵略の意
圖と極東不
安の租界大連
東清鐵道

きに乘じ、ロシアの極東侵略は、一層活
氣を呈して來たので、アジヤを舞臺と
する、イギリス・ロシア對抗の形勢は、極
東にも齎らされた。

日清戰役後、我が國の朝鮮に於ける
優越權は認められ、銳意内政の改革に
當つたが、ロシアはこれに反對し、あま
つさへ、韓國に迫つて馬山浦の租借を
強要し、朝鮮侵略の歩を進めんとした。

三國干涉後、ロシアは清國と約して、シベリヤ鐵道を滿洲に延長し、
鑛山を採掘し、ついで旅順大連一帯の地を租借し、東清鐵道を敷いて、
シベリヤ鐵道と連絡した。

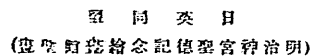
偶、三十三年に北清事變が起るや、ロシアはこの事變を機として、鐵

日清・日露
二戰時の我
が國情から
見るに、我が
國は、當時に
おいて、非常
の困難を打
つた。この
困難を打ち
解したる所
を自覺させ
たい。我が
國が、東洋
の鍵を握る
に、列強の帝
國主義の侵
略を抑へ、事
情を自覺さ
せたい。

開し變分均
 等を保ち、
 尊國に於け
 る我が優越
 權と、滿洲
 に於けるロ
 シヤの鐵道
 經營上の特
 殊の地位を
 相互に認め
 られ、兩國和
 親の基礎とな
 さんと語りし
 が、ロシヤは
 何等反有しな
 かつた。

第一回日英
 同盟の規定
 は、(一)普特二
 國の領土保
 全、(二)日英兩
 國の極東に
 於ける

ロシヤの露
 佛同盟極東
 適用宣言と
 滿洲戰備



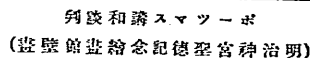
然るにロシヤは日英同盟に對し、露佛同盟が極東にまで、その効力の及ぶべきことを宣言し、益、陸海軍を極東に増派し、旅順の要塞を堅固にして滿洲の戦備を

然るにロシヤは日英同

を締結した。

政治上趨
濟上の利
權の確保
(三)蓋し爾
國の既得
の權益が
他國に脅
され交戦
をなす場
合、他は
嚴正中立
を守り、
若し第三
國が敵國
を助けた
場合には
協同攻撃
をなす
(四)効力期
間は五箇
年であつた。

滿洲に關する條約並びに附屬協定



統領ル

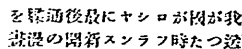
ローズヴェ
Roosevelt

ルトの調停仲裁によつて、三

十八年九月に我が國はロシヤとポーツマス條約を結ん

מאמרים

だ、この條約中、清國に關係する條項につき、更に滿洲に關する條約並びに附屬協定



日露戦役時、合衆國大統領ルーズベルトが、我が遣米特使金子堅太郎とハル・ワット大蔵卿の親交であつた關係から種々の便宜を與へたことに關し、多くの外交秘話があることを記憶されたい。

日露戦役結果

國際的地位の向上
アジア諸國の興奮

西洋諸國民の感情

戦役後の國際情勢

を、清國と締結して、滿洲に於ける我が利益、並びに權利を認めしめた。かくてこの戦役によつて、我が國は遂に世界列強の班に入り、極東平和維持の鍵を握り、列強をして極東領土分割の勢を抑制した。併しこの戦勝の結果は、歐米の間に、我が國勢の興隆を恐れて、或は移民を排斥し、或は黃禍説を唱へて、陰に我を抑へんとするものが、出て、列強の我が國に對する態度も一變した。また我が戦勝により、アジア諸民族にも漸く自覺を與へ、諸民族擡頭の機運をつくつた。

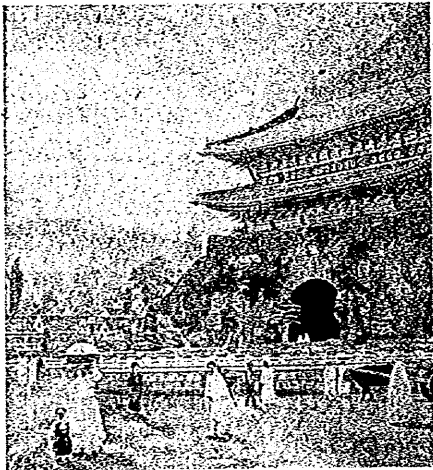
日露戦役中、我が國は韓國の保護に當り、十分信頼せしめて、韓國が



日露戦役結果
(皇宮御製記念館繪畫堂)

韓國併合

保護國
統監



日韓和議
(皇宮御製記念館繪畫堂)

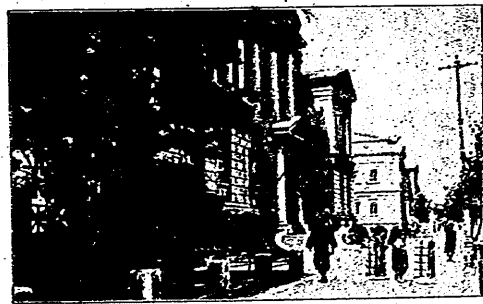
ロシアと協定した、一切の條約を破棄せしめた。そしてポーツマス條約の締結後、我が國は更めて韓國と新協約を結び、韓國を保護國とし、その外交權を收め、統監府を京城に置き、伊藤博文をこれに任じた。その後四十年に更に韓國と約し、統監はその内政指導にも當ることとなつた。

韓國併合

韓國は、永い間の弊政に禍され、一朝にして改革の實を擧ぐるに難く、その治安の維持は極めて困難であつたので、韓國皇帝は民衆の幸福を増進し、且、東洋永遠の平和を期するため、一切の統治權を我が國に譲與した。そこで四十三年に新に條約を結び、韓國を我が國に併

合し、改めて朝鮮と稱し、總督府を設置して政務を總轄せしめ、舊の韓國皇帝並びに世子は、我が皇族としての禮遇を受けられることとなつた。

また日露戰役後、樺太南半は我が有に歸し、樺太廳を設け、これが開拓に努め、内外人の移住を奨励し、産業の振興を圖ることになつた。また我が租借地となつた關東州には、初め總督府を置いたが、後都督府となして民政に當らしめ、關東州の經營と取締に任ぜしめた。明治四十年に、政府は南滿洲鐵道株式會社を起し、滿洲の鐵道の運輸、撫順煙臺その他の鑛業の經營と、各種の事業を起して、滿洲の文化と經濟の開發に努めた。また關東州並びに南滿洲鐵道沿線附屬地の警備のため、關東軍司令官



南滿洲鐵道株式會社本社

日露戰役後滿洲に於ける荒蕪を化して、滿洲文明開發に努め、我が國に力しいに努めてきたか。その想へ。そして滿洲問題に對する我が正當なる主張を理

- 樺太經營
- 關東州及び滿洲經營
- 關東都督
- 南滿洲鐵道株式會社

●日英同盟の改締

- 日露協約
- 日佛協約
- 日米交渉

極東平和の維持の精神
合衆國の滿洲鐵道の國際管理案

●日露第二回協約

第二回日英同盟は、第一回の比して異なる所は、(一)日本の領土に於ける英領の印度に於ける優越權の承認、(二)攻守同盟となり、(三)地域を極東から更に印度にまで擴張した。第三回の同盟は、日露戰爭の際、高き、その責任を免れるため、裁断的仲裁を結ぶ居る國との交戦の際に助ける義務なき條を挿入したので同盟した片務的な

を置き、守備隊を統べしめた。

日露戰役中、日英同盟の效果大なりしに鑑み、兩國はポーツマス條約の將に成らんとする頃、同盟を改訂して、大いにその効力を擴張した。

また明治四十年に、我が國は、フランス、ロシア二國とも協約し、東洋の平和を維持するため、清國の獨立と、その領土保全並びに清國に於ける列強の商業上の機會均等を尊重すべきことを約し、更に合衆國とも、互に外交文書を交換して、極東平和維持について努力した。然るに四十三年に、合衆國は滿洲に於ける鐵道をば、新に國際經營に移管せんことを提議した。この時、我が國とロシアとはこれを斥け、これを機として兩國の親善は益加はり、同年七月に至り、更に第二回の日露協約が成立した。かくして日清戰役以來極めて不安であつた極東の國際問題は、我が國の儼然たる存在を中心として、すべて解決

經濟界の發達
領土擴大と
産業發達

農業の發達

工業の發達
と産業革命

せられ、清國並びに列強との國際關係は益々親善を加へるに至つた。戦役によつて、領土の擴大及び經濟的利權の獲得があつて、新なる市場と富源とにより、農業林業水産業鑛山業等の諸産業は著しく發達した。



皇太后宮田植御覽

(明治神宮聖德太子記念館壁畫)

農業は、政府の保護獎勵の下に、耕地整理の實施並びに歐米の技術及び科學の輸入によつて、品質の改良と、産額の増加の上に大なる進歩をなした。併し産業中、就中、日露戦役の後より最も顯著な發達を遂げたのは工業である。工業は、初め手工業から機械工業に進み、自然科學の發達によ

内國商業及
び海外貿易
の發達

金本位制の
確立



富岡製絲場行啓

(明治神宮聖德太子記念館壁畫)

り、蒸氣電氣を動力として、一般に大工場工業として發展し、分業制の發達と俟つて、大量生産をなし得るに至り、所謂産業革命の現象を見るに至つた。そして紡績工業を始め、各種の工業が發達した。商業も從來は製成品を輸入し、原料若しくは半加工品を輸出してゐたが、漸次原料を輸入して、成製品を輸出するの傾向に變つた。これがために、外國貿易は一段と發達し、特に條約改正の結果關稅の低下は、外國貿易の發達を一層促した。

貨幣制度も、先きに銀を以て兌換する制は、銀の市價の變動甚だし

學藝の興隆
自然科學の
發達

西洋學術の
研究法の應
用

我が國の學
界の傾向

國民自覺と
文藝の思潮

き不便あるがため、本位貨幣に不適當であつた。偶、日清戰役の償金を充當して、銀本位より金本位制に變改した。これによつて、金融上一層安定を見るに至つた。

自然科學は、初め全く西洋に學んだが、この間に異常の發達をとげ、遂に歐米諸國の學界に對抗するに至つた。特に醫學、物理學、化學、地震學、動植物學等については、幾多の世界的貢獻をなしてゐる。また新なる西洋學術研究法によつて、國學史、學等も新しい道程を辿り、我が國史の史料の蒐集、國史編纂は、國家事業として行はれるに至つた。かくて我が學界も、國家の保護獎勵と、専門教育の振興と、各種研究所の設立、各學界の組織などによつて、共同研究が盛に行はれるに至り、國際的の學術的會合にも加入して、世界學界に大いに貢獻するに至つた。

この時代に入つても、西洋文學の感化は益著しく、文學者は所謂藝

明治・大正時代の藝術



柴田是廣 萩木童子



河鍋鳴蒼筆 地獄變相圖



不動明王 狩野芳崖筆



三井寺圖 橋本蓮太郎筆

純文學の
機運

文學各方
面の發展

美術工藝の
發達

繪畫の發
達

術のための藝術を標榜し、純文學が起る機運が生じた。尾崎紅葉と幸田露伴との文學は、森鷗外や坪内逍遙の、西洋文學の紹介と共に著はれた。そして、國民の自覺によつて萌芽した個性の内觀は、文學思潮の上に大なる影響と變化とを齎した。日清戰役の前後より、哲學に大西操、山、文明評論に高山樗牛、俳諧に正岡子規、創作に國木田獨步等出て、文學は興つた。日露戰役の頃には、創作に夏目漱石が出て、和歌俳句などにも革新の運動が起り、種々の主張が起つたが、當時の文學は、一般に自然主義的傾向が著しかつた。

國粹保存の思想が、美術方面にも影響して、日本古來の諸流派の畫法の研究が旺となつて、畫壇は活氣を呈した。また西洋畫も二十六年の頃、黒田清輝がフランスから歸り、光線と色彩とに重きを置く新しい洋畫を傳へ、遂に二十九年には、東京美術學校に洋畫科が設けられ、新進の作家が漸く著はれた。更に高村光雲等を主として彫刻科

彫刻の革新

東西文化の融合
文部省美術
展覧會

國民生活類
廢の傾向と
戊申詔書換
發

國費の膨脹
と國債増加

國民生活の
頹廢
戊申詔書の
下賜

が設けられ、我が國固有の彫刻と、西洋風の技術とが融和されて、一段の進歩を促した。その他、建築染織並びに陶磁器漆器等の製作も、何れも洋風を参酌して大なる進歩をなした。さればこの間に、美術工藝に關する各種團體が起り、大正十年からは文部省が主催して、毎年美術展覧會を開いて獎勵したので、美術工藝の進歩、並びに一般國民のこれが鑑賞に對して、大いに程度を高めた。

國運の發展と、文化の進歩は著しかつたが、國費の膨脹も實に著大となつた。日露戰役の後には、我が國債は二十億を超過し、年と共に増加し、國家の財政は漸く憂慮すべきに至つた。そして日露戰役後、戰勝の榮光に酔うて、國民の間に浮華輕佻の風が旺となり、堅實な民俗風習の頹廢せる、嘆ずべき傾向が見えて來た。明治天皇はこれを痛く御軫念あらせられ、四十一年に戊申詔書を下賜になつて、國民上下心を一にして忠實業務に勵み勤儉産を治め、荒怠相誡め、自彊息ま

慈善博愛事
業と皇室の
聖徳

社會生活の
變動と社會
事業



東京慈恵醫院行啓
(明治神宮御禮記念繪畫壁畫)

ざるべきことが、國運の發展を期し列國福利を共にすべき所以を御諭しになつた。これは永く我が國民の歩むべき方途を御諭しになつたもので、教育勅語と共に國民精神作興の規範となるべきものである。

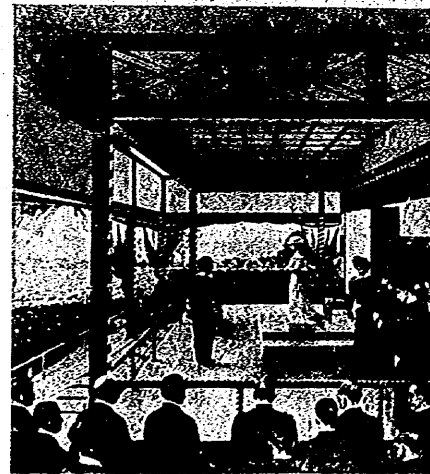
文化の發達と經濟の進歩とは、益、社會生活を複雑ならしめ、貧富の懸隔を大ならしめ、多くの不幸なるものを生じた。これがため、戰時に於ける傷病者平時に於ける貧困者または鰥寡孤獨等に對し、各種の慈善事業が起り、幾多の社會事業も興つた。特に明治十年の西南の役に際し、佐野常民等が起した博愛社

日本赤十字社

は、十九年に萬國赤十字社に加盟して、日本赤十字社と改稱した。そして益々その規模を大にし、日清日露兩役等及び災害には、毎に活躍して救療に當つた。

また明治天皇は、四十四年に御内帑金を賜はり、無辜の窮民の施藥救療の費に充てしめられたが、これを基金として、恩賜財團濟生會を創め、聖旨を奉戴することとなつた。尙この他に慈善救濟事業は頗る多く、幾多の尊い社會事業が、官公私立の諸團體によつて企てられた。

第四節 大正時代



赤十字社總行會
(明治神宮紀念繪畫館藏)

國際上國威の發揚と地位の向上

●世界大戦と我が國

世界大戦と我が國の参加の理由

世界大戦中の我が國の戦績

パリ講和會議

大正時代には、明治時代をうけて、我が國運は更に揚つた。明治時代に於て、我が國は漸次國際的地位が向上して、世界の強國として、東西の平和保持の重鎮となつた。然るに大正三年六月、世界大戦勃發し、その國際的活動は東洋にも及んだ。我が國は日英同盟の國際情誼に従ひ、ドイツに勸告して東洋の平和を保たうとしたが、應じなかつたので、遂に八月ドイツと國交を絶つた。

そこで我が軍は、イギリスと協同して膠州灣に迫り、青島要塞を陥れてドイツの極東策源地を奪ひ、更にドイツ領の南洋群島を占領して、太平洋上のドイツの勢力を全く驅逐した。ついて我が艦隊は印度洋、地中海方面に出動して、聯合軍のために重要な貢獻をなし、一面赤十字社の歐洲戦線に於ける勳功も、顯著なものがあつた。

大戦が終局をつげ、パリ會議が開かれるや、我が國よりは、西園寺公望等を委員に任じて、参列せしめ、イギリス、フランス、アメリカイタ

大戦役によ
る我が國の
所得

皇太子の
御渡歐と
歐洲諸國
御訪問

大戦後の
國際會議



南洋群島の風光

リヤの諸國と共に、五大國の一として、會議決定の樞機に參與し、ヴェルサイユ條約の調印によつて、平和が克服した。この條約によつて、我が國は太平洋上に於ける舊ドイツ領植民地の中、主として赤道以北のもの、委任統治權を得た。またこの會議で規定せられた國際聯盟に加盟し、常任理事國として、世界平和のため重大な地位を有するに至つた。

その後十年三月、皇太子裕仁親王は、御渡歐遊ばされ、イギリス・フランス・ベルギー・オランダ・イタリアの諸國を御巡遊になり、公式に各國の元首を御訪問遊ばされ、親睦を重ねられたことも、我が國の國際的地位を高めたことは大であつた。

更に大戦後國際不安は依然去らず、十年、合衆國大統領ハーチング

ワシントン
會議

主力艦の
制限比率
四國協約
九ヶ國條
約

國民生活の
國際化

が、海軍の軍備制限並びに極東太平洋の平和に關する國際會議を、ワシントンに主催するに當り、我が國は使節を派遣し、イギリス・フランス・イタリア等、諸國の委員と協議した。そしてこの會議で、各國海軍主力艦並びに潜水艦を比率によつて制限し、我が國は主力艦に於て、英米に對し六割、五・五三の比率を有することとなつた。また太平洋問題については、日英米佛四國協約を結んで、平和を圖ることとして、日英同盟は廢棄された。また別に支那の領土主權の尊重に關して、九ヶ國條約が結ばれた。かくて我が國は、英米と比肩して、世界三大海軍國となつた。併しこの時とられた、比率主義に基づく軍備制限の方式については、我が國の不利なる點が多かつたのであるが、關係各國の國際正義に期待し、世界平和のために承認した。

かくて世界大戦、並びに戦後に於ける國際會議を通じて、國威の發展せると共に、國際關係も一段と緊密となり、國民生活は、一層國際的

經濟の發達

工業の發達
と産業革命

色彩を濃厚にするに至つた。



(染工管銅) 部内の業工代近

大正時代に入りても、交通機關の發達、更に金融及び幣制發達等により、政府の保護政策と相俟つて、農業蠶業林業水産業鑛業等、各種生産業の進歩は著しく、就中工業の發達は最も顯著であつた。紡績織物造船等の機械工業は、世界大戰後更にこの機運が盛大となり、大工場が續々建設されるに至つた。かくて大正末年までに、會社の數は約一萬、工場數は約五萬を超過し、資本金は五十億、職工數は約二百萬に達せんとする形勢を來した。かくて製鐵機械紡績造船並びに各種の化學工業など、空前の大發展を遂げ、その製品は世界各地の市場に於て歐米諸

大工業國

商業貿易の
進展
外國貿易の
盛運

外國貿易と
大正大震災

社會問題の
發生と社會
政策

國の製品と優劣を競うて、堂々世界屈指の大工業國となり、輸出を増加した。

かくの如く生産業の發展と共に、通信交通機關及び金融機關の發達により、商業も進展し、特に外國貿易の發達は最も著大であつた。明治四十年には、我が貿易額は約十億圓に達したが、世界大戰が始まるや、金の輸出を禁止し、保護獎勵と統制とのため、海外貿易の發達は目ざましく、大戰中の我が收益は、二十億圓に及んだ。そして大戰後の大正十五年には、約四十七億の貿易額に達した。併し貿易は、年々輸入超過の形勢を致し、大戰後は特に著しく、年々四億を出入し、關東大震災の翌年の如きは、入超實に七億に及び、國際經濟上樂觀しがたきものがあつた。

我が國に於ける産業革命の影響は、大戰後に、特にその傾向が著しくなつて、社會問題が起つた。歐洲では、既に十九世紀の中頃にこの

産業革命の
影響労働爭議
小作爭議

現象が旺に現れた。即ち機械工業、大工場工業の盛になるに伴うて、労働爭議が續出し、農民の間には小作爭議が起るに至つた。これ等の社會問題は、漸く朝野識者の憂慮する所となつた。

人口問題

またこれと共に、人口増加は著しく、大正の末年には、植民地を合して我が人口は八千萬を算し、しかも年々内地のみで、約七八十萬の増加を見るので、人口の密度は漸次稠密となつた。そして、都市人口集中の傾向は著しくなり、労働問題と共に、人口問題、並びに都市に於ける失業者の救済、地方に於ける農村疲弊の救済等、何れも重要な社會問題となつた。

失業者問
題その他政府の社會
政策

政府も、かかる社會問題に直面し、政治の手段によつて、これを解決せんとし、或は工場法を制定して、労働者の保護を計畫し、或は職業紹介所を、各所に設置して、失業救済の事務に當り、或は小作調停法、労働爭議調停法などを制定して、種々の社會政策を實施した。また一面

思想問題と
その弊害
外國思想の
流行

官公私各方面で慈善事業が計畫せられ、社會政策と相俟つて、著々社會生活の改善を圖ることとなつた。

大戰後、國際生活の密接となつた結果、我が國民は、またも外國思想の強い感化を受けた。大戰後、戦争に對する反動から、世界をあげて自由主義、民主主義の思想が盛となつて、この思想は我が國にも輸入せられ、政治教育文藝のすべてを通じて、一時上下を風靡した。

外國思想と
國民生活

も、この思想は、西洋の個人主義、自由主義に基づくもので、我が國固有の國民思想とは相容れぬ點があり、我が家族制度とも背反してゐる。これ等は國際的思想を養ふには適する點あるも、我が國民的觀念と相容れないで、延いて、我が國體觀念を輕んずるが如き弊を生じた。

社會主義

また一方に、社會問題解決のために起つた、社會主義の思想と關聯して、思想界に勢をもつた、マルクスの社會主義の思想は、ロシアの勞

共產主義

政府の政治
的對策

文化の發達

自然科學の
研究

美術の發達

農共產主義の思想と關聯して、世界を風靡し、我が國にも傳播した。この思想に至つては、全く我が國家國體と相容れぬもので、經濟上社會問題と結び實際化せんと計畫するに至つては、實に寒心に堪へざるものがあつた。政府は、極力嚴重にかかる極端なる思想を取締ると共に、種々積極的に思想善導の方法を講じ、國民も舉つて相警めた。この間に我が文化の發達は、顯著なものがあつた。明治時代を通じて、我が自然科學並びに人文科學は、長足の進歩をなして來たが、特に大戦中學問獨立の聲が起つて、醫學及び理學の發達は實に目ざましく、世界的の大研究が續々發表せられ、學界に貢獻した。

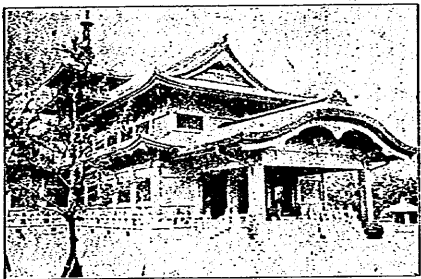
美術は、繪畫彫刻建築工藝の各般に互つて、我が固有流派の大成、並びに西洋の技法の參酌によつて、革新の風を生じた。特に西洋風の個性表現の甚だしき、印象派、立體派、未來派、表現派などいふ流派をも見るに至り、東西美術の融合の事實が著しくなつた。

文學の發達

大正大震災
と國民生活
の變動

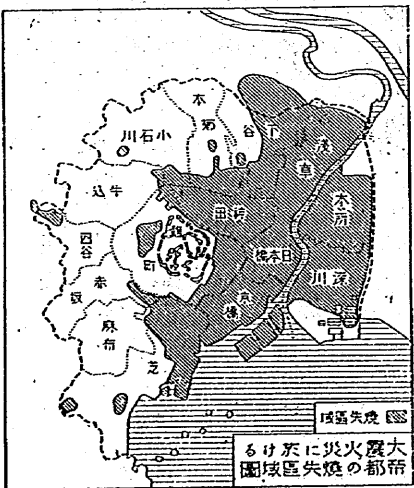
また文學上で特に著しきは、時勢の反映として、個性の内觀に基づく表現が一層寫實的となり、純文學の他に、大衆文學の傾向も興りかけ、更に社會問題と關聯して、階級意識に基づく、文學の發生などであつた。そして文學を通じて、西洋新思想の紹介が賑やかであつた。

大正十二年九月、關東地方に大震災火災が起り、その損害は實に五十



震災記念堂

億圓に達した。この事變に際し、我が國民は大衝動を感じた。この時、畏



國民精神作興の詔書
國民の復興の精神

くも大正天皇は、國民精神作興の詔書を賜はつて、國家興隆の本は國民精神の剛健にありと宣せられ、詭激の説を排し、穩健中正の道を尊び、浮華を去り、質實剛健の風を養つて、國力振興の方途を御諭しになつた。國民も聖旨を奉體して、克く精進努力した結果、數年ならずして災害の復興を見るに至つた。

第八章 世界史上我が國の地位と國民の覺悟

世界史上我が國の發展
我が國の驚異的發展
●國民文化經濟の發展
國民文化の特色

明治維新の後僅か七十年間に於ける我が國運の發展は、實に世界史上の一大驚異である。國運發展の結果、國際上に起る一波一動も、悉く我が政治外交經濟文化に重大な影響を與へるに至つた。

古來我が國民は我が國體に根柢を有する精神文化を有して居た。そして外國文化に對しては常に採長補短の途を講じ、夙に儒教佛教を攝取して我が國民生活に同化し、その精華をすべて集成した。更

西洋の自然科學物質文化の攝取

我が國民文化の國際的進出
固有の精神文化の感化

に最近に至り、自然科學とその應用に基づく西洋文化の長所を認め、これを攝取して我が學術産業の發達に資した。そして自然科學にあつては日本科學の獨立の域にまで達し、幾多の科學的大發見と、世界的大家を輩出せしめ、種々の學術會議を主催し、漸く歐米諸國と肩を比するに至り、科學日本の名も著はれて來た。



理化學研究所

國際生活の進展に伴うて西洋文化の影響を受けたが、我が文化も次第に世界に感化を及ぼすに至つた。從來殆ど顧みられなかつた我が固有文化の眞價が最近認識せられ、これに對する西洋人の關心は次第に高まり、遂に個人主義自由主義を基調とする西洋の精神的文化に一大反省を促すに至つた觀があ

世界大戦・
大震災と我
が國經濟の
不安
經濟不安と
政府の對策

る。新興ドイツ・イタリア兩國民の精神生活に我が國民の皇國に對する滅私奉公の精神の及ぼした感化は大きいものがある。

世界大戦の反動と大震災の影響によつて、我が經濟界は漸次不振となり、やがて昭和二年に經濟恐慌が襲來した。政府は緊縮政策を遂行して財政の縮小を期し、國民生活の節約を奨励し、金の輸出を禁止したが、五年一月にこれを解禁し、それによつて、財政上の危機を脱することを得た。されどその後海外經濟狀態に鑑みて、政府は再び金の輸出禁止をなすに至つた。かく我が經濟も最早孤立するこゝとが出来ず國際的影響を免れなかつた。

◎我が國際
外交上の地
位向上
パリイ會議
ジュネーヴ
會議

世界大戦後、パリイ會議では我が國は五大強國の一として、會議指導の要樞に立ち、またワシントン會議では、イギリス・アメリカ合衆國と共に世界三大海軍國となつた。その後合衆國が主唱して、ジュネーヴで海軍補助艦制限に關し會議を開くや、我が國もこれに参加し、會

不戰條約

ロンドン會
議

議は決裂したが世界平和に對して誠意を披瀝した。ついで、フランス及び合衆國によつて、不戰條約が提案され、國際聯盟規約を援用して、世界の平和を恒久ならしめんとするの議起るや、我が國も列國と共に、これにも參加した。更に五年海軍軍縮に關し、ロンドン會議が開かれるや、また使節を派遣し、英佛伊米の諸國と相會して、補助艦の制限について議し、我が國に不利な條件があつたが、國際正義と世界平和のためにこれを承認した。大戦後、これ等の重大な國際會議及び國際條約を通じて、我が國の國際的地位は次第に重きを加へた。

東亞にあつては、平和の保持を不動の國是とせるに拘らず、支那は、中華民國建設以來最近蔣介石の下に南京政府の支那統一が大いに進められてから、とかく我が國との國交に圓滿を缺いた。北隣ロシアは、共產主義に基づいて、その宣傳を事とし、更に英米佛等の勢力が、東亞に蟠踞して經濟的政治的勢力を張ることに努めた。かくて大

滿洲事變と
東亞新秩序
の建設

大戦後の東
亞の形勢と
諸國の野心

滿洲事變の
勃發と我が
國

關行軍の跡

戰後東亞の平和は漸く危くなつた。

偶、滿洲事變が勃發するや、我が國と支那との關係は、極めて險惡となり、且、滿洲事變に關し、英、米、佛等の諸國は、國際聯盟によつて我が國を壓服しようとした。併し我が國は、あくまで正義を
持し、滿洲を我が生命線とし、滿洲國の獨立をもつて東亞平和の基調とし、滿洲事變から派生せる上海事變にも、終始當初からの信念を一貫した。かくて我が國は、七年九月滿洲國を承認して共同防衛を約した。

滿洲國の承認と國際聯盟脫退

滿洲事變の處理と、東亞の平和確立に關し、我が國は國際聯盟と全くその見解を異にしたので遂に、八年三月聯盟を脫退した。聯盟脫

國際關係の不安

退後も、國際和協を旨とし、ロンドンに開かれた國際經濟會議にも全權を派遣し、列國と協議せしめた。されどこの會議決裂の結果、各國間に於ける關稅障壁はいよゝゝ高められ、その軍備は從來にもまして増強されるなど、國際世局の不安が一層加はつた。

我が工業製品の世界市場獨占の形勢

かかる間に、我が國は、國家經濟の統制と、爲替相場の格安等により、工業上の發展を致し、工業製品は世界市場を獨占せんとする形勢を示した。併し國際不安に處して、各國は次第に自給自足の國家主義的立場から關稅障壁を高め、何れも經濟的勢力圏を設定した。その結果英、米、佛等の所謂、持てる國は、各自世界に於ける廣大な領土と資源とを確保せんとして、新興諸國に對し、不當な經濟的壓迫を加へる趨勢となり、國際的不安の重大な原因をなした。

世界經濟の形勢

我が國はさきに締結したワシントン條約、ロンドン條約の規定を尊重してきたが、國際情勢の變化に鑑み、國防上不安を痛感したので、

國際不安と
ワシントン
條約廢棄ロンドン軍
縮會議支那事變と
大東亞共榮
圈の建設支那事變勃
發前の東亞
の形勢支那事變勃
發

條約の規定に従ひ、合衆國にワシントン條約の廢棄を通告した。ついで、十年、ロンドンで開かれた海軍軍縮會議において、從來の比率主義の不合理を指摘し、各國國防の安全感に基づき、不脅威不侵略の原則に據る、公正妥當な軍縮の方式を主張した。然るに英米は、共同して各自の海上優勢を保ち、我が國の興隆を抑制せんとしたので、我が國は國防自主の立場から軍縮會議を脱退した。爾來列強は、何れも競うて海軍及び空軍の擴張に力め、國際情勢は更に不安を加へた。

この間、我が國は、どこまでも東亞の平和を國是とし、國際正義と和協とを趣旨として、ロシヤ並びに支那に對し、國交調整に努めた。されどロシヤの極東進出の野望と、支那南京政府の排日抗日、毎日の氣勢は日を逐うて熾んとなり、更に兩國の暗黙の提携によつて、支那は容共政策をとり、東亞の不安を重加した。

偶、十二年七月、北支那の蘆溝橋に於て、我が駐屯軍に對する支那軍

の不法射撃に端を發し、遂に支那事變を惹起した。されど我が國は公正なる現地交渉事件、不擴大の方針を持したにも拘らず、南京政府は、列國特にロシヤの援助を待み、幾多の協定を無視して抗戰した。そののみならず、南京政府は、上海に大軍を集結して、我が權益及び居留民の生命財産を脅すに至つたので、我が國は自衛上出兵し、戰は北支那ばかりでなく、中南支にも互る大規模なものとなつた。

事變勃發以來、天皇陛下の御稜威の下に、舉國一致し、忠勇なる我が將兵の奮闘と、燃ゆるが如き銃後國民の熱誠とによつて、到る所に支那軍を撃滅し、早くも北支を安定し、上海を攻略し、首都南京を陥落せしめ、更に漢口、武昌、廣東を始め、支那全土の主要都市を悉く我が勢力の下に置くと共に、全支沿岸を封鎖して、重慶政權に對する第三國の援助を抑止するなど、聖戰五年に互つてその戰果いよく著しいものがある。

支那事變と
皇軍の戰果

東亞新秩序
の建設

我が國は一方滿洲國の發達整備に協力を惜しまず、また支那に對しては、夙に北支に中華民國臨時政府、中支に維新政府等の樹立を助成し、遂に汪精衛が是等政權を統一して、新國民政府を樹立するや、これが援助育成に力を盡くし、以て東亞共榮圈の重要な一環たらしめんとしてゐる。また泰國と佛領印度支那との間に國境に關する紛争が起るや、我が國は東亞の指導勢力として之を調停し、更に佛領印度支那と共同防衛の協定を結んだ。かくて東亞の新秩序は著々と進み、これ等諸國と携へて大東亞共榮圈の建設をなさんとしてゐる。

英米の東亞
共榮圈確立
の妨害

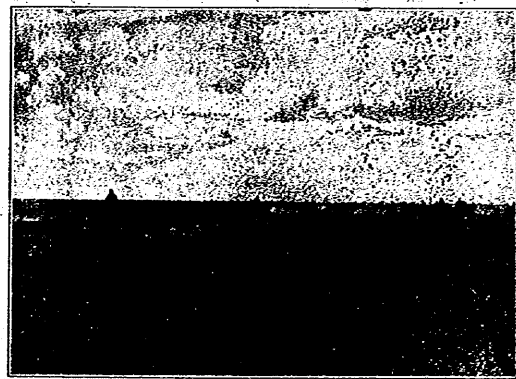
支那事變の處理に關して英米は東亞に有する既得權益を固執し、我が勃興の勢を抑へんとして、絶えず敵性を示し、或は重慶政權を援助し、或は屬領各地の防備を増強し、蘭領印度を使喚して、我が大東亞共榮圈の確立を妨害し、これがため東亞の風雲は刻々不安を増して

日獨伊防共
協定

きた。

日獨伊三國
條約

さきに我が國は獨伊と防共協定を結び、支那に於ける共產主義を抑壓せんとし、ロシヤとの國交は不安となつた。然るに歐洲の國際關係は獨ソ不可侵條約の締結によつて急變し、ドイツは遂にポーランド攻略から英佛と開戦し、歐洲大戰を勃發せしめた。次いで我が國は獨伊兩國と、世界新秩序建設の目的を以て三國條約を締結し



陸軍一軍皇るけハにンハンモノ

た。ここに支那事變は歐洲大戰と關聯して、世界大戰の相貌を現すに至つた。かくて英米二國との對立の氣配は益々濃化され、支那事變も變質して英米に對する前衛戰の態勢となつた。偶、ロシヤとの間

獨ソ開戦と
世界大戰に
擴大の形勢

我が國民の
覺悟

高度國防國
家體制確立
の必要



大東亞戰爭議會

に中立條約が締結せられ、日露兩國の國交の調整が實現されんとしたが、續いて獨ソ開戦を見るに及んで、我が國は、世界大戰への動向を支配する極めて重大な地位に立つに至つた。

事變が長びくにつれ、時局の重大性に對する國民の認識は益深められた。舉國一致の精神は、あらゆる國民運動の上に強調せられ、また政府は國家總動員法を制定して、非常時に處する態勢を整へた。

また各國間の怪奇極まる外交戰に鑑みて、我が國は一層強固なる國防力の必要を痛感し、高度國防の確立に邁進し、その實現のために、國民

國民の覺悟

生活全般に互つて、重大な反省が加へられた。そして、我が國體の本義に即し、大政翼賛の態勢が、全面的に確立され、一億一心、各、臣道實踐、職域奉公の誠を盡くして、聖戰の完遂を期することとなつた。

國史を顧みるに、我が國は古來幾多の時艱に遭つたが、御稜威の下、舉國一致よくこれを克服して、今日に至つたのである。今や皇國未曾有の國難に直面し、我等は聖旨を奉體し、皇國に盡くした祖先の精神に則り、皇國の世界的使命を果し、以て皇運を扶翼し、奉り、國運の隆昌を永世に維持せんことを期さねばならぬ。

新中學國史 上級用 下卷 終

配給元 日本出版配給株式會社
東京市神田區淡路町2ノ9



436

186

